

其職ヲ盡サシムルノ方法ヲ求メサルヘカラス

小學校教員ノ現數六萬有餘ニシテ正當ノ資格アル者未タ其半ニ達セス而シテ資格ヲ與フルノ方法主トシテ學術試驗ニ依ルヲ以テ經驗ニ富メル老成者少クシテ少年ノ輩多シ教育ノ良果ヲ得ルニ於テ憂慮スヘキモノアリ須ク檢定ノ法ヲ改メ任用ノ法ヲ正シ老成ニシテ經驗アリ著實ニシテ善長ナル正教員ヲ増加スルノ方法ヲ講セサルヘカラス

普通教育ノ施設ハ少數ノ兒童ヲシテ完全ノ教育ヲ受クシメンヨリ寧ロ多數ノ兒童ヲシテ國民必須ノ教育ヲ受クシメサルヘカラス苟モ此教育ヲ受クサレハ人其人ニ非ス民其民ニ非サルナリ方今全國學齡兒童ノ就學未タ其半ニ達セス而シテ其殘レルモノハ貧民ノ兒童多キニ居ル之ヲ就學セシムルノ方法大ニ熟慮セサルヘカラス

普通教育モ亦完全ヲ望ムハ固ヨリナリト雖モ貧富ヲ論セス一般人民ノ兒童ヲ督責シテ就學セシムルモノナレハ其施設ハ宜シク國家經濟ノ狀ヲ顧ミ人民貧富ノ度ヲ考ヘ之ニ適合シタルモノヲラサルヘカラス

私立小學校及之ニ類スル各種ノ私立學校ハ教育ヲ普及スルニ於テ其關係少カラス苟モ教育ノ目的ヲ誤ラサランニハ實ニ設備不完全等ノ點ヲ以テ弊害アリト論定スヘカラス之ヲ使用シテ世教ヲ補益スルノ一助トナスヘシ

學政施設或ハ完全ヲ期シテ國度民情ニ適セス却テ教育ノ普及ヲ妨クルノ頗ナキニ非ス教育上ニ經濟上ニ其弊害免カレサル者アリ將來ノ施設上宜シク注意セサルヘカラス殊ニ學校ノ編制建築等ニ至リテハ民度ニ適合セザル者少シトセス須ク簡略質素ノ方向ニ改メサルヘカラス此方案タル外形ニ於テハ或ハ教育ノ程度ヲ下シ教育ノ規模ヲ縮ムルノ觀ナキニ非ス然レトモ實際教育ヲ普及シテ大ニ就學人員ヲ増加スヘキカ故ニ縱令其厚サニ於テ減縮スルコトアルモ其幅ニ於テハ擴張スルニ至ルヘシ學政ノ大體ニ就キテ之ヲ觀察スレハ利アリテ害ナシト謂フヘシ又此方案ハ現今ノ國度民情ニ照ラシテ處分スルニ出テタルモノナレハ自今而後國力ノ上進ニ伴ヒ漸次ニ歩ヲ進ムヘキハ固ヨリ言ヲ待タサルナリ

以上述フル所ハ主トシテ一般ニ就學ヲ督責スル尋常小學校ノ教育ニ關スルモノトス其他中人以上ノ子女ニシテ進ミテ中等若クハ高等ノ教育ヲ受クヘキ者ノ初等教育ニ至リテハ其方法ヲ異ニスヘキモノ多シ注意セサルヘカラス
地方ノ學事ニ關スル普通ノ行政事務ハ成ルヘシ地方官ニ委任シテ其責任ヲ重ンセシムヘシ然レトモ教育上特ニ慎重ヲ要スヘキ事項則チ教育ノ目的方法教科教員生徒等ニ關スルモノハ充分ニ文部省ニ於テ之ヲ表示スヘシ
法令條規煩細ニ過クルトキハ却テ實行ノ障礙ヲナスモノアリ自今學政上ノ諸法規ハ成ルヘク

簡約ニシテ要領ヲ擧ク其細目ニ至テハ地方當局者ニ運用ノ便ヲ與ヘ實際圓滑ニ行ハレシコトヲ期スヘシ

法令具備シ設備宜シキヲ得ト雖モ尙モ監督其方ヲ得サレハ實效ヲ奏スルコト能ハス教育ノ事殊ニ然リトス宜シク監督ハ方法ヲ嚴正ニシ學政ノ實效ヲ擧クルコトニ深ク注意セサルヘカラス本大臣ノ普通教育施設ニ關スル意見概テ此ノ如シ而シテ今回發布シタル諸規則ハ一ニ此旨趣ニ依リテ制定セリ府縣知事ニ於テ今後規定セラル、所ノ諸規則並萬般ノ處分等總テ前陳ノ旨趣ニ依遵セラレシコトヲ希冀ス

明治二十四年十一月十七日

文部大臣 伯爵大木喬任

文部大臣ノ演說

客月十七日ヲ以テ發布シタル文部省令第十一號ハ其令文ニ掲ケル如ク小學校教則ノ大綱ヲ示シタル者ニシテ即チ小學教育ノ標準ナリ

諸君ハ既ニ學識アリ又經驗アリ該教則ノ大綱ニ於テ既ニ其意ノ在ル所ヲ了解セシメタルハ予カ信シテ疑ハサル所ナリ而レモ其第二條ノ如キハ専ラ修身科ノ目的ヲ指示シタル者ニシテ該教則中最モ肝要ナル者ナルカ故ニ今幸ニ諸君ト會同スルニ方リテ第二條ニ於テ指定シタル所以ノ旨

以ノ旨趣ト其包含スル所ノ意義トヲ擧クテ之ヲ陳說スルハ必ス無益ノ事ニ非サルヲ信ス但シ第二條ノ項目ノミニ就テ之ヲ陳說スルハ不足ヲ感スル所アルヲ以テ重複ノ嫌アルニ拘ラズ先ツ初メニ其大要ヲ畧述スルノ止ムヲ得サルモノアリ諸君之ヲ諒セラレコ
夫レ道德ノ問題ニ於テハ古來哲人各其ノ執ル所ノ主義相契セサル者ナキニ非ズ故ニ世ノ人道徳ノ問題ニ涉レハ以爲ラシク是レ某ノ說ヲ取り是レ某ノ論ニ從フト知ラズ道德ナル者ハ其々流派ノ占有物ニ非サルヲ

凡ソ人類カ此世ニ生出シタル以上ハ其人タル所ノ道ヲ踐行セサル可ラカサルハ是レ理ノ當然ナリ而シテ其之ヲ踐行スルノ實務ハ人ノ此世ニ生出スルト同時ニ各自之ヲ負擔シタル者ナルハ疑フ可ラス故ニ人道實踐ノ方法ヲ教示スルハ即チ道德教育ノ本旨ナルヘシ

今我四千有餘万ノ同胞ハ皆是レ日本帝國ノ臣民ナリ則チ其日本帝國ノ臣民タル實務ヲ盡スハ人道中最モ必要ノ事ニシテ若シ之ヲ闕如スレハ我國家ニ對シ其缺徳タル言フ可ク故ニ教育上此實務ヲ盡スノ事ヲ教示スルハ國民教育ノ要旨ナルヘシ

人ハ織テ之ヲ衣ルニ非サレハ以テ其寒ヲ防クナク耕シテ之ヲ食スルニ非サレハ以テ其飢ヲ免カル、ナシ是ニ於テカ百工興、有無相通シ彼此相資ルノ道生シ以テ漸ク其雨露飢寒ヲ凌クヲ得ルナリサレハ人生千緒万端ノ事業中其生活ニ必須ナル者ヲ撰ヒテ之ニ從事スルニ非サレハ

則チ身飢寒ニ迫リ家困窮ニ陥ル是レ人生必然ノ結果ナリ故ニ教育上務メテ空想ノ妄念ヲ斥ク
智識技能ヲシテ着實ナル線路ニ就カシメ誤謬ナカラシメントテ期スヘキナリ

人ヲシテ空想ヲ斥ク其智識技能ヲシテ着實ノ線路ニ就カシメントスルニ方リテ片時モ缺ク可
カラサル所ノ者アリ所謂注意是レナリ是レ唯平易淺近ノ言葉ニシテ理解スルニ難カラサル者
ノ如シト雖モ日常ノ行爲ニ於テ極メテ的切緊要ノ者也夫レ道徳ヤ事業ヤ衛生ヤ人間相互ノ交
際ヤ智識ヲ磨勵スルヤ注意不注意ノ結果ハ其實際ニ於テ啻ニ雲泥霄壤ノミナラサル者アリ例
ヘハ注意スルトナシシテ得タル智識ノ如キハ毫モ活用ノ功ナク空想ト擧フ所ナシ今若シ社會

全般此注意必要ヲ感スルニ至ラハ則チ社會ハ幾層ノ上進ヲ見ヤ亦疑ハサル也故ニ教育上時ニ
臨ミ機ニ投シ見童ヲシテ事々物々ニ注意セシメ其習性ヲ馴養スルコトハ最モ肝要ト爲スナリ
以上説ク所ノモノ即チ小學教育ノ標準ナリ故ニ小學校令第一條ノ旨趣ヲシテ普ク貫徹徹底セ

シメントテ期スルハ予ノ責任ニシテ亦予カ志留ナルコトハ予カ敢テ諸君ニ宣言スル所ナリ又
一言ノ陳スヘキアリ以上述ヘタル所ノ旨趣ハ獨リ學齡兒童ノミ之ヲ踐行スヘキ者ニ非ニ即チ
我輩同胞四千有餘万臣民ノ皆共ニ實踐躬行スル者ニシテ假令教ヲ以テ之ヲ布カサルモ文ヲ以

テ之ヲ示サ、ルモ其實務ハ自カラ四千有餘万臣民各自ニ具存スル所ノ者ナリ之ヲ換育スレハ
此ノ教則大綱ハ我同胞四千有餘万臣民ノ素分トシテ各自ニ固有スル所ノ實務ノ大要ヲ舉ゲテ

以テ之ヲ示シタルニ外ナラサルノミ故ニ小學ノ教育ヲ以テ特ニ此教ヲ定メ以テ四千有餘万ノ
臣民中ヨリ特ニ其人ヲ選ヒテ教育スルモノト誤解スルナキヲ要ス

蓋シ人ノ人タル所以ノ道ヲ踐行スヘシト云フニ於テ誰カ異議ノ存スル者アラザン然レトモ若シ
唯之ヲ汎説シテ其要領ヲ示サ、レハ墨翟駁路ニ泣クノ患アリ是レ教則大綱第二條ニ於テ其要
領ヲ指示シ修身科ノ範圍ヲ明カニセシ所以ナリ

第二條第一項ノ要旨ハ其令文ニ明瞭ナルヲ以テ今復之ヲ説明スルノ必要ナシ然レトモ兒童ノ
真心ヲ啓培シ其徳性ヲ涵養スト云フカ如キハ輕々之ヲ看過ス可カラス深ク留意スヘキノ事ト
爲スナリ

夫レ心理學上ノ説ハ古今哲人其説多々ナリト雖モ千歳ノ上高年ノ下横目縱鼻ノ人類カ其文明
ナルト野蠻ナルトニ拘ハラス真心ヲ有セサルナキハ明カナリ則チ此真心ナル者ハ人類本性ノ
作用ニシテ即チ道徳ノ淵源ナリ故ニ人類萬般ノ行爲上其ノ善長ナル者ハ則チ真心發達ノ結果
多キニ居ル(此他法律及社會ノ制
義ニ依ルモノアリ)

凡ソ社會ハ人類カ此真心アルニ依リ構造セラル、ヲ得ル者ニシテ法律ナリ制度ナリ凡ソ人類
ノ福祉ヲ爲スヲ得ル者ハ一ニ此真心ニ依賴セサルナシ若シ人類ニシテ此真心ヲ磨滅スルニ至
ラハ是レ禽獸ニ均シキノミ禽獸ニシテ安シ能ク社會ヲ成ヌヲ得ン是レ理ノ昭々タルモノ也而

シテ人生千狀万態不其ノ行爲不正ノ暴動ヲ抑壓シ得ルモノ此良心ノ制裁ニ依ルコト吾人ノ信スル所ナリ

然ラハ則チ人皆其良心アルノ故ヲ以テ不其不善ノ行爲ナキヲ附ヘキ乎曰ク然ラス凡ソ人ノ行爲上外圍ノ形情ニ因リ良心往々一隅ニ退縮シテ發達スルヲ得ス隨ヒテ道德薄弱ノ地位ニ陥ル然レモ夫ノ良心ナル者全ク滅亡喪失スルニ非サルヲ以テ亦屢發露スルコトアルナリ若シ夫レ社會ノ秩序紊亂シ人々不其ヲ營ミテ怪マサレハ我亦不善ヲ爲シテ憚カラス不信ノ言不實ノ行悖トシテ耻ツル所ナク社會腐敗スルニ至ラハ良心ノ威觸ヲ運鈍ナラシムル亦怪ムニ足ラサルナリ故ニ人生ノ情態ニ就テ之ヲ言ヘハ良心及道德ハ社會ト相伴ヒテ消長ヲ爲ス者ト想像スルヲ得ヘシ之ヲ要スルニ社會ノ福祉ハ道德ノ盛昌ニ基ク者ニシテ道德ノ盛昌ハ良心ノ發達ニ依ル前述ノ如ク良心ハ時々蔽ハル、コトアリト雖モ凡ソ人ノ生ル、ヤ其初メ未タ惡習ニ染マヌ不其ノ念未タ生セス之ヲ成人ニ比シ純潔ノモノトス然レトモ人ノ幼時ハ極メテ外圍ノ形情ニ左右セラレ易キモノナレハ機ニ投シ變ニ應シ近ク譬ヲ取ト又易ク事ヲ説キ良心ヲ磨磨培養シ以テ德性ヲ涵養センコト緊要ナリトス

今試ニ教員諸君ニ於テ兒童ニ問テ曰ヘ汝等父母ヲ思フヤト則チ其父母ヲ思フト云フノ聲ハ教場ニ滿ツルナラン又汝等父母ノ言ニ從ハサリシ時汝等ノ心情如何ナリシヤト問ハマ智必ス不

快ナリシト答フルナルヘシ又補正成ト足利尊氏トテ比較シテ試ニ之ヲ判セシメテ曰ヘ汝等學レニ左祖スル乎ト則チ其正成ニ與セント云フノ聲ハ亦教場ニ滿ツルナルヘシ

昔元寇十方來テ日本ヲ侵セリ日本ノ人士ハ皆奮戰勇闘身ヲ毀キ骨ヲ碎キ以テ終ニ元寇ヲ退クタリ而シテ其人士ノ名譽ハ今ニ於テ昭々タリ汝等モ亦之ニ倣フヲ欲スル乎ト問ハ、必ス其之ニ倣フヘシト云ノ聲ハ亦教場ニ滿ルナルヘシ此ノ如キノ類亦是レ良心發露ノ一斑ト云テ得ヘシ故ニ事物ニ觸ル、毎ニ叩テ以テ其感覺ヲ惹起セシムルハ教員諸君ノ當ニ務ヘキ所ナルヲ信ス蓋シ良心ハ又實心悔心ノ意ヲ含蓄ス教育上其場合ニ應シ此等ノ念ヲ喚起シ以テ良心ヲ磨培スルコト最モ必要ナルヘシ

又爰ニ附言スル者アリ抑モ道德ノ基礎ハ人心隱微ノ裏ニ在リ人或ハ不其ノ思念發生スルト同時ニ亦善良ノ思念アリテ常ニ其不其ノ思念ヲ抑壓セントス隱微ノ裏人ノ知ル者ナシ而シテ我獨リ之ヲ知ル之ヲ知ル者即チ良心ニシテ其不其ノ思念ヲ制スル者モ亦是レ良心ナリ然ルニ泰西全般道德ノ教育上人心隱微ノ事首トシテ天神ノ制裁ニ依ル者ノ如シ

蓋シ我國ニ於テハ神明ヲ尊崇スルコト臣民ノ分トシテ務ムル所ナリト雖モ我國ノ教育ハ專ラ人性ニ基クテ主義トスルハ顯著ナルコトナラン

但シ良心ハ人皆之アリ是レ天ノ賦スル所人若シ此良心ヲ磨滅喪亡セハ天理ノ救ザ、ル所自然

ノ數ナリ故ニ曰ク積善ノ家ニ餘慶アリ積不善ノ家ニ餘殃アリト之ヲ以テ天罰ヲ畏レテ行爲ヲ
慎ムハ世俗ノ常ナリ若シ一知半解ノ理論ヲ以テ妄リニ之ヲ打破スルカ如キアラハ予ハ甚ク社
會ノ爲メ其危險ヲ恐レサルヲ得ス學校ニ於テ甚ク注意ヲ加フヘキノ一事ナリ

第二條第二項ニ掲クル者即チ人道實踐ノ方法ヲ示シタルモノニシテ其列記シタル者ハ其細領
ナリ之ヲ擴充シ之ヲ推究スレハ其意ノ含蓄スル所亦自ラ明カナルヘシ孝悌友愛仁慈信實禮敬
ハ讀ミテ字ノ如シ仁慈以下ニ就テ含蓄スル所ノ意義ヲ陳述スヘシ

仁慈ハ仁慈ノ心ヲ施シ博ク愛憐スルノ意タルニ外ナラスト雖モ愛ニ尙一層ヲ進ムヘキ者アリ
其仁慈ノ心ヲ推廣メテ以テ物ニ及ホスト云フコト是レナリ凡ソ人間相互ノ間ニ於テ仁慈ノ心
ヲ加ヘサル可ラサルハ固ヨリ言フヲ待タス苟モ良心ノ在ルアツテ夫ノ物類ヲ虐使スルカ如キ
ハ亦忍ヒサル所ナラスヤ是レ亦仁慈ノ範圍内ニ包含スル者タルヲ知ルヘシ

信實モ亦讀ミテ字ノ如ク人ニ對シテ言行背反セス己レヲ盡スニ實ヲ以テスヘシトノ謂ナリト
雖モ此中ニ又責任ナル者ヲ包含スルコトヲ知ルヘシ

夫レ社會相互ノ間凡百ノ事物相運轉活動シテ凝滯スル所ナク獨リ凝滯スルナキノミナラズ又
社會ノ福祉増進スル所以ノ根基ハ其有形ト無形トニ拘ラス人各其負フ所ノ責任ヲ盡スニ在リ
若シ各人カ其責任ヲ盡スコトヲ怠ラハ百事百物皆信ヲ置ケ能ハス敗壞退轉シテ社會ノ不幸焉

仁慈

信實

禮敬

レヨリ甚シキナカルヘシ故ニ行爲ニシテ其責任ヲ盡スニ志ルモノハ之ヲ信實ノ行爲ト謂フ
得ス故ニ信實中自カラ責任ナル者ヲ包含スルモノトス

禮敬モ又讀ミテ字ノ如シト雖モ又輕々之ヲ看過ス可ラス夫レ禮ハ社會相互ノ間寸刻ニ離ルヘ
カラサル者ニシテ其大其小包テサル所ナシ而シテ禮ノ主トスル所ハ敬ナリ故ニ曰ク禮ニ敬セ
サルナシ又曰ク禮ハ宜シキニ適ス此二語ハ即チ禮ノ真相ニシテ社交第一ノ眼目ナリ禮式ハ敬
ノ形ヲ顯ハシタル者ナリ其無形ニシテ敬ノ存在スル所モ又禮也其形ヲ成シタルト其形ヲ成サ
ハルトヲ問ハス人皆以テ由ラスンハアル可ラス故ニ禮ハ百行ニ通シ萬事ニ涉ル者ニシテ要ス
ルニ唯敬ノ在ル所ナリ故ニ之ヲ大ニシテ邦國相交ル禮ニ非サレハ攝セス之ヲ小ニシテハ一言
ノ微一行ノ細ト雖モ禮ニ非サレハ行ハレヌ凡ソ人類ノ自由ト云ヒ權利ト云フ又皆禮敬ニ由テ
而シテ後能ク行ハル、ヲ得

夫レ所謂權利自由ナル者ハ己レ獨リ之ヲ行フヲ得テ人之ヲ行フヲ得サル者トセン乎人ハ當サ
ニ笑ハントス其背理ノ甚キヲ試ミニ思ヘ人誰カ己ノ欲セサル所ヲ欲シ己レノ惡ム所ヲ好ム者
アラン乎故ニ己カ權利ト自由トヲ重ンセント欲スル者ハ又人ヲ毀傷ス可ラス然ラハ則チ傲慢
也誹謗也妄語ナリ皆禮敬ヲ失スル者也故ニ禮敬ノ裏面ニ就テ之ヲ戒メスンハアル可カラス
孝悌友愛ハ親子兄弟朋友ノ間ニ於ケル道ニシテ百行ノ基タルハ固ヨリ論ヲ待タズ仁慈信實禮

孝悌友愛

義勇恭儉

敬ハ廣ク人ニ對スルノ道ナリ人ノ交際上親疎厚薄アルハ固ヨリナリト雖モ既ニ廣ク人ニ對スルノ道ナル以上ハ地球上人類ニ對シ之ヲ踐行スルハ人ノ當ニ爲スヘキノ道ナリ

義勇恭儉ハ人ニ對スルノ道ナリ然レトモ二者ハ自カラ守ルニ就テ之ヲ首フ則チ勇ハ一日モ無ル可カラス若シ夫レ人ニシテ勇ナクハ其爲サント欲スルニ當リ躊躇逡巡成功ヲ誤マルニ至ル凡ソ活潑ノ氣象ト元氣ト有シ國ノ爲メ身ヲ殺シ骨ヲ碎クカ如キハ皆是レ勇ノ作用ナリ故ニ人ニシテ勇ナクハ鳥ノ翼ナク獸ノ足ナキニ似タリ然レトモ勇ニシテ義ナクハ眞ノ勇ニ非サルナリ故ニ勇ト義トハ須臾モ離ル可カラス又人ノ行爲ハ檢束スル所ナカル可カラス然ラサレハ不測ノ災害ヲ惹起スルニ至ル故ニ恭儉ハ正當ナル檢束ナルヲ知ルヘシ

尊王愛國

凡ソ其國民タル者ハ國君及國家ニ對シテ忠節ヲ盡スハ至當ノ事ナリ日本國ニ生レ日本國民タル者ハ誓テ尊王愛國ノ志氣ヲ養成シ居常 皇室ノ爲メ日本ノ爲メ忠節ヲ盡スコトヲ忘ル可カラズ天皇ハ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミ日本ヲ統治スタマフノ元首ナリ須ク一意一心

日本國ニ生レ日本國ノ臣民ナレハ勇壯活潑日本國ノ爲メ忠節ヲ盡サ、ルヘカラス此志氣ヲ養成スルハ國民教育ノ骨子ニシテ一日モ忽ニスヘカラアル者ナリ但シ其志氣ヲ養成スルニハ能ク之ニ專歴ヲ示シ以テ感動スル所アラシムルハ肝要也是レ歴史教授ノ最モ注意スヘキノ所ナリ

國家ニ對スル義務

孝悌以下ハ皆人道實踐ニ於テ一モ缺ヘカラサルハ勿論ナリト雖モ若シ尊王愛國ノ志氣微弱ナルハ日本國民タルノ道ヲ缺キ百行ノ善モ尙價フニ足ラサル者アリ如何トナレハ國家ニ對スルノ缺徳ハ各個人ニ對スルノ缺徳ヨリ其害一層大ナレハナリ是レ本條文中「殊ニ」ノ文字ヲ冠シ人道實踐ノ方法ヲ授クルニ於テ殊ニ尊王愛國ノ志氣ヲ養成スルコトニ務メシムル所以ナリ

夫レ尊王愛國ノ志氣ヲ養成スルノ外又國家ニ對スル義務ヲ知ラシメサルヘカラス愛ニ國家ニ對スル義務ノ何タルヲ舉クレハ租稅兵役服從等ノ義務ノ類ノ如シト雖モ尙一步ヲ進メテ其無形ナルモノニ及サハ更ニ又緊要ナル者アリ私ヲ以テ公ヲ害スルナク小ヲ見テ大ヲ忘ル、ナク國家即チ公ニ奉スルノ思念ヲ單純專一ナラシムルト云フコト是ナリ吾人各自ハ國家ニ奉スルノ思念ヲ一ニシテ以テ國家ノ福祉ヲ計ラサルヘカラス故ニ吾人ガ國家ニ對スル所以ノ者ハ一個ノ人ニ對スルヨリモ其關係甚大ナリ故ニ國家ニ對スルノ義務ヲ盡サ、ルモノハ一個ノ人ニ對スルヨリモ其缺徳タル又深シトス故ニ吾人ガ國家ニ對スル義務ヲ盡スハ一個ノ人ニ對スルヨリモ其美德タル又高シトス教育上ノ注意怠ルヘカラサルナリ

凡ソ人ノ不長ナル行爲ヲ防制スルニ法律ヲ以テスルハ其形シタルモノヲ制スルニ止マリ背徳ノ行爲ヲ制スルコト少シトス然ルニ人ノ行爲千緒萬端道德上ニ關スルモノ多キニ居ル若シ人ノ行爲ニシテ法律ノ制裁ヲ以テ限度トセハ人ハ殆ト禽獸ニ近キニ至ルヘシ如何トナレハ人ハ

前已論述ヘタル如ク外國ノ形情ニ感染シテ良心又退縮スルコトアルヲ以テ其行爲ハ往々不
 良ニ傾向スルニ至レハナリ此場合ニ於テ之ヲ防止スルモノハ編リ社會ノ制裁アルノミ假令良
 心ヲ以テ不良ノ行爲ヲ抑制スル能ハサルニ際スルモ社會ノ排斥ヲ恐レテ以テ其行爲ヲ制止ス
 ル場合甚タ多シトス故ニ社會ノ制裁ハ常ニ良心ノ援助ヲナス者ニシテ思慮良心アリト雖モ若
 シ社會ノ制裁ナクシハ良心ハ常ニ孤窮ノ境遇ニアリテ其發達ヲ失フニ至ラン然ルニ人若シ社
 會ノ排斥ヲ懼レサルアラハ社會ノ制裁其効力ヲ損シ効力減スレハ人益々之ヲ懼レサルニ至リ
 社會ハ遂ニ不良ノ域ニ陥ルヘシ而シテ人カ社會ノ排斥ヲ顧ミサルニ至ルモノハ是レ其廉耻ノ
 重ンスヘキヲ知ラサルニ依ル故ニ廉耻ノ重ンスヘキヲ知ラシムルハ他育上又緊要ノコトナリ
 要スルニ人ハ廉耻ヲ重ンセサレハ社會ハ常ニ蒸騰散積スルニ至ラン管子曰ク禮義廉耻之ヲ四
 維ト云フ四維不振國則滅亡スト
 若シ背徳ノ行爲アルモ恬然トシテ耻ツルナク廉耻ノ何物タルヲ顧ミス表裏反覆詐偽是レ競ヒ
 苟モ免カル、ヲ以テ得策トシ不徳ノ行爲不善ノ果止日ニ相積ミテ全社會ニ充塞スルニ至リハ
 是レ之ヲ何トカ謂ハン故ニ社會ハ常ニ其制裁ヲ嚴ニシ人ハ應サニ廉耻ノ重スヘキヲ相知リ依
 リテ以テ社會及國家ノ品位ヲ上進シ風ヲ正シ俗ヲ直クシ以テ其福祉ヲ増進センコトヲ野ノサ
 ルヘカラス教育上最モ意ヲ用フヘキノ一事ナリ

以上述フル所ノ事項ハ日本國民タル者ノ踐行セサルヘカラスナルモノナルヲ以テ其程度ヲ量リ
 之カ宜シキニ適セシムルハ教員諸君ノ方寸ニアルヘシト雖モ之ヲ取捨スルヲ爲サスシテ假令
 淺キモ其全體ニ涉ラムヘシ

高等小學校ニ於テハ較々深ク之ヲ教ヘ陶冶ノ功ニヨリ益々其志操ヲ堅固ナラシムルヲ務ムヘ
 シ諸君宜シク堅固ノ二字ニ意ヲ置レンコトヲ望ム

女兒ニ在リテハ素ヨリ男子ト異ナルアルモ其國民タル所ノモノハ一也但シ活潑ナル元氣ヲ養
 成シ國家ノ難ニ赴クヘシト云フカ如ク之ヲ直接ニ磨勵スルハ過キタル所ナラン然レトモ其意
 ハ常ニ存セサルヘカラス如何トナレハ女子ハ家庭教育ノ訓導ナレハナリ又貞淑ノ美德ヲ養フ
 ヘシト云フハ女子ノ本分タルコト言ヲ待タサル所ナリ

從來修身ノ教授ニ於テハ古人ノ嘉言善行ヲ以テ目的トナセルモノ、如シ今第二條ニ於テハ特
 ニ修身科ノ目的ヲ明記シ古人ノ嘉言善行ノ如キハ兒童ノ感情ヲ惹起シテ此目的ヲ達スル爲メ
 引用例證スル所ノ具トナスニ過ギサル者トセリ其勸戒ヲ示スト云フカ如キハ事ノ表裏ヲ示シ
 タル者ニシテ表面ニ之ヲ勸ムレハ裏面ニ之ヲ戒シムルノ謂ナリ例ヘハ孝悌ハナスヘシト云ヒ
 又不孝不悌ハナスヘカラスト云フカ如シ蓋シ事ハ表裏相待テ始メテメノ完キヲ成ス者ナレハ
 表面ニ關スル事ヲ授クルト同時ニ又其裏面ニ包含スル所ヲ探究シ之ヲ舉示シテ以テ教訓スル

ハ亦必要ナルヲ信ス

抑モ普通教育ハ社會及國家ノ福祉ト品位トヲ増進發達スルヲ以テ目的トスルコトハ前已ニ陳述セシ中ニ就テ諸君ハ既ニ詳知セラレタルナラン故ニ殊ニ修身科ニ於テハソノ目的ニ依リ務メテ兒童ノ感情ヲ惹起シテ以テ日常人ノ當ニナスヘキ所ノ道ヲ實踐躬行スヘキ方法ヲ指示訓練スルニトヲ要ス

教科書ハ教育上至大ノ關係ヲ有スルモノナリ子世間ノ教科書ヲ閱スルニ梁ニ充テ馬ニ汗スルノ多キアリ而シテ嘉言善行ヲ學クルモノ多クハ異常勉勵ノ事ヲ以テ標準トシタルモノ、如シ伯夷叔齊カ首陽ノ山ニ飢ユタルハ予又甚々尊崇スル所ナリ然レトモ一般ノ人ニ向テ之レヲ目的トセシムルカ如キハ予ノ左袒スル所ニ非サルナリ故ニ嘉言善行ノ矯激異常ニ屬スルモノハ兒童ノ感情ヲ惹起スル爲メニ其引用ノ具トナスハ又或ハ必要ナラン予ハ信ス世間必ス教科書等ノ改良ヲ圖ルモノアランコト但シ急ニ變更スルカ如キハ弊ヲ生スルコト少シトセシ宜ク注意セサルヘカラス

第四 教科書

◎縣令第十四號

明治二十五年二月二十一日

明治二十四年廿二文部省令第十四號第七條ニ基キ小學校教科用圖書審査等ニ關スル規則左ノ通り相定ム

第一條 小學校教科用圖書ノ審査委員ハ小學校教科用圖書ノ新定若クハ更定スヘキ必用アル場合ニ於テ其都度設クルモノトス

第二條 審査委員ノ會場ハ本縣廳内ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 審査委員會ハ委員三分ノ二以上出席スルニ非レハ開會スルコトヲ得ス

審査委員會ノ會議ハ過半数ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スルトコロニ依ル

審査委員會ノ議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ知事ノ許可ヲ請フヘシ

第四條 審査委員會ハ審査ニ關スル事項ニ就テ特ニ意見アルトキハ知事ニ具申スルコトヲ得

第五條 審査委員會ノ期限ハ六箇月ヲ過スヘカラス

第六條 明治二十四年文部省令第十四號小學校教科用圖書審査等ニ關スル規則第一條第二第六ノ委員ニハ手當若クハ旅費日當ヲ給ス

第七條 審査委員長ハ本會議事細則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ知事ニ具申スヘシ

審査委員長ハ書記ヲ撰ミ會議中ノ庶務ヲ取扱ハシム

◎縣令第二十五號

明治二十二年三月六日

明治二十六年
十一月十日
文部省令
第六號

本縣小學校教科用圖書及參考用書左ノ通相定メ明治二十二年四月ヨリ施行ス

但該圖書ハ之ヲ課スヘキ最下ノ學級ヨリ用ヒシメ其他ノ學級ニハ從來ノ教科用圖書ヲ服用セシメ漸次各學級ヲシテ新舊交換セシムヘシト雖モ授業ノ都合ニ依リ此際悉皆新定圖書ヲ用ントスルルハ認可ヲ經ヘシ

高等小學科

算術

小學算教授書	八冊 金壹圓五拾三錢	自第一至第三明治廿一年六月十三日訂正自第四至第八日訂正再版	愛知 信元 宮川 保全	宮川 保全
--------	------------	-------------------------------	----------------	-------

參考用

實用新 三千題	六冊 金八十錢	第一二明治廿一年三月十八日發行自第三至第六明治廿一年四月十六日訂正再版	尾關 正求	三浦 源助
---------	---------	-------------------------------------	-------	-------

簿記

高等小學簿記法	一冊 金貳拾錢	明治二十一年九月十日訂正再版	佐久間 文太郎	長水 安太郎
高等簿記教科書	一冊 金貳拾貳錢	明治廿一年五月十日訂正再版	桑原 秀吉	桑原 秀吉

參考用

高等小學簿記學教科書	一冊 金貳拾錢	明治廿一年六月廿八日校正出版	三浦 千代次郎	原 亮三郎
------------	---------	----------------	---------	-------

圖書

小學書手本	十四冊 金五拾貳錢五厘	明治二十二年二月四日出版	本多 錦吉郎	柳本 徹之助
小學器書法	六冊 金五拾錢	明治廿一年二月四日校正 內第一第三圖式同 廿一年九月五日出版	平瀬 作五郎	原 亮三郎

英語

ウエブスター綴字書	一冊 金拾五錢		米國 ウエブスター	
ニーニーナショナル讀本	三冊 金壹圓五錢		米國 パルソンス會社	

習字 本四冊金四拾八錢

參考用

米國
スベンサー

英和會話 五冊金八拾錢

第一明治十八年四月出版
第二同年五月廿日出版
第三同年九月三日出版
第四同年十一月一日出版
第五同年四月出版

佐藤重道 松井忠兵衛

英日本學校用會話新編 一冊金拾三錢

明治廿一年七月九日訂正再版

英國人
アイクンシ
武信リ太郎 志賀二郎

ペーテルス氏英語會話 一冊金拾壹錢

明治十九年三月出版

英國人
ペーテルス 新古堂印刷

農業

小學農業新書 三冊金五拾四錢

明治廿一年一月十三日訂正再版
第一明治廿年十月十日訂正再版
第二同年九月十四日同版
第三同年七月出版

後藤達三 後藤達三

小學農業書 三冊金四拾五錢

古澤角三郎 辻敬之

縣令第十七號

明治二十七年三月七日

本縣小學校修身教科用圖書左ノ通和定メ明治廿七年四月一日ヨリ施行ス

但土地ノ情況ニ依リ單級用ヲ多級ニ用ヒ多級用ヲ單級ニ用フルノ必要アルトキハ市町村立小學校ニ在テハ其管理者ニ於テ學務委員ノ意見ヲ聞キ私立小學校ニ在リテハ設立者ヨリ理由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

尋常小學科

小學修身經 尋常科五冊 明治廿六年十一月十七日發行 著天野 爲之 發行小野英之助

(入門共)

小學修身經 尋常科四冊 明治廿七年二月五日訂正 著天野 爲之 發行小野英之助

以上多級學校ニ於テ用フルモノトス

訂正尋常小學修身訓 生徒用四冊 明治廿五年九月廿八日出版 著大和田建樹 發行大和田建樹

再版尋常小學修身訓 教師用四冊 明治廿五年九月廿八日出版 著大和田建樹 發行大和田建樹

以上單級學校ニ於テ用フルモノトス

高等小學科

小學修身經 高等科四冊 明治廿六年十二月十一日發行 著天野 爲之 發行小野英之助

生徒用四冊 全 明治廿七年二月十七日再版

小學修身經 高等科四冊 全廿七年二月十一日發行 著天野 爲之 發行小野英之助

以上多級學校ニ於テ用フルモノトス

訂正 高等 修身訓 生徒用四冊 全廿六年八月十七日再版 著大和田建樹 發行大和田建樹

訂正 小學 修身訓 教師用四冊 全廿九年八月十七日再版 著大和田建樹 發行大和田建樹

以上單級學校ニ於テ用フルモノトス

日本 女訓 四冊 全廿七年二月廿一日再版 著高田芳太郎 發行金港堂書籍

日本 女訓 教師用四冊 全廿六年十二月廿八日發行 著高田芳太郎 發行金港堂書籍

以上男女學級ヲ別ケタルトキ又ハ女生ヲ區別シ教授スルトキ女子ニ用フルモノトス

●甲第十三號 明治廿七年四月一日

郡役所、市役所、町村役場、市町村立小學校

修身科ノ教育ニ於ケルハ神經ノ全身ニ貫通シ其ノ作用ヲ靈活ナラシムルニ同ク他ノ科目ト例視スヘキニアラス教員タル者ハ時ヲ以テ聲々訓告シ兒童ノ年齢及男女ノ別ニ從ヒ郡部ノ風習各地人文ノ發達及生活ノ程度ヲ察シ各人各個ノ性質ニ依リ精密ナル注意ヲ用キ此ノ重要ナル教科ノ目的ヲ達スルコトヲカムヘシ故ニ修身ノ教ハ專ラ師道ニ由テ舉ルコトヲ得ヘク一篇ノ教科書ニ

依頼シ數時間ノ誦讀ヲ以テ満足スヘキニ非ルナリ因テハ教科書ハ教員ノ資料ヲ助クル爲ニ必要ト雖トモ土地ノ情況ニ從ヒ或ハ生徒ノ繁費ヲ省ク爲ニ尋常小學校ニアリテハ各市町村學務委員ノ意見ニ依リ生徒用教科書ヲ用キスシテ專ラ口授法ヲ用キルモ妨クナシ此ノ場合ニ於テハ事情ヲ具シテ市町村長ヨリ開申スヘシ

●學第二七八號 明治二十七年四月二十五日

各郡市長宛、靜岡縣內務部長通函

本年本縣甲第十三號ヲ以テ修身教科用書ノ儀ニ付訓令相成候處右ハ山間僻地等人民生計困難ナル情況アル場合又ハ單級編制若クハ二學級編制ノ學校等ニ於テ教授上ノ都合ニ依リ生徒用教科書ニ限リ其一部若クハ全部ヲ用非サルヲ得セシムル儀ニ有之修身科教育ノ目的ヲ達スルニハ一編ノ教科書ニ依頼スヘカラサルハ勿論ト雖モ生徒ヲシテ修身教科用書ヲ持タシムルハ教授上且家庭教育上ニ於テ裨益可有之儀ニ付前項特別ノ事情アルモノ、外一般教科書ヲ用キシムルヲ要スル旨意ニ有之候此段御心得迄依命及通譯候也

●甲第貳拾四號 明治二十七年十二月廿一日

郡 役 所
市 役 所

町村役場
市町村立小學校

高等小學校男生徒ニ兵式体操ヲ課スルノ際用ケル軍歌ハ文部省ノ檢定ヲ經タル唱歌教科書中ニアルモノ及別記ノ軍歌ニ限ル義ト心得ヘシ

別記

歌曲ノ名	作曲者	所載書目	編者ノ名	出版月日
海ゆかば	未詳	日本軍歌	納所辨二郎	明治廿五年四月七日
凱旋	佐々木信綱	全前	全前	全前
進撃歌	落合直詳	全前	全前	全前
朝日に匂ふ	中山秋香	忠實軍歌集	小山作之助	明治廿七年八月十六日
進め矢玉	中山秋香	全前	全前	全前
水城	小田深藤	全前	全前	全前

●縣令第十八號

明治二十八年三月七日

明治二十二年府縣令第廿五號中本縣小學校讀書(尋常科)習字算術(尋常科)地理歴史理科教科用

圖書ヲ更定シ及尋常小學校補習科教科用圖書ヲ新定スルコト別表ノ如シ

修業年限四ヶ年ノ高等小學校ニ於テ土地ノ狀況ニ依リ小學校用日本史談中種ヲ帝國小史甲段ニ換用ス

ルヲ得此場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ其管理者ニ於テ學務委員ノ意見ヲ聞キ私立小學校ニ在リテハ設立者ヨリ理由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

尋常小學校補習科教科用讀本ハ市町村立小學校ニ在リテハ其管理者ニ於テ學務委員ノ意見ヲ聞キ私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ其一種ヲ撰用スヘシ

本令ハ明治廿八年四月一日ヨリ施行ス

(別表)

尋常小學校

讀書科

尋常小學讀本八冊 明治廿七年十二月廿二日訂正再 著者 今泉定介 發行 辻 太

習字科

尋常小學習字帖八冊 明治廿七年八月十五日發行 著者 三宅 米吉 發行 金港堂書籍

算術科

尋常筆算入門 教師用 一冊 明治廿六年二月十三日出版 著者 竹貫登代多 發行 白井 練一

尋常算教科書全

三冊 卷一明治廿六年三月廿五日出版
卷二明治廿六年四月廿二日發行
卷三明治廿六年六月一日發行

全

小學新珠算書全

一冊 明治廿七年一月二十日發行

村田 忠恕 全 八尾 新助

補習科

讀書科

補習讀本

四冊 明治廿七年一月廿七日訂正發行 著者 山縣協三郎

小林 義則

大東讀本

全 明治廿六年三月廿一日訂正發行 全 大矢 透 全

大日本圖書株式會社

地理科

日本地理初步

乙種 二冊 明治廿六年八月十九日訂正再版 著者 學海指針社

小林 八郎

歷史科

小學日本史談

乙種 二冊 明治廿六年九月二日訂正再版 著者 黒木 安雄

小林 八郎

高等小學科

習字科

高等小學習字帖

八冊 自一年上至二年下四年上下
明治二十六年二月六日出版
三年上下
明治廿六年十月十四日訂正再版發行

著者 東京府教育會發行 阪上 半七
筆者 香川 熊茂 著者

高等小學女子習字帖全

自一年上至二年下四年上下
明治二十六年二月十三日出版
三年上下
明治廿六年十月十四日訂正再版發行

全

地理科

日本地理初步

甲種 二冊 明治廿六年八月十九日訂正再版 著者 學海指針社

小林 八郎

高等科日本地理

一冊 明治廿七年一月十日訂正再版 著者 學海指針社

全

萬國地理初步

二冊 全 著者 學海指針社

全

歷史科

小學日本史談

甲種 二冊 明治廿六年九月二日訂正再版 著者 黒木 安雄

小林 八郎

右修業年限二夕年ノ高等小學校ニ用ルモノトス

帝國小史

甲種 二冊 明治廿六年八月三十一日訂正發行 著者 山縣協三郎

小林 義則

全

理科

小學理科新書

甲種 四冊 明治廿六年十月三日訂正再版 著者 學海指針社

小林 八郎

全

教師用

全

全

◎縣令第十號 明治二十九年二月二日

明治二十二年三月縣令第二十五號中本縣小學校讀書(高等科)科教科用書左之通更定ス

本令ハ明治廿九年四月一日ヨリ施行ス

高等小學科

讀書科

高等帝國新設本八冊 明治廿九年一月廿四日訂正再版 編者 學海指針社 發行 小林 八郎

科用 縣令第十五號 明治三十年二月二十五日

本縣ニ於テ採定シタル小學校教科用圖書ニシテ左ニ掲クルモノハ其定價ヲ變更シタルトモ明治二十九年十月文部省令第十一號ニ依リ仍採定ノ効力ヲ有セシム

但從前明治三十一年三月三十一日マテ費用スヘキモノニ就キテハ同期限迄有効トス

書目	卷冊記號	著者	發行者	舊定價	改正定價
尋常小學讀本	卷六	文部省編輯局	大日本圖書株式會社	〇、〇八五	〇、一〇二
全	卷七	全	全	〇、〇八五	〇、一〇二
日本讀本	卷五	新保磐次	金港堂會社	〇、一〇〇	〇、一〇三
全	卷六	全	株式會社	〇、一〇〇	〇、一〇三

尋常小學讀本	卷七	西村正三郎	(改) 辻 敬太	〇、〇九〇	〇、一〇五
全	卷八	全	全	〇、〇九〇	〇、一〇八
新定小學習字帖	卷七	著者 林 吾一 筆者 村田 活藏	金港堂會社	〇、〇四五	〇、〇五四
全	卷八	全	全	〇、〇四五	〇、〇五四
全	卷十五	全	全	〇、〇五五	〇、〇六六
全	卷十六	全	全	〇、〇五五	〇、〇六六

右明治二十二年三月縣令第二十五號ヲ以テ採定公布セシモノニシテ尙ハ明治三十一年三月マテ費用ノ効力ヲ有スルモノ

小學農 業 書 三冊 古澤角三郎 (改) 辻 敬太 〇、四五〇 〇、五四〇

右明治二十二年三月縣令第二十五號ヲ以テ採定公布セシモノ

小學尋常科修身 經生徒用(入門)	五冊	天野 爲之	(改) 小野英之助 合資會社 高山房	〇、三三五	〇、四〇二
全	四冊	全	全	〇、七〇〇	〇、八四〇
全	四冊	全	全	〇、四〇〇	〇、四八〇

全	教師用	四冊	全	全	〇、七〇〇	〇、八四〇
訂正再板修身訓	尋常小學生徒用	四冊	大和田建樹	大和田建樹	〇、二五〇	〇、三〇〇
全	教師用	四冊	全	全	〇、二五〇	〇、三〇〇
訂正再板修身訓	高等小學生徒用	四冊	全	全	〇、三四〇	〇、四〇八
全	教師用	四冊	全	全	〇、三四〇	〇、四〇八
口女訓	生徒用	四冊	高田芳太郎	金港堂書籍株式會社	〇、四〇〇	〇、四八〇
全	教師用	四冊	全	全	〇、六二〇	〇、七四〇
右明治二十七年三月縣令第十七號ヲ以テ採定公布セシモノ						
尋常小學校讀書教本	八冊	今泉定助	辻	太	〇、六三〇	〇、七五五
補習讀本	四冊	山縣悌三郎	小林義則	大日本圖書株式會社	〇、六四〇	〇、七六八
大東讀本	四冊	大矢透	大日本圖書株式會社	株式會社	〇、六三〇	〇、七五〇
尋常小學校習字帖	八冊	著者三宅米吉 筆者香川熊藏	金港堂書籍株式會社	株式會社	〇、二九〇	〇、三四八
高等小學校習字帖	八冊	著者東京府教育會 筆者香川熊藏	阪上平七	株式會社	〇、四五〇	〇、五四〇

三百七十一

高等女子習字帖	八冊	全	全	〇、四八〇	〇、五七六	
日本地理	二冊	學海指針社	小林八郎	〇、一九〇	〇、二二八	
全	甲種	二冊	全	〇、二八〇	〇、三三六	
小學日本史談	乙種	二冊	黑木安雄	全	〇、二二八	
全	甲種	二冊	全	〇、二六〇	〇、三二二	
高等科日本地理	復習用	一冊	學海指針社	全	〇、二四〇	〇、二八八
萬國地理	初步	二冊	全	〇、二九〇	〇、三四八	
帝國小史	甲號	二冊	山縣悌三郎	小林義則	〇、二五〇	〇、三〇〇
全	刪乙號	二冊	全	〇、三四〇	〇、四〇八	
小學理科新書	甲種生徒用	四冊	學海指針社	小林八郎	〇、四九〇	〇、五八八
全	甲種教師用	四冊	全	全	一、〇〇〇	一、二〇〇
右明治二十八年三月縣令第十八號ヲ以テ更定公布セシモノ						
高等科帝國新讀本	八冊	學海指針社	小林八郎	一、二九〇	一、五四八	
右明治二十九年二月縣令第十號ヲ以テ更定公布セシモノ						

學海 教科書

三百七十一

●甲第十二號

明治二十八年五月八日

郡	役	所
市	役	所
町	村	役
小	學	校

小學校ニ於テ唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タル小學校教科用圖書中ニ在ルモノ又ハ文部省ノ撰定ニ係ルモノ及本官ニ於テ採定シタルモノ、外ハ用フヘカラス但他ノ地方長官ニ於テ一旦文部大臣ノ許可ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス

教 員

●縣令第二十一號

明治二十五年二月二十四日

明治二十四年ハ文部省令第十九號第二十條ニ基キ小學校教員檢定等ニ關スル細則ヲ定メ同第九條乃至第十二條及同第十八條ニ依リ准教員ニ關スル試驗科目ノ程度及免許狀書式等ノ件ヲ併ヒテ規定スルコト左ノ如シ

小學校教員檢定等ニ關スル細則

第一章 檢定出願ノ手續

第一條 小學校教員檢定ヲ請フ者ハ第二條ニ掲ケタル書式ニ依リ願書及履歷書ヲ認メ町村在住ノモノハ郡役所ヲ經市在住ノモノハ直ニ之ヲ縣廳ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲種檢定ヲ請フモノハ隨時出願シ乙種檢定ヲ請フモノハ毎年一月ヨリ三月迄ノ間ニ出願スヘシ但臨時ニ乙種檢定ヲ施行スル場合ニ於テハ出願時期ハ其都度告示スヘシ

(明治廿七年八月縣令第四十八號ヲ以テ修正)

第二條 小學校教員檢定ヲ請フ者ノ願書式左ノ如シ

私義本縣内ニ於テ尋常小學校本科正(准)教員(高等小學校本科(專科)正(准)教員)志望ニ付甲種檢定(乙種檢定)ノ上相當ノ免許狀御授與被成下度(尤何地ニ於テ御執行可相成試驗場へ出願可仕候)依テ町村長(市長)ノ證明并別紙履歷書相添此段相願候也

何府縣何國何郡市何町村何番地居住

何府縣華士族平民

戶主誰長男女兄弟姊妹等

檢定出願者 姓

名 印

年 月 日

生 年 月

靜岡縣知事姓名殿

何某身分年齡賞罰ニ關スル件書面ノ通相違無之依テ証明候也

年月日

何郡(市)町村長

何

某印

小學校教員檢定ヲ請フ者ノ履歷書式左ノ如シ

履歷書

何府縣華士族平民

姓

名

生年月

本籍

一何府縣何國何郡(市)町村何番地戸主何某男女兄弟姉妹伯叔父等(現ニ本籍地ニ居住スル者ハ(現今)
本地ニ居住)ノ數字ヲ本項ニ加ヘ
次ノ現今寄留地ヲ省クヘシ)

現今寄留地

一靜岡縣何國何郡(市)何町村何番地(何某方)寄留

學業

一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官立公立私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何月ニ至ル所修ノ
書目大略何々

一何年何月ヨリ何地官立公立私立何學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス其證書ノ寫別
紙ノ如シ修業何年何月間ニシテ其科目ハ何々

一何年何月何地ニ於テ又ハ何學校ニ於テ何々ノ試験又ハ檢定ヲ受ケ及第ス其證書(免許狀)ノ
寫別紙ノ如シ受檢ノ科目ハ何々

職務

一何年何月何地官立公立何科教員トナリ教授ニ從事シ何年何月解職其間何々ヲ兼勤シ何々ノ
事務ニ從事ス

以上ノ辭令左ノ如シ

(此所ニ辭令ノ全文ヲ各通共掲クヘシ又私立學校等ニ
シテ辭令ナキモノハ其條給等ヲ本文ニ記載スヘシ)

一何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何年何月迄何々ノ事務ニ從事シ何年何月辭職以上ノ辭令左
ノ如シ

(此所ニ辭令ノ全
文ヲ掲クヘシ)

一何年何月何地ニ於テ何々ノ公務ニ從事シ何年何月退任ス其間俸給若クハ報酬ハ何々

賞罰

一何年何月何地ニ於テ何々事由ニ依リ賞ヲ受ク其辭令左ノ如シ

(此所ニ辭令ノ全文ヲ掲ケ辭令ナキモ
ノハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ記スヘシ)

一何年何月何地ニ於テ何々事由ノ爲メ願テ受ク

(此所ニ辭令アルモノハ其全文ヲ掲ケ辭令ナキモノハ其事由ヲ記シ裁判所ノ宜
告書ハ其要ヲ摘配スヘシ總テ同ハ其受賞ノ日數通料同金ノ額ヲ記載スヘシ)

年月日

姓名印

願書及ヒ履歷書ハ檢定出願者自ラ之ヲ認ムヘシ

第十二條第三項第十三條第三項ニ就テノ試験ヲ請フモノハ其旨ヲ願書本文ノ但書トナスヘシ

第二章 試験ノ時期及試験場

第三條 學力ノ試験ハ毎年春季之ヲ行フ但時宜ニ依リ本文ノ外臨時施行スルコトアルヘシ(明
治二十七年八月十九日縣令第四十八號ヲ以テ修正)

左ニ掲クル者ノ學力等ノ試験ハ静岡市、賀茂郡下田町、駿東郡沼津町、小笠郡掛川町、濱名郡濱
松町ニ於テ之ヲ行フ但時宜ニ依リ下田町掛川町ニ於テハ之ヲ行ハサルコトアルヘシ(明治二
十九年八月十三日縣令第五十八號ヲ以テ修正)

- 一尋常小學校本科正教員 教育科ノ内實地授業ヲ除ク
- 一高等小學校本科准教員

一尋常小學校本科准教員

一高等小學校体操園畫家事裁縫農業商業專科准教員

左ニ掲クル者ノ學力等ノ試験ハ静岡市ニ於テ之ヲ行フ(明治二十九年八月十三日縣
令第五十八號ヲ以テ修正)

一高等小學校本科正教員

一尋常小學校本科正教員教育科ノ内實地授業

一高等小學校專科正教員

一高等小學校手工音樂外國語專科准教員

第四條 試験ノ時日及試験場ハ試験開始ノ日ヨリ二十日前ニ告示シ及其旨本人へ通知スルモノ
トス(明治二十九年八月十三日縣
令第五十八號ヲ以テ修正)

第五條 受験者ハ試験開始ノ前日試験場ニ出頭シ其止宿所ヲ届置クヘシ

第六條 試験科目ノ日割時間割ハ檢定委員長之レヲ定メ試験開始ノ前日ヨリ試験場ニ揭示
ス

受験者ハ試験定時三十分前迄ニ試験場ニ參集スヘシ

第三章 准教員ニ關スル試験科目ノ程度等

第七條 尋常小學校本科准教員試験科目ノ程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

教員 試驗科目

修身 人倫道德ノ大意(明治二十五年縣令第四十九号ヲ以テ修正以下皆同シ)

教育 教授法及學校管理法ノ概略

國語 講解及作文

算術 筆算ハ命位記數四則分數小數比例 珠算ハ加減乘除及四則雜題

地理 日本地理ノ大要

歷史 日本歷史ノ大要

習字 楷書行書草書

體操 準備法矯正術徒手體操

裁縫 通常衣服ノ縫方及裁方

第八條 高等小學校本科男准教員ノ試驗科目ノ程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

修身 人倫道德ノ大意

教育 教授法及學校管理法ノ概略

國語 講解文法ノ初步及作文

漢文 講解

數學 筆算ハ命位記數四則分數小數比例利息算自乘法開平開立 珠算ハ加減乘除及四則雜

題

簿記 日用簿記ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

歷史 日本歷史ノ大要

博物 動物植物礦物ノ大意

物理 大意

化學 大意

習字 楷書行書草書

圖畫 自在畫法及用器畫法(幾何畫法)

音樂 單音唱歌及樂器用法ノ概略

體操 普通體操ハ準備法矯正術徒手啞鈴ノ諸體操、兵式體操ハ分隊教練

第九條 高等小學校本科女准教員ノ試驗科目ノ程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

修身 人倫道德ノ大意

教育 教授法及學校管理法ノ概略

國語 講解、文法ノ初步及作文

二十六年五月十日
第九號
六月十六日
加
正
下
改

數學 算算ハ命位記數四則分數小數比例利息算自乘法 珠算ハ加減乘除及四則雜題
 地理 日本地理及外國地理ノ大
 歴史 日本歴史ノ大要
 理科 博物生理及物理化學ノ大意
 家事 通常衣服ノ縫方及裁方
 習字 楷書行書草書
 圖書 自在書法及用器書法(幾何書法)
 音樂 單音唱歌及樂器用法ノ概要
 體操 準備法矯正術啞鈴徒手體操
 第十條 高等小學校專科准教員ノ試驗科目ノ程度ヲ定ムルコト左ノ如シ
 圖書 自在書法及用器書法
 音樂 單音唱歌複音唱歌及樂器用
 體操 普通體操ハ準備法矯正術徒手啞鈴球竿ノ諸體操兵式體操ハ小隊教練
 家事 衣食住ニ關スル事項ノ概要
 裁縫 衣服ノ縫方及裁方

手工 木工具等ノ種類用法及簡易ナル器具ノ製作
 農業 土壤及植物ノ成分肥料ノ用法、養畜養蠶等ノ大要
 商業 商店會社買賣金融運送保險等及商法商用簿記ノ大意
 外國語 讀方譯解習字會話文法作文
 第十一條 准教員免許狀書式ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教員免許狀

何科目何科目
 、、、、、、、

族 籍
 氏 名
 生 年 月

右ハ静岡縣管内ニ於テ明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日迄五ヶ年間(尋常)小學校本科(專科)准教員タルコトヲ免許ス

年 月 日
 静岡縣知事位勳爵氏名印

番 號

教員 試驗科目

第四章 本科教員試驗科目ノ定限

世五年
九令四
令九號
九令四
令九號
九令四
令九號
九令四
令九號
九令四
令九號

第十二條

尋常小學校本科男正教員准教員ノ試驗科目ハ當分修身教育國語算術地理歴史習字体操トス
尋常小學校本科女正教員准教員ノ試驗科目ハ當分修身教育國語算術地理歴史習字裁縫トス
第一項第二項ニ掲クル科目ノ外更ニ圖書音樂ノ一科若クハ二科ノ試驗ヲ請フモノアルトキハ併テ之ヲ試驗スヘシ

第十三條 高等小學校本科男正教員准教員ノ試驗科目ハ當分修身教育國語漢文數學簿記地理歴史博物物理化學習字トス

高等小學校本科女正教員准教員ノ試驗科目ハ當分修身教育國語數學地理歴史理科家事習字トス

第一項第二項ニ掲クル科目ノ外更ニ圖書音樂体操ノ一科若クハ數科ノ試驗ヲ請フモノアルトキハ併セテ之ヲ試驗スヘシ

第五章 檢定ノ方法

第十四條 試驗ハ受驗者總員ヲ一室又ハ數室内ニ入レ檢定委員之ヲ行フ

第十五條 試驗ノ問題ハ檢定委員長方法ヲ定メテ各受驗者ニ示シ檢定ノ時間内ニ答辨セシム

右ニ同シ

受驗者ハ試驗問題ノ意義ニ關シ檢定委員ニ質問スルコトヲ得ス

第十六條 受驗者ハ試驗時間中檢定委員ノ許可ヲ受クスシテ退室スルコトヲ得ス

受驗者ハ室内ニ在テ靜肅ヲ旨トシ舉措進退一ニ檢定委員ノ指揮ニ從フヘシ

第十七條 受驗者ハ書類其他ノ物品ヲ携帶シテ室内ニ入ルコトヲ得ス

試驗ニ要スル筆紙墨等ハ檢定委員該試驗時間ノ始ニ於テ各受驗者ニ配付ス

第十八條 受驗者其試驗ヲ受クルノ際不正ノ所行ヲナシ又ハ檢定委員ノ命令ヲ犯ストキハ當該檢定委員ニ於テ直ニ之ニ退室ヲ命シ檢定委員長ニ報告シテ其試驗ヲ差止ムコトヲ得

第十九條 認定ニ關シテハ檢定委員中ニ就キ當該委員ヲ命シ檢定ヲ請フ者ノ學力及經歷ヲ調査セシム

第六章 試驗判定法

第二十條 本科ニ關スル各科目ノ試験点数數ハ一百ヲ以テ定トス但正教員教育科ノ試験判定ニ就キテハ學科及實地授業ヲ各一科目ト見做ス(明治二十七年縣令三十二號及全三十九年八月縣令第五十八號ヲ以テ修正)

前項各科目ノ得点平均六十以上ヲ得タルモノヲ合格者トス但一科目ノ得点四十以上ニ達セサルモノアルハ平均点六十以上ヲ得ルモ合格者トナサス(上)

前項不合格者ト雖ル一科目ノ得点七十以上ニ達シタルモノハ其科目ニ對シ三ヶ年間有効ノ証
明書ヲ授與ス其有効期間ニ於テハ証明書記載ノ科目ニ限り本人ノ申立アリタルモノハ試験ヲ缺
クモノトス

第七章 手数料

第二十一條 准教員檢定ヲ請フモノハ金五十錢ヲ正教員檢定ヲ請フモノハ金壹圓ヲ手数料トシ
テ上納スヘシ但本科専科ノ檢定ヲ同時ニ請フモノト雖各別ニ手数料ヲ上納スルモノトス(治
二十九年八月十三日縣令)
第五十八号ヲ以テ追加)

前項手数料ハ檢定出願ノ際爲換券若クハ現金ヲ以テ町村在住ノ者ハ郡役所ヘ市在住ノ者ハ直
ニ縣廳ヘ上納スヘシ(明治二十七年八月縣令)
第四十八号ヲ以テ修正)

第二十二條 小學校教員免許狀ヲ受クルトキハ手数料トシテ正教員ハ金五拾錢ヲ准教員ハ金貳
拾五錢ヲ爲換券又ハ現金ヲ以テ即時之ヲ上納スヘシ

免許狀ヲ燒失若クハ紛失シタル等ニ依リ更ラニ其ノ下付ヲ請モノハ前項ノ手数料ヲ上納スヘ
シ
免許狀ニ關スル手数料ハ町村在住ノ者ハ郡役所ヘ市在住ノ者ハ直チニ縣廳ヘ上納スヘシ(全)

第二十三條 本縣普通師範學校卒業生ニ關シテハ第二十二條第二項ノ外手数料ヲ徴収セス(九
年縣令第五十八号ヲ
以テ本縣ノ二字追加)

縣令第四十三號 明治二十五年五月五日

明治二十五年に縣令第廿一號學校教員檢定等ニ關スル細則ニ依リ檢定ヲ請ヒタル後ハ其願下ク
テナスニ既ニ納メタル手数料ハ之ヲ還付セス

告示第幾號 明治二十九年二月十四日

高等小學校本科男正教員試驗參考用書

高等小學校本科男正教員試驗參考用書

修身科

帝國憲法 皇室典範	義解	一冊	明治廿二年六月一日出版	著者伊藤博文	發行國家學會
小學修身經	高等科四冊 生徒用	同	明治廿六年十二月十一日發行	全	天野爲之全
小學修身經	高等科四冊 教師用	同	明治廿七年二月十九日發行	全	小野英之助
訂正高等修身 再版小學修身	生徒用四冊	同	明治廿五年十一月十七日出版 廿六年八月十七日再版	全	大和田建樹

訂正高等修身訓	教師用四冊	明治廿五年十一月十七日出版	全	全
再游小學	生徒用四冊	同廿六年八月十七日再版	全	全
日本女訓	同廿六年十二月三十日再版	全	高田芳太郎	金港堂書籍
日本女訓	同廿七年二月廿一日再版	全	全	金港堂書籍
日本女訓	同廿六年十二月廿八日再版	全	全	全
日本女訓	同廿七年二月廿一日再版	全	全	全
教育勅語衍義	一冊	明治廿四年一月七日出版	全	那珂通世 共益商社
論語	四冊			秋山四郎
右ノ外人倫道德ニ關スル理論上ノ參考用書ハ之ヲ定メス				
教育科				
新編教育學	一冊	明治廿七年十月一日發行	著者湯本武比古	發行 普及及合
倫氏教育學	一冊	同明治廿六年五月十八日發行	著者湯原元一	金港堂書籍
編應用心理學	一冊	明治廿七年五月廿五日發行	著者湯本武比古	全
右ノ外教育史、論理ノ大要、教授法、教育法令、及ヒ學校管理法ニ關スル參考用書ハ之ヲ定メス				
國語科				
中等日本文典	一冊	明治廿三年十二月五日出版	著者落合廣文	發行 大橋新太郎

教科日本文學小史	二冊	明治廿六年三月廿七日出版	全	三上 孝次	金港堂書籍
訂正つれ〜柳文段抄	三冊	明治廿七年二月十五日發行	訂正者鈴木弘恭	全	青山 清吉
高等讀本	八冊	同明治廿九年九月十二日訂正再版	著者池永厚	全	辻 敬之
小學高等讀本	八冊	同明治廿九年十月八日訂正再版	著者岡村増太郎	全	阪上 半七
校註明倫歌集	一冊	明治廿五年十二月十八日出版	註者佐々木信綱	全	高橋 省吾
漢文科					
十八史略	七冊		編者曾先之		
日本外史	廿二冊		著者顧炎		
史記			全司馬遷		
孟子	四冊				
數學科					
理論算數學	二冊	明治廿七年五月十日出版	著者野口保典	發行 日黒 共七	
チャールズスミス氏初等代數學	一冊	明治廿六年七月	發行 譯者長澤龜之助	全	中野 義房
ウヰルン平面幾何學	二冊	明治廿一年八月十日出版	全	眞野 泰全	全

ウヰルノ 氏原著	立体幾何學	一冊	明治廿二年八月三十日出版	全	上野	清全	加藤 鎮吉
摘要術	教科書	四冊	明治十九年七月	刊行	著者田中	矢徳全	白井 練一
簿記	簿記	一冊	明治廿一年九月十日訂正再版	著者佐久間文太郎	發行	岡安	慶介
高等簿記	法	一冊	明治廿一年十一月廿日出版	全	菅野 劣三	發行	岡安 慶介
高等簿記	法續篇	一冊	明治十二年十月十一日出版	免許	森島修太郎	全	森島修太郎
簿記學	例題	一冊	明治廿五年十一月四日發行	著者松島	剛山	春陽	堂
近世中地理學	日本ノ部	二冊	明治廿六年五月十五日發行	全	是三郎	全	大橋新太郎
新編地文學	學	一冊	明治廿六年二月十三日出版	全	學海指針社	全	學海指針社
日本地理	初步	甲種 二冊	明治廿六年八月十九日訂正再版	全	全	全	全
同	乙種 五冊	明治廿七年一月十日訂正再版	全	全	全	全	全
高等科	日本地理	六冊	明治廿七年二月十日訂正再版	全	全	全	全
復習用	日本地理	二冊	明治廿七年二月十日訂正再版	全	全	全	全
萬國地理	初步	二冊	明治廿七年二月十日訂正再版	全	全	全	全

小學	日本史談	甲種 二冊	明治廿六年九月二日訂正再版	著者黒木 安雄	發行	學海指針社	全
同	乙種 二冊	明治廿六年九月二日訂正再版	全	編者山縣備三郎	全	文學社	全
帝國	小史	甲種 二冊	明治廿六年八月卅一日訂正再版	編者山縣備三郎	全	文學社	全
全	乙種 二冊	明治廿七年八月十日訂正再版	全	全	全	全	全
中等教科	日本歴史	二冊	前編明治廿六年六月十五日發行 後編明治廿七年八月廿二日發行	著者田中給次郎 赤城又次郎	全	全	全
支那	史要	二冊	上編明治廿六年七月十五日發行 下編明治廿七年四月十三日發行	著者市村鑽次郎	全	吉川 平七	全
萬國	史綱	二冊	上卷明治廿五年十二月十四日出版 下卷明治廿六年八月廿八日出版	元其勇次郎 家永 豊吉	發行	龜井 忠一	全
博物	科	生徒用四冊	同	全	全	全	全
新理	科讀本	八冊	明治二十年九月	著者武田安之助	山版	原 亮三郎	全
小理	科新書	教師用四冊	明治廿六年十月三日訂正再版	著者學海指針社	全	小林 八郎	全
同	同	同	同	全	全	全	全
中等	植物學	一冊	明治廿六年四月五日再版	編者齋田功太郎	發行	小林 義明	全
中等	應用植物學	一冊	明治廿六年九月十三日發行	全	全	全	全
中等	動物學教科書	二冊	上編明治廿六年七月五日發行 下編明治廿六年十月十日發行	著者五島清太郎	全	金港堂書齋 株式會社	全

職員 試驗科目

中等生理學	一冊	明治廿六年十月十四日發行	全	中澤金之助	長島恭三郎
學校衛生學	一冊	明治廿六年十一月廿七日發行	全	三島通良	博文館
中等礦物學教科書	一冊	明治廿六年四月二十日再版	全	西松二郎	小林義則
物理科化學科					
新理科讀本	八冊	明治二十年九月	出版者	武田安之助	出版者
小理科新書	教師用四冊	明治廿六年十月三日訂正再版	著者	學海指針社	小林八郎
同	生徒用四冊	全	全	全	全
新編物理學	二冊	上卷明治廿七年九月十五日九 廿四日八板發行 下卷明治廿六年十月	譯者	木村、駿吉	內田芳兵衛
化學教科書	無機	二冊	上卷明治廿三年二月五日出版 下卷明治廿五年十月一日三板	印行文部	省全 大日本圖書株式會社
有機	一冊	明治廿七年四月廿三日發行	全	全	全
習字科					
參考用書ヲ定メス					
高等小學校本科男准教員試驗參考用書					
修身科					

小學修身經	高等科四冊	明治廿六年十二月十一日發行	著者	天野	爲之	發行
同	高等科四冊	明治廿七年一月十九日再版	全	全	全	小野英之助
訂正高等修身訓	生徒用四冊	明治廿五年十一月十七日出版	全	大和田建樹	全	大和田建樹
同	生徒用四冊	明治廿六年八月十七日再版	全	全	全	全
日本女訓	生徒用四冊	明治廿六年十二月卅一日發行	全	高田芳太郎	全	金港堂書籍株式會社
同	教師用四冊	明治廿七年二月廿八日再版	全	全	全	全
教育勅語衍義	一冊	明治廿四年一月七日出版	全	那珂通世	全	共益商社
論語	四冊			秋山四郎	全	
教育科						
實小學教授術	編正	明治廿七年四月廿五日發行	著者	山高幾之丞	出版	金港堂書籍株式會社
實小學管理術	一冊	明治廿七年六月三日發行	全	山高幾之丞	全	全
右ノ外高等小學校ノ教科目ノ教授法ニ關スル參考用書ハ之ヲ定メス						
國語科						
中等日本文典	一冊	明治廿三年十二月五日出版	著者	露合直文	發行	大橋新太郎
教育日本文典	一冊	明治廿三年十二月五日出版	著者	小中村義象	發行	大橋新太郎

訂正 増補 つれづれ文段抄	三冊	明治廿七年二月十五日發行	訂正者 鈴木弘恭全	青山清吉
按註 明倫歌集	一冊	明治廿五年十二月十八日出版	註者 佐々木信綱全	高橋省吾
高等讀本	八冊	明治二十年五月	出版者 池永西村正三郎全	辻敬之
小學高等讀本	八冊	明治二十年十月 明治廿年十二月八日訂正再版	出版者 岡村増太郎全	阪上平七
漢文科				
十八史略	七冊		編者 曾先之	
日本外史	廿二冊		著者 頼葵	
數學科				
理論算數學	二冊	明治廿七年五月十日十版發行	著者 野口保典	發行 日黒共七
摘要術教科書	四冊	明治十九年十月	刊行 全田中矢穂全	白井練一
簿記科				
實地簿記法	例題共二冊	明治二十年十二月廿七日出版	著者 藤尾鏡郎	發行 秀英會
中日本地誌	一冊	明治廿八年四月廿三日訂正再版	著者 矢津昌永	出版 丸善株式會社

萬國地理初步	二冊	明治廿七年一月十日訂正再版	著者 海指針社全	海指針社
日本地理初步	甲種二冊 乙種二冊	明治廿六年八月十九日訂正再版	全	全
同	乙種二冊	同	全	全
高等科日本地理復習用	一冊	明治廿七年一月十日訂正再版	全	全
歷史科				
小學日本史談	甲種二冊 乙種二冊	明治廿六年九月二日訂正再版	著者 黒木安雄	出版 海指針社
帝國小史	甲號二冊 乙號二冊	明治廿六年八月卅一日訂正再版	編者 山縣徳三郎全	文學社
全	乙號二冊	明治廿七年八月十日訂正再版	全	全
皇國史要	二冊	明治廿八年三月十二日訂正再版	著者 勝浦彌雄全	吉川平七
博物科 物理科 化學科				
新撰理科讀本	八冊	明治二十年九月	譯者 武田安之助	出版 原亮三郎
小理科新書	教師用四冊 生徒用四冊	明治廿六年十月三日訂正再版	著者 學海指針社全	小林八郎

習字科

參考書ヲ定メス

高等小學校本科女正教員試驗參考用書

修身科

日本女訓	生徒用四冊	明治廿六年十二月三十日發行 同廿七年二月廿一日再版	著者高田芳太郎	發行金港堂書局
同	教師用四冊	明治廿六年十二月廿八日發行 同廿七年二月廿一日再版	著者全	發行全
教育勅語衍義	一冊	明治廿四年一月七日出版	著者那珂道世	發行共益商社
女子修身鑑	六冊	明治廿四年十一月十六日出版	著者山井道子	發行東條春雄
論	四冊		著者全	發行全
教育科				
新編教育學	一冊	明治廿七年十月一日發行	著者湯本武比古	發行普及社
新編應用心理學	一冊	明治廿七年五月廿五日發行	著者全	發行金港堂書局
實驗小學管理術	一冊	明治廿七年六月三日發行	著者山高幾之丞	發行全

右ノ外教育史教育法令教授法及保育法ニ關スル參考用書ハ之ヲ定メス

國語科

中等日本文典	一冊	明治廿五年三月十七日第五版	著者落合直文	發行大橋新太郎
女學全書日本女用文章第八編	一冊	明治廿五年八月	著者佐々木信綱	發行全
訂正つれ／＼師文段抄	三冊	明治廿八年三月	著者鈴木弘毅	發行青山清吉
高等讀本	八冊	明治二十年十一月	著者池永厚	發行全
小學高等讀本	八冊	明治二十年十二月	著者岡村増太郎	發行阪上半七
按註明倫歌集	一冊	明治廿五年十二月	著者佐々木信綱	發行高橋省吾

數學科

チヤールス初等代數學	一冊	明治廿七年四月	著者長澤龜之助	發行中野義房
維爾孫氏原著平面幾何學	二冊	明治廿一年八月	著者眞野	發行全
維爾孫氏原著立体幾何學	一冊	明治廿六年七月	著者上野清	發行加藤鎮吉
摘要算術教科書	四冊	明治十九年十月	著者田中矢德	發行全

地理科

近世中地理學ノ日本部	一冊	明治廿五年十一月四日發行	著者松島剛	發行春陽堂
------------	----	--------------	-------	-------

同	萬國	一冊	明治廿六年五月十五日發行	全	全
新編	地文學	一冊	明治廿六年二月十三日出版	全	是三郎全
日本	地理初步	甲種二冊	明治廿六年八月十九日訂正再版	全	學海指針社
同	同	乙種二冊	同	全	全
高等	科日本地理	一冊	明治廿七年一月十日訂正再版	全	全
復習	用	二冊	明治廿七年一月十日同再版	全	全
萬國	地理初步	二冊	同	全	全
歷史科					
小學校	用日本史談	甲種二冊	明治廿六年九月二日訂正再版	著者黒木安雄	出版者 學海指針社
帝國	小史	甲種二冊	明治廿六年八月卅一日發行	全	山縣悌三郎全
同	同	乙種二冊	明治廿七年八月十日訂正再版	全	全
皇國	史要	二冊	明治廿八年三月十二日訂正再版	全	勝浦綱雄全
支那	史要	二冊	明治廿七年四月十三日發行	全	市村瓊次郎全
萬國	歷史	一冊	明治廿二年五月十日訂正再版	全	天野爲之全

新編	理科讀本	八冊	明治廿六年九月	出版者 武田安之助	發行 廣文堂	
小學	理科新書	教師用四冊	明治廿六年十月三日訂正再版	著者 學海指針社	小林八郎	
同	同	生徒用四冊	同	全	全	
博物	學教科書	植物學	一冊	明治廿七年六月三十日出版	全	平澤金之助
同	同	動物學	一冊	明治廿八年十月一日出版	全	全
同	同	生理學	一冊	明治廿七年五月廿六日出版	全	全
新編	小物理學	一冊	明治廿四年四月廿九日出版	全	木村駿吉全	
化	學	一冊	明治廿八年九月十七日出版	全	池田菊苗全	
家事科						
新編	家政學	二冊	明治廿七年二月廿五日發行	著者 山崎	發行 長島文昌堂	
園秀	日本婦女鑑	一冊	明治廿四年七月十四日出版	全	坪谷善四郎	
普通	裁縫教授書	三冊	明治十三年十一月廿九日出版	全	渡邊辰五郎	
習字科						
參考用書ヲ定メス						

高等小學校本科女准教員試驗參考用書

三百九十八

修身科		日本女訓	生徒用四冊 明治廿七年二月廿一日再版 著者高田芳太郎 發行金港堂書籍
同		教師用四冊 明治廿七年二月廿一日再版 全	全
教育勸諭衍義		一冊 明治廿四年一月七日出版 全	那珂通世 發行 共益商社
女子修身鑑 自一至四		四冊 明治廿四年十一月十六日再版 全	山井道子 發行 東條 春雄
教育科			
實小學校教授術		正編 明治廿七年四月廿五日發行 著者山高幾之丞 發行金港堂書籍	山高幾之丞 發行 金港堂書籍
實小學校管理術		一冊 明治廿七年六月三日發行 全	山高幾之丞 全
右ノ外高等小學校ノ教科目ノ教授法ニ關スル參考用書ハ之ヲ定メス			
國語科			
中等日本文典		一冊 明治廿五年三月十七日第五版 著者落合直文 發行大橋新太郎	落合直文 發行 大橋新太郎
徒然草講義		一冊 明治廿七年六月十日再版 全	井上 龍文 全 小川 寅松
高等讀本		八冊 明治廿一年十一月再版 全	池永 厚 全 辻 敬之

小學高等讀本		八冊 明治廿一年十二月再版 全	岡村增太郎 全 阪上 半七
數學科			
算術教科書		四冊 明治十九年十月刊行 著者田中 矢德 發行白井 練一	田中 矢德 發行 白井 練一
地理科			
中日本地理誌		一冊 明治廿八年四月廿三日再版 著者矢津 昌永 出版丸善株式會社	矢津 昌永 出版 丸善株式會社
萬國地理初步		二冊 明治廿七年一月十日再版 全	學海指針社 全 學海指針社
日本地理初步		甲種 二冊 明治廿六年八月十九日再版 全	全
同		乙種 二冊 同	全
高等科 復習用 日本地理		一冊 明治廿七年一月十日訂正再版 全	全
歷史科			
小學日本史談		甲種 二冊 明治廿六年九月二日訂正再版 著者黒木 安雄 出版學海指針社	黒木 安雄 出版 學海指針社
同		乙種 二冊 同	全
帝國小史		甲號 二冊 明治廿六年八月卅一日訂正 全	山縣佛三郎 全 文學社
同		乙號 二冊 明治廿七年八月十日再版 全	全

皇國史要 二冊 明治廿八年三月十二日訂正全 勝浦 編 雄全 吉川 半七

理科

新理科讀本 八冊 明治二十年九月 出版 武田安之助 出版 原 亮三郎

小學理科新書 欲師用四冊 明治廿六年十月三日訂正再版 著者 學海指針社 全 小林 八郎

同 生徒用四冊同 全 全

家事科

普通裁縫教授書 三冊 明治十三年十一月廿九日出版 著者 渡邊辰五郎 出版 石川 商店

習字科

參考用書ヲ定メス

尋常小學校本科正教員試驗參考用書

修身科

小學修身經 尋常科 五冊 明治廿七年二月三日訂正 著者 天野 爲之 發行 小野英之助

全 尋常科 四冊 明治廿七年十二月五日同 全 全

訂正 尋常科 四冊 明治廿六年八月十七日再版 全 大和田建樹 全 大和田建樹

同 教員用四冊同 全 全

教育勅語衍義 一冊 明治廿四年一月七日出版 全 那珂 通世 出版 共益商社

論 四冊 全 全

女子修身鑑 六冊 明治廿四年十一月十六日訂正再版 著者 山井 道子 出版 東洋 春雄

右ノ中男子ニハ女子修身鑑ヲ除キ女子ニハ論語ヲ除ク

教育科

新教育 一冊 明治廿七年十月一日發行 著者 湯本武比古 出版 普及 舍

實小學校教授術 編正 明治廿七年四月廿五日發行 全 山高幾之丞 全 金港堂 書籍

實小學校管理術 一冊 明治廿七年六月三日發行 全 山高幾之丞 全 全

國語科

中等日本文典 一冊 明治廿三年十二月五日 出版 著者 落合 直文 出版 大橋新太郎

按註明倫歌集 一冊 明治廿五年十二月十八日出版 註者 佐々木信綱 全 高橋 省吾

訂正 増補 くれ〜草文段抄 三冊 明治廿七年二月十五日發行 訂正 著者 鈴木 弘毅 全 青山 清吉

高等讀本 八冊 明治二十年五月 出版 著者 池永 厚 全 辻 敬之

小學高等讀本	八冊	明治二十年十月	出版	岡村增太郎	阪上 半七
增訂日用文鑑	二冊	明治廿七年二月十日	再版	中村 秋香	青山 清吉
算術科	二冊	明治廿七年五月十日	板發行	著者野口 保興	發行 目黒 其七
理論算 數學	二冊	明治廿七年五月十日	板發行	著者野口 保興	發行 目黒 其七
要摘算術教科書	四冊	明治十九年十月	刊行	田中 矢麿	白井 練一
地理科	一冊	明治廿八年四月	再版	著者矢津 昌永	出版 丸善株式會社
中日本地誌	一冊	明治廿七年六月	發行	中村 五六	全文學社
中等地理萬國誌	一冊	明治廿六年八月	再版	著者海指針社	全文學社
日本地理初步	二冊	明治廿六年八月十九日	再版	著者海指針社	全文學社
歷史科	甲種 二冊	明治廿六年九月二日	訂正再版	著者黒木 安雄	出版 學海指針社
小學日本史談	乙種 二冊	明治廿六年九月二日	訂正再版	著者全	全文
帝國小史	甲號 三冊	明治廿六年八月	訂正	編者山縣備三郎	全文學社
帝國小史	乙號 二冊	明治廿七年八月十日	訂正再版	著者全	全文

皇國史要	二冊	明治廿八年三月十二日	訂正	勝浦 新雄	吉川 半七
習字科	參考用書ヲ定メス				
體操科	普通體操法	一冊	明治二十五年十二月	出版	文部省
	步兵操典	一冊	明治二十四年八月	出版	陸軍省
	步兵教範	一冊	明治二十二年八月	出版	全
裁縫科	普通裁縫教授書	三冊	明治十三年十一月廿九日	出版	著者渡邊辰五郎
	普通裁縫算術書	一冊	明治十四年七月十八日	版權全	石川 商店
尋常小學校本科准教員試驗參考用書					
修身科	小學修身經	尋常科 五冊	明治二十七年二月三日	訂正	著者天野 爲之
	尋常科 四冊	明治廿六年八月十七日	再版	全	發行 小野英之助

訂正 再版 小學 修身 訓 生 徒 用 四 冊 同	全	大和田建樹 全	大和田建樹
同 教 育 勅 諭 衍 義	一冊	明治二十四年一月七日出版 全	那珂通世 秋山四郎 共益商社
實 驗 小 學 教 授 術	編正 一冊	明治廿七年四月廿五日發行 全	山高幾之丞 藤井初太郎 株式會社
實 驗 小 學 管 理 術	一冊	明治廿七年六月三日發行 全	山高幾之丞 全
國 語 科	高 等 小 學 讀 本	八冊	明治二十年五月 同 廿年九月十二日訂正再版 著者 池永 聖山 西村正三郎 敬之
小 學 高 等 讀 本	八冊	明治二十年十月 同 廿年十二月八日訂正再版 著者 岡村增太郎 阪上平七	敬之
增 訂 日 用 文 鑑	二冊	上 行 下 行 板 發 行 明 治 廿 七 年 二 月 七 日 訂 正 再 版 著者 中村秋香 小中村義象 青山清吉	全
中 等 日 本 文 典	二冊	明治廿三年十二月五日出版 全	落合直文 小中村義象 大橋新太郎
算 術 科	理 論 算 數 學	二冊	明治廿七年五月十日十板發行 著者 野口 保典 發行 日黑 共七
要 算 術 教 科 書	四冊	明治十九年十月 刊行 全	田中 矢德 全 白井 棟一

地 理 科	中 日 本 地 誌	一冊	明治廿八年四月廿三日 訂正再版 著者 矢津 昌永 出版 丸善株式會社	
日 本 地 理 初 步	乙種 二冊	明治廿六年八月十九日 訂正再版 全	學海指針社	
歷 史 科	小 學 日 本 史 談	甲種 二冊	明治廿六年九月二日訂正再版 著者 黒木 安雄 出版 學海指針社	
同	乙種 二冊	同	全	
帝 國 小 史	甲種 二冊	明治廿六年八月卅一日 訂正再版 編者 山縣 三郎 全	文學社	
同	乙種 二冊	明治廿七年八月十日訂正再版 全	全	
家 事 科	新 編 家 政 學	二冊	明治廿七年二月廿五日發行 著者 山崎 彦八 出版 長島文乃堂	
同	錦 秀 日 本 婦 女 鑑	一冊	明治廿四年七月十四日出版 全	坪谷善四郎 博文館
家 政 學	二冊	明治廿六年四月廿八日發行 全	下田 歌子 全	
裁 縫 科	普 通 裁 縫 教 授 術	三冊	明治十三年十一月廿九日出版 著者 渡邊辰五郎 出版 石川 商店	

普通裁縫算術書		一冊	明治十四年七月十八日	版權全	全	全
手工科						
參考用書ヲ定メス						
農業科						
農業全書ノ内作物篇	一冊	明治廿五年十一月廿一日	出版	著者高田	鑑三	出版
土壤改良篇	一冊	明治廿五年十二月廿七日	同	中村	鼎	全
肥料篇	一冊	明治廿五年十二月九日	同	原	熙	全
栽培篇	二冊	明治廿五年六月七日	同	堀尾	鏡作	全
米麥篇	一冊	明治廿六年十二月廿三日	同	植原	正三	全
養畜篇	一冊	明治廿五年八月廿九日	出版	原	熙	全
蠶業篇	一冊	明治廿五年五月五日	同	高田	鑑三	全
林業篇	一冊	明治廿六年十一月十五日	同	鈴木	審三郎	全
農學通論	一冊	明治廿四年十月十四日	同	大内	健	全
商業科						

實地商業活法		一冊		著者	福山 鑑三	出版
練習商業活法		一冊		龜井	定助	出版
商業經濟學		一冊		高規純之助 全		
高等小學簿記法		一冊	明治廿九年九月十日	訂正再版	佐久間文太郎	發行
高等小學簿記法續篇		一冊	明治廿一年十一月廿日	出版	菅野 劣三	全
簿記學例題		一冊	明治廿二年十月十一日	版權	森島修太郎	全
英語科						
ユニオン、ザンダー讀本四、マニロー氏クライブ傳、スウイントン氏大文典ノ程度						
高等小學校專科准教員試驗參考用書						
習字科						
參考用書ヲ定メス						
體操科						
普通體操法		一冊	明治廿五年十二月	文部省		
裁縫科						

普通裁縫教授書 三冊 明治十三年十一月廿九日出版 著者渡邊辰五郎 出版 石川商店
 普通裁縫算術書 一冊 明治十四年七月十八日出版 著者 全 全

高等小學校專科正教員試驗參考用書

圖畫科

鉛筆畫參考用書

新撰小學畫手本 十二冊 明治廿七年八月七日發行 著者淺井 忠發行 國々社
 中等畫學臨本 第一編 明治廿七年七月二日發行 全 小山正太郎 全 正英堂
 第二編

用器畫法 三冊 一、卷明治廿二年十一月十六日出版 二、卷明治廿二年十一月十日出版 三、卷明治廿三年一月十四日出版 全 平瀬作五郎 全 中近堂

用器畫法圖式 三冊 一、三卷明治廿三年一月十四日出版 二、卷明治廿二年十一月十五日出版 全 全 全

右用器畫法圖式中幾何畫法投影畫法透視畫法ノ部ヲ參考トス

毛筆畫參考用書

毛筆新畫帖 全部 明治廿七年十一月三日發行 著者川端 玉章 發行 三省堂

前各項ノ外國畫科教授法ニ關スル參考用書ハ之ヲ定メス以下各科目ノ教授法ニ關スルモ亦同

音樂科

祝祭日用唱歌 明治廿六年八月十二日 文部省 撰定 文部省

小學唱歌集 初篇 明治十四年十一月廿四日出版 二篇 明治十六年三月廿八日出版 三篇 明治十七年三月廿九日出版 編輯 全

樂典初步 一冊 明治廿一年四月十五日同 刊行 全

體操科

普通體操法 一冊 明治廿五年十二月 五版 文部省

步兵操典 一冊 明治廿四年八月 出版 陸軍省

體操教範 一冊 明治廿二年八月 同 全

射擊教範 一冊 明治廿四年三月廿四日同 全

劍術教範 一冊 明治廿七年四月十三日同 全

野外要務令 一冊 明治廿四年十二月十二日 陸軍省 全

圖畫科

鉛筆畫參考用書

新撰小學書手本	十二冊	明治廿七年八月七日發行	著者淺井忠者	發行 國々社
中等書學臨本	第一編 第二編	明治廿七年七月二日發行	全	小山正太郎全 成美堂
用器書法	二冊	一卷明治廿二年十一月十六日出版 二卷明治廿二年十一月十五日出版	全	平瀬作五郎全 中近堂
用器書法圖式	二冊	一卷明治廿三年一月廿四日出版 二卷明治廿二年十一月十五日出版	全	全
右用器書法用器書法圖式中幾何画法及投影画法ノ部ヲ參考用トス				
毛筆新画帖				
全部 明治廿七年十一月三日發行 著者川端玉章 發行 三省堂				
前各項ノ外國画科教授法ニ關スル參考用書ハ之ヲ定メス以下各科目ノ教授法ニ關シテモ亦全				
音 樂 科				
祝祭日用唱歌	一冊	明治廿六年八月十二日 文部省告示	撰定	文部省
小學唱歌集	初篇	明治十四年十一月廿四日出版	編輯	全
幼稚園唱歌集	一冊	明治二十年七月五日 同	全	全
樂典 初歩	一冊	明治廿一年四月十五日 同	全	刊行 文部省

體 操 科				
普通體操法	一冊	明治廿五年十二月	五版	文部省
步兵操典	一冊	明治廿四年八月	出版	陸軍省
體操教範	一冊	明治廿二年八月	同	全
家 事 科				
新編家政學	二冊	明治廿七年二月廿五日發行	著者山崎彦八	出版 長島文房
はゝのつとめ	二冊	明治廿二年六月一日出版	全	三島通真全 丸善 商社
裁 縫 科				
普通裁縫教授書	三冊	明治十三年十一月廿九日出版	著者渡邊辰五郎	出版 石川 商店
普通裁縫算術書	一冊	明治十四年七月十八日 出版	全	全
手 工 科				
參考用書ヲ定メス				
農 業 科				
農業全書ノ内作物篇	一冊	明治廿五年十一月廿一日出版	著者高田鑑三	出版 博文館

同	土壤改良	一册	明治廿五年十二月廿七日同	全	中村鼎全
同	肥料篇	一册	明治廿五年十二月九日同	全	原熱全
同	米麥篇	一册	明治廿六年十二月廿三日同	全	楠原正三全
同	蠶業篇	一册	明治廿五年五月五日同	全	高田燮三全
農學	通論	一册	明治廿四年十月十四日同	全	大内健全
商	實地商業活法	一册		全	著者 祖山鍾三 龜井慶重 出版者 山成博文館
商業	經濟學	一册		全	高槻純之助全
高等小學	簿記法	一册	明治二十年九月十日訂正再版	全	佐久間文太郎 發行 關安慶介
高等小學	簿記法續編	一册	明治廿一年十一月二十日出版	全	菅野劣三全
簿記學	例類	一册	明治十二年十月十一日出版	全	森島修太郎 森嶋修太郎
英語科 ロングマンズ讀本四、スウイントン氏萬國史、スウイントン氏小文典ノ程度					

各種學校教員試驗參考用書

高等小學教科本科男正教員及高等小學教科正教員各科目ノ參考用書ニ同シ
但各科目ノ教授法ニ關スル參考用書ハ之ヲ定メス

●甲第三十六號 明治二十四年十月二十四日

郡 役 所
市 役 所
町 村 役 場
公立小學校

從來授與セシ小學校教員地方免許狀讀書科中ニハ作文科ヲ含有スル義ニ候補右二科ノ効力ヲ有スルモノト心得ヘシ

●縣令第二十二號 明治二十七年四月八日

幼稚園保母及小學校ニ類スル各種學校教員免許規則左ノ通り相定ム

幼稚園保母及小學校ニ類スル各種學校教員免許規則

第一條 幼稚園保母若クハ小學校ニ類スル各種學校教員免許狀ハ左ノ資格ヲ具フルモノニシテ

檢定ニ合格シタルモノニ之ヲ授與ス

一 年齡保母十七年以上
二 各種學校教員男子十八年以上女子十七年以上

二 身體健全
三 品行方正

第二條 檢定ハ之ヲ分チテ左ノ二種トス

甲種 認定

乙種 試験

第三條 甲種檢定ハ左ニ掲クルモノニ限リ之ヲ行ヒ第四條ニ掲クル科目及其程度ヲ参照シテ其學力經歷ヲ調査スルモノトス

一 幼稚園保母免許狀ヲ有シ其有効期限滿チタルモノ

二 他ノ府縣ニ於テ幼稚園保母若シハ各種學校教員免許狀ヲ受得シタルモノ

三 尋常中學校高等女學校及尋常中學校同等以上ノ官立公立學校ノ卒業生ニシテ其學校ニ於テ修得シタル學科ニ就キ各種學校教員タルコトヲ出願セシモノ

四 學力品行等ニ關シ知事ニ於テ特ニ適任ト認メタルモノ

第四條 乙種檢定ハ學力ノ試験ヲ行フモノトス

保母ノ試験科目及其程度ハ左ノ如シ

修身 人倫道德ノ要旨

保育 保育ノ原理、保育ノ方法、實地保育

國語 普通國文講讀及作文

算術 四則、度量衡貨幣及簡易ナル分數小數比例

習字 假字ノ書法、楷書、行書、草書

音樂 幼稚園ニ適用スヘキ唱歌及オルガン奏法

各種學校教員ノ試験科目ハ修身國語漢文數學簿記地理歷史博物物理化學習字圖畫音樂体操手工農業商業外國語及裁縫ノ一科若シハ數科トス但何レノ科目ニ就キテモ授業法ヲ附帶シテ試験ヲ行フモノトス

前項各科目ノ程度ハ尋常師範學校ノ程度ニ準ス

第五條 檢定ヲ受クント欲スルモノハ族籍姓名宿所生年月保釋若シハ各種學校教員ノ別各種學校教員ハ志願ノ學科ヲ併記スヘシ及甲種乙種ノ別ヲ記シタル願書ニ身分年齡實爵ニ關スル市町村長ノ証明ヲ受ケ履歷

書ヲ添ヘ町村在住ノ者ハ郡役所ヲ經市在住ノ者ハ直ニ縣廳ニ差出スヘシ但履歷記載方ハ明治

廿五年縣令第二十一號第二條ノ履歷書式ニ據ル

甲種檢定ハ隨時出願シ乙種檢定ハ明治廿五年縣令第廿一號第一條乙種檢定出願ノ時期ニ於テ

出願スヘシ

乙種檢定ハ毎年春期靜岡市ニ於テ之ヲ行フ

明治廿五年縣令第廿一號第四條乃至第六條及第十四條乃至第十八條ノ規定ハ本規則ニ定ムル
試験ニ適用ス

明治廿五年縣令第廿一號第廿條第一項第二項ノ規定ハ保母第四項ノ規定ハ各種學校教員ノ試
驗判定法ニ適用ス(明治二十九年縣令第
五十九號ヲ以テ訂正)

第六條 保母免許狀ハ有効期限ヲ五ク年トシ各種學校教員免許狀ハ終身有効トス
明治十九年文部省令第二十二號第十四條ノ一款若クハ數款ニ觸ルハモノニハ免許狀ヲ授與セ
ス又既ニ授與シタルモノト雖モ之ヲ沒收スヘシ
免許狀書式左ノ如シ

幼稚園保母免許狀	
族籍	氏名
生年月	
右靜岡縣管内ニ於テ明治何年何月 何日ヨリ明治何年何月何日マテ五 ク年間幼稚園保母タル事ヲ免許ス	
年月日	知事位勳爵氏名印
番號	

各種學校教員免許狀	
何科目	族籍
氏名	
生年月	
右ハ前記ノ科目ニ就キ檢定シ靜岡 縣管内ニ於テ小學校ニ類スル各種 學校教員タルコトヲ免許ス	
年月日	知事位勳爵氏名印
番號	

第七條 保母ノ檢定ヲ請フモノハ金五十錢ヲ各種學校教員ノ檢定ヲ請フモノハ金壹圓ヲ手数料
トシテ納付スヘシ

免許狀ヲ受クルトキハ手数料トシテ保母ハ金貳拾五錢ヲ各種學校教員ハ金五十錢ヲ即時納付
スヘシ

第一項ノ手数料ハ檢定出願ノ際願書ト共ニ差出スヘシ

第二項ノ手数料ハ町村在住ノモノハ郡役所ヲ經市在住ノモノハ直ニ本縣ニ納付スヘシ

免許狀ヲ燒失若クハ紛失シタル等ニ依リ更ニ其下付ヲ請フ者ハ第二項ノ手数料ヲ納付スヘシ
檢定出願ノ後其願下クテナスモ既ニ納メタル手数料ハ之ヲ還付セス

●縣令第七十五號 明治二十六年十二月二十六日

明治二十五年ハ縣令第二十二號市町村立小學校教員ノ任用解職其他進退ニ關スル細則左ノ通改
定ス

市町村立小學校教員任用解職其他進退ニ關スル細則

第一條 市町村立小學校教員任用令ニ依リ小學校教員ヲ推薦セントスルトキハ郡市長ハ其氏名
住所族籍履歷ヲ詳記シ教員免許狀ノ寫ヲ添ヘ具申スヘシ

前項ノ候補者現ニ他郡市所轄内市町村立小學校教員ノ職ニ在ルトキハ其郡市長ノ承諾書ヲ添

第二項の場合ニ於テ正教員ヲ准教員トナシ又ハ俸給ヲ減少セントスルトキハ本人ノ承諾書ヲ添フヘシ

第二條 明治二十四年文部省令第二十號第五條第二項ノ一、二及ヒ同令第六條第一項ノ一乃至四ノ場合ニ於テハ郡市長ヨリ其事由ヲ具申スヘシ

第三條 准教員事故アリテ辭表ヲ提出シタルトキハ郡市長ヨリ其事由ヲ具申スヘシ

第四條 一時教授ニ任用シタル准教員ハ其任用ノ期限滿ツルトキハ直ニ解職シタルモノトシ特ニ辭令書ヲ用ヒス

◎甲第十號 明治二十五年三月十六日

郡 役 所
市 役 所
町 村 役 場

明治二十五年に縣令第二十二號市町村立小學校長教員ノ任用解職其他進退ニ關スル細則第一條第一項教員薦書ニ添付スヘキ履歷書ハ明治二十一年學第七一二號公立學校職員履歷書式ニ依リ記載スヘシ

◎學第八號 明治二十七年一月十二日

本縣内務部長ヨリ各郡市長へ通牒

從來小學校教員轉任薦舉ノ時ニ限リ履歷ノ添付ヲ要セサルコトニ取振來リ候處教員銜階上必登ニ付自今ハ轉任薦舉ノ際ト雖モ添付相成度此段申進候也

◎學第三八七號 明治二十四年十月三十日 本縣内務部長ヨリ各郡市長へ通牒

小學校教員履歷異動届出方ノ義自今任命及免許狀授與ノ件ハ届出ニ不及尤族籍姓名住所ノ變更及俸給増減等ハ一層注意ヲ加へ届洩無之様教員一般へ御示達相成度此段申進候也

◎達學第二一七號 明治廿四年七月十三日 市町村立小學校長訓導

郡役所又ハ市役所ノ所轄ヲ異ニシ轉任シタルトキハ甲乙郡市長へ該出發着任ヲ届出ヘシ

◎號外 明治十五年四月十日 町村立小學校長訓導

校務受渡心得別紙ノ通相定候條此旨相達候事

(別紙) 校務受渡心得

第一條 町村立小學校長若クハ首座訓導轉任又ハ免職ノ辭令ヲ受タタルトキハ日數十日以内ニ左ノ項目ニ從ヒ目錄書ヲ製シ新任ノ校長若クハ首座訓導ト互ニ受渡ノ証書ヲ交付スヘシ且受渡相濟ミタルトキハ目錄書及演說書寫ヲ添へ所轄郡役所へ開申スヘシ

但受渡ノ証書ハ必ス學務委員ノ保証ヲ要ス(明治十七年十二月六日無効ヲ以テ追加)

二 甲號表簿

- 一 管掌ノ書籍器械
- 一 管掌ノ諸布違并違及指令書類
- 一 生徒試験書類

右ノ外校務上必須ノ書類

第二條 前條項目中若シ引受ク難キモノアルハ新任者ニ於テ其事由ヲ詳悉シ郡長ヲ經テ縣令ニ具申スルコトヲ得

第三條 校長若クハ首坐訓導轉任又ハ免職病死ノ節缺員間ノ校務ハ其次坐訓導等ニ於テ之ヲ取扱ヒ退テ新任者ト互ニ受渡ヲ爲スヘシ

第四條 生徒課程ノ現況及將來施行スヘキ事項ノ意見且學事ニ付自今縣廳ヘ何又ハ郡役所ヘ照會中等其他教育上須要ノ事件ハ詳悉之ヲ演說書ニ記載シ互ニ受渡ヲ爲スヘシ

●學第九五九號

明治三十年八月三十一日

郡 市 長

市町村立小學教員正當ノ資格アルモノヲ得難キ時ハ郡市長ハ一ク年以内ノ期限ヲ以テ品行方正ニシテ其教授ニ任フヘキモノト認ムルモノヲ一時雇員ニ採用スルコトヲ得

但雇員ヲ使用シタルトキハ其姓名年齢住所族籍學校名月俸額並ニ使用ノ期限ヲ具シ且其學業職務賃額ノ履歷書ヲ添付シ届出ヘク半途解僱シタルトキハ其旨届出ヘシ

●學第八四一號

明治三十年八月三十一日

静岡縣內務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒

小學校備員使用之儀被違候ニ付テハ任用解僱トモ左記書式ニ依リ辭令書交付相成可然將又月俸額ハ准教員月俸額ニ準シ給與差支無之依命此段及通牒候也

追テ裁縫科教授雇ノ儀ハ從前ノ通りニ有之候爲念添申候也

備員辭令書式

半途解僱者ニ用キル辭令書式

何 某
某郡某町立某小學校備員
命ス
但明治何年何月何日迄
勤務
年月日 某郡役所

某小學校備
何 某
月俸金何圓給與
年月日
某郡役所

某小學校備
何 某
依願解僱
年月日
某郡役所

●縣令第二十八號

明治二十五年二月二十五日

明治二十四年^廿文部省令第二十一號第八條ニ基キ小學校長及教員職務及服務細則左ノ通相定ム

小學校長及教員職務及服務細則

- 第一條 學校長ノ擔任スヘキ職務ノ概目ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 一 尊影ノ奉置ニ關スル事

- 一 但尊影ヲ拜戴シタル學校ニ限ル
- 二 教育ニ關スル勅語ノ謄本ノ奉置ニ關スル事
- 三 教育ニ關スル法律命令ヲ輯録保管スル事
- 四 所屬教員ヲ監督シテ秩序ヲ保持シ且小學校教則大綱及小學校教則ノ趣旨ニ基キ全校児童教育ノ方針ヲ指揮スル事
- 五 所屬教員ノ勤怠ヲ監査スル事
- 六 校舎内外ノ管理ニ注意スル事
- 七 各學級ノ教科目ノ教授時間制ヲ編製スル事
- 八 所屬教員ノ擔當スヘキ學級ヲ指定スル事
- 九 所屬教員ノ擔任スル児童教育ノ得失ヲ監査スル事
- 十 全校児童ノ學業及品行ヲ監査スル事
- 十一 児童賞罰ノ事
- 十二 児童學業ノ試験ヲ監査シ及之ニ關スル問題、答案、品評ヲ檢閲スル事
- 十三 児童出席簿ヲ檢閲スル事
- 十四 學校沿革誌ヲ編製スル事
- 十五 校務日誌ヲ記録スル事
- 十六 學校名ヲ以テ文書等ヲ重複スル事
- 十七 學校ノ印章及管鑰ヲ保管スル事
- 十八 所屬教員ヨリ提出セル請起案ヲ裁決スル事
- 十九 必要ナル文書簿冊ヲ整理及保存スル事

二十 學校備付ノ器具器機圖書等ヲ保管シ及其整齊ヲ監査スル事

廿一 前各款ノ外法律命令ノ指定ニ從ヒ其事務ヲ處理スル事

第二條 前條第三第七第十三乃至第十七第十九第二十ノ事項ハ所屬正教員一時准教員一時モシテ分掌セシムルコトヲ得

第三條 學校長及學校長ヲ置カサル學校ノ首席正教員第一條ノ職務ヲ行フニ故障アルトキハ其次席ノ正教員之ニ代ルヘシ

第四條 單級學校ニ於テハ正教員若クハ准教員一時第一條ノ職務ヲ行フヘシ

第五條 學校長及副校長ヲ置カサル學校ノ首席正教員ハ所屬教員ノ會議ヲ開クコトヲ得
前項會議ヲ開ク場合ニ於テハ學校長若クハ首席教員其議長トナルヘシ

第六條 正教員准教員一時ハニ擔任スヘキ職務ノ概日ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 學校長ノ指揮スル方針ニ從ヒ児童ノ教育ヲ掌ル事
- 二 學校長ノ指定ニ從ヒ各學級ノ教育ヲ擔任スル事
- 三 教案ヲ調製スル事
- 四 教室内外ノ管理ニ注意スル事
- 五 児童ノ學業ヲ進歩習熟セシメ及其品行ヲ獎勵查察スル事
- 六 児童賞罰ノ議ヲ參與スル事
- 七 児童學業ノ試験ヲ施行シ及之ニ關スル問題ヲ起案シ答案ヲ品評スル等教育ノ成績ヲ調査

スル事

八 兒童出席簿記入ノ事

九 教授用ノ器具器械圖書等ヲ整理スル事

十 教授用物品ノ新調又ハ修理ヲ要スルトキ學校長ニ申立ツル事

第七條 正教員准教員一時教授スルモノハ前條ノ外學校長若クハ首席教員ノ指揮ニ從ヒ校務ヲ分掌スルコトアルヘシ

第八條 正教員准教員一時教授スルモノ校務上ニ就キ意見アルトキハ學校長若クハ首席教員ニ向テ教員會ノ開會ヲ請求スルコトヲ得

第九條 准教員補助教員スルモノハ學校長及首席教員ノ指揮ニ從ヒ其職務ヲ助ク

第十條 小學校長及教員ハ許可ヲ受クスシテ擅ニ職務ヲ離レ又ハ職務上現住スル所ノ地ヲ離ルハコトヲ得ス

第十一條 小學校長及教員ハ其小學校ニ於テ定メタル出勤時間迄ニ參校シ職員出勤簿ニ捺印スヘシ

第十二條 小學校長及教員疾病等ニヨリ參校シ難キハ出勤時間迄ニ其小學校へ届出ツヘシ
疾病ノ爲メ欠勤七日ニ及ビタルトキハ醫師ノ診断書ヲ添ヘ更ニ届出ツヘシ
小學校長及教員忌服ヲ受クル時ハ其小學校及郡市長へ届出ツヘシ

前項郡長へ届出ツルトキハ町村役場ヲ經由スヘシ

●甲第九號

明治二十五年三月十六日

郡	役	所							
市	役	所							
町	村	役	場						
市	町	村	立	小	學	校	幼	稚	園

市町村立小學校長教員及幼稚園保母等歸省墓參其他ノ事故ニヨリ請假若クハ旅行セント欲スルトキ學校長及訓導ハ郡長若クハ市長ノ許可ヲ得准訓導及保母ハ市町長村若クハ町村學校組合長ノ許可ヲ得ヘシ

●甲第廿七號

明治三十一年五月二十一日

郡	役	所	
市	役	所	
町	村	役	場

郡書記以下吏員戸長役場吏員公立小學校職員浦役人旅行願許否並ニ除服違取扱方自今左ノ通心得ヘシ

一 公立學校長教員(節密)ハ郡長ニ於テ公立學校授業生ハ其學校管理理者ニ於テ取扱フヘシ

●號外

明治十四年七月二十二日

町村立小學校教員

小學校教員心得別冊ノ通文部卿ヨリ頒布相成候ニ付テハ能ク其旨趣ヲ体シ教員ノ本分ヲ諒ラサル様可致因テ一部宛交付候條此旨相達候事

小學校教員心得

小學校教員ノ良否ハ普通教育ノ弛張ニ關シ普通教育ノ弛張ハ國家ノ隆替ヲ保ル其在タル重且大ナリト謂フヘシ今夫小學校教員其人ヲ得テ普通教育ノ目的ヲ達シ人々ヲシテ身ヲ修メ業ニ就カシムルニアラスンハ何ニ由テカ尊王愛國ノ志氣ヲ振起シ風俗ヲシテ淳美カラシメ民生ヲシテ富厚ナラシメ以テ國家ノ安寧福祉ヲ増進スルヲ得ンヤ小學校教員タル者深ク此意ヲ體スヘキナリ因テ其恪守實踐スヘキ要款ヲ左ニ掲示ス尙モ小學校教員ノ職ニ在ル者夙夜匪懈服膺シテ忽忘スルコト勿レ

明治十四年六月

文部卿 福岡孝輔

- 一 人ヲ導キテ善良ナラシムルハ多職ナラシムルニ比スレハ緊要ナリトス故ニ教員タル者ハ殊ニ道德ノ教育ニ力ヲ用ヒ生徒ヲシテ 皇室ニ忠ニシテ國家ヲ愛シ父母ニ孝ニシテ長上ヲ敬シ朋友ニ信ニシテ卑幼ヲ慈シ及自己ヲ重ニスル等凡テ人倫ノ大道ニ通曉セシメ且常に己カ身ヲ以テ之カ模範トナリ生徒ヲシテ德性ニ薰染シ善行ニ感化セシメントト務ムヘシ
- 一 智心教育ノ目的ハ專ラ人々ヲシテ智識ヲ廣メ材能ヲ長シ以テ其本分ヲ盡スニ適當ナラシムルニ在リ豈徒ニ聲名ヲ博取シ奇功ヲ貪求セシメンカ爲メナランヤ故ニ教員タル者ハ宜ク此旨ヲ體認シ以テ生徒智心上ノ教育ニ從事スヘシ
- 一 身體教育ハ獨リ體操ノミニ依テスヘカラス宜ク常ニ校舍ヲ清潔ニシ光線溫度ノ適宜及大

氣ノ流通ニ留意シ又生徒ノ健康ヲ害スヘキ癖習ニ汚染スル等ヲ豫防シ以テ之ニ從事スヘシ

- 一 鄙吝ノ心志陋劣ノ思想ノ懷クヘカヲサルハ人々皆然リト雖モ特ニ教員タル者ハ自己ノ心下ニ於テ最モ謹テ之ヲ除去セサルヘカラス蓋シ幼童ノ智徳ヲ養成シ身體ヲ教育スルノ重任ニ膺リ以テ世ノ福祉ヲ増進スルノ實効ヲ奏スルハ固ヨリ鄙吝陋劣ニシテ儉安貪利ヲ事トスル徒ノ敢テ能クスヘキ所ニアラザレハナリ
- 一 學校管理上ニ欠クヘカヲサル快活ノ氣象ハ心神委靡セル人ノ能ク具有スヘキ所ニアラス又生徒教授上ニ欠クヘカヲサル許多ノ勞力ハ身體孱弱ナル者ノ能ク享耐スヘキ所ニアラス是故ニ教員タル者ハ宜ク特ニ起居飲食等ノ常度ヲ守リ散漫及運動等ノ其規ニ循テ其身心ノ健康ヲ保全シ以テ其職務ヲ盡スノ地ヲ做サントト務ムヘシ
- 一 教員タル者ハ唯小學校教員中ニ掲クル所ノ學科ニ通スルノミヲ以テ足レリトセス博ク教則外ノ學科ニ涉ラントトヲ要ス尙モ此ノ如クナラザレハ徒チ教授上ニ破綻ヲ生シテ生徒ノ信憑ヲ失ヒ遂ニ其身ヲ學校ノ上ニ置ク能ハサルニ至ルヤ必セリ
- 一 教員タル者ハ常ニ整然タル秩序ニ由リ學識ヲ廣メ以テ其心志ヲ練磨セシメトト務ムハシ否テサレハ決シテ教授ノ實効ヲ奏スル根柢ヲ立ツル能ハス蓋シ我カ練磨セサルノ心志ヲ以テ能ク他人ノ心志ヲ練磨シ得ルモノハ未タ付テ之アラサルナリ
- 一 師範學校等ニ於テ修テ學習セシ所ノ教育法ハ概テ其一様子タルニ過キサルモノナリ故ニ教員タル者ハ徒ニ之ヲ踏襲スルヲ以テ足レリトセス宜ク常ニ自ラ其得失利害ヲ考究取捨シ以テ之ヲ活用セシメトト務ムヘシ
- 一 人心及身體ノ組織作用ニ至テハ教員タル者最モ深ク意ヲ留メ購究ト經驗トニ由テ其

原理實際ニ精通セシコトヲ要スヘシ否ラサレハ假令汝々汲々トシテ教育ニ從事スルモ遂ニ態度妄作ノ弊ヲ免ル、コト能ハサルナリ

一 學校管理ノ事ハ之ヲ教授ノ事業ニ比スレハ更ニ困難ナリトス故ニ教員タルモノハ常ニ人情世態ヲ審ニシ通義公道ヲ辨シ且事ヲ處スルノ方法務ヲ理スルノ順序等ヲ體練セサルヘカラス

一 校則ハ校内ノ秩序ヲ整肅ナラシムルニ止ラス兼テ生徒ノ徳性ヲ勸誘スルノ要具タリ故ニ教員タル者ハ能ク此旨趣ヲ體認シ以テ之ヲ執行セサルヘカラス

一 熟練懇切匪勉ノ三者ハ亦教育上ニ欲クヘカラスナルノ美事タリ故ニ教員タル者能ク此三者ヲ具備シテ其事ニ從フトキハ獨リ教授ノ實効ヲ奏スルヲ得ヘキノミナラス又生徒ヲシテ不知不曉此等ノ美事ニ感化シ習慣自然ノ如クナラシムルニ至ルヘシ

一 學校ヲ統率スルハ殊ニ剛毅忍耐威重懲罰等ノ諸徳ニ由ルヘシ蓋シ剛毅ニアラサレハ難ニ勝ル能ハス忍耐ニアラサレハ久ヲ持スル能ハス威重ニアラサレハ人ヲ服スル能ハス懲罰ニアラサレハ衆ヲ懷ル能ハス勉勵ニアラサレハ事ヲ成ス能ハス

一 生徒若シ黨派ヲ生シ爭論ヲ發スル等ノ事アラハ之ヲ處置スル極メテ穩密ニシテ偏頗ノ弊ナク苛刻ノ失ナカラント要ス故ニ教員タル者ハ常ニ寬厚ノ量ヲ養ヒ中正ノ見ヲ持シ就中政治及宗教上ニ涉リ執拗強激ノ言論ヲナス等ノコトアルヘカラス

一 人トシテ善良ノ性行ヲ有スヘキハ言ヲ俟タスト雖モ教員タル者ニ至テハ最モ善良ノ性行ヲ有セサルヘカラス否ラサルトキハ獨リ幼童ノ徳性ヲ涵養シ善行ヲ誘掖スルコト能ハサルノミナラス却テ其天賦ヲ戕賊スルニ至ルヘシ蓋シ幼童ノ中心タル至處至冲ニシテ外物ノ爲ニ感染セラレ、コト極テ鋭敏ナレハナリ

一 教員タル者ノ品行ヲ尙クシ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムヘキハ亦其職業ニ對シテ盡スヘキノ得ト謂フヘシ蓋シ品行ヲ尙ムスルハ其職業ノ品位ヲ貴クスル所以ニシテ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムハ其職業ノ光澤ヲ増ス所以ナリ

●丙第三十一號 明治十五年四月二十九日 郡 一町 村

縣社以下神社祠官祠掌及寺院住職并教導職又ハ小學校長訓導學務委員其他渾テ職務アル者罪ヲ犯シ裁判所ノ處斷ヲ受タル者檢事ヨリ通知有之候節ハ速ニ其罪狀刑名ヲ詳記シ戸長ヨリ可相出此旨相達候事(十五年六月丙第四十三號ヲ以テ修正)

●甲第二十號 明治二十八年八月十五日 郡 役 所 市 役 所 町 役 場 市町村立小學校

市町村立小學校男教員職服左之通相定ム
但此際一時ニ本令ニ依リ難キ事情アルモノハ明治廿九年六月末日迄通常ノ洋服又ハ羽織袴ヲ著用スルコトヲ得

形狀地質	頭 紐	前 章	横 條	章	形	上	衣	抽 葦	形狀地質	章
如 黑 紗 革	黑 皮 巾 三 分 五 厘 釦	金 經 凡 小 二 線 附 筋	黑 蛇 腹 附 筋	大 連 形 如 圓 全 邊 通 宜 黑 蛇 腹 如 上 衣 巾 八 分	及 背 面 之 黑 線 色 黑 紺 同 子 圖	又 八 紺 同 子 圖	黑 蛇 腹 如 上 衣 巾 八 分	黑 蛇 腹 如 上 衣 巾 八 分	如 黑 紗 革	黑 皮 巾 三 分 五 厘 釦

學 務 員

一、夏服 白色ヲ用ケルモ妨クナシ此場合ニ於テハ帽ニ白ノ日覆ヲ附スヘシ但特例ノ章
ニ依リテハ別ニ定ムルコトナリ
（兼形見）

俸給加俸及旅費

●縣令第廿五號 明治三十年三月三十一日

明治二十五年に縣令第二十三號市町村立小學校教員給料額標準左之通改定ス

市町村立小學校教員給料額標準

●第一條 正教員ノ俸給ハ左表ニ依ル但十級俸ハ高等小學校ニ在テハ女教員ノ最下給トス

名 稱	給別		一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
	男	女										
本 科	上級給	五拾圓	四拾圓	三拾圓	廿五圓	貳拾圓	拾七圓	拾五圓	拾三圓	拾壹圓	九圓	
	下級給	四拾五圓	卅五圓	廿七圓	貳圓	拾八圓	拾六圓	拾四圓	拾二圓	拾圓	八圓	
專 科	男	貳拾五圓以下七圓以上										
	女	貳拾圓以下六圓以上										

第二條 准教員ノ俸給ハ左表ニ依ル但正教員ニ代リ一時教授スル本科准教員ハ六圓以上トス

名 稱	學校		高等	小學校	尋常	小學校
	男	女				
本 科	男	貳拾圓以下七圓以上				拾五圓以下五圓以上
	女	拾五圓以下五圓以上				拾圓以下四圓以上
專 科	男	拾五圓以下四圓以上				
	女	拾圓以下三圓以上				

第三條 増俸ハ在職一ヶ年ヲ經タルモノニアラサレハ之ヲ行ハサルヲ例トス

附 則

第四條 從來支給ノ俸給額ニシテ本規定第一條第二條ニ該當セズ増俸ヲ要スルモノニ就テハ第

三條ヲ適用セズ

第五條 本規定ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

●郡第一號 明治三十年四月一日 郡 役 所

町村立小學校專科教員補助准教員推薦之際ハ別記書式ニ依リ該教員ニ給與スヘキ俸給額ニ關ス
ル町村長ノ意見書ヲ徴シ差出スヘシ但一旦意見ヲ聞キ定メタル俸給額以內ニ於テ任用スル教員

ノ俸給額ニ關シテハ本文ノ限リニアラス

明治二十六年^即郡第二十二號ハ自今廢止ス

(書式)

何町(村)立何々小學校教員俸給額意見書

一月俸金何圓

何 某

右ハ今般何町(村)立何々小學校何教員トシテ本郡長ヨリ推薦相成候ニ付テハ該教員ニ給與セラルヘキ俸給額前書之通意見具申候也

年 月 日

某町村長印

知 事 宛

静岡市役所

●學第二八四號 明治三十年四月一日

其市立小學校專科教員及補助教員推薦ノ際ハ別記書式ニ依リ該教員ニ給與スヘキ俸給額ニ關スル市參事會ノ意見具申スヘシ但一旦意見ヲ聞キ定メタル俸給額以內ニ於テ任用スル教員ノ俸給額ニ關シテハ本文ノ限リニアラス

明治二十五年三月丁第一號ハ自今廢止ス

(書式) 郡第一號書式ト租キ同一ニ付略ス

●甲第十四號 明治三十年四月九日

郡 役 所
市 役 所
町 村 役 場
市町村立小學校

明治三十年^即縣令第二十五號市町村立小學校教員給料標準施行以前ニ給與シタル市町村立小學校各本科正教員ノ俸給額ニシテ同令第一條ニ抵觸セサルモノハ此際別ニ辭令書ヲ交付セサルニ付其俸給額ハ明治三十年^即勅令第二號第二條ニ依リ定メタルモノト同様心得ヘシ

●縣令第廿五號 明治二十五年二月二十五日

明治二十三年^即勅令第二百十五號小學校令第六十條ニ據リ市町村立小學校教員給料及諸給與支給規則左ノ通り相定ム

市町村立小學校教員給料及諸給與支給規則

第一條 俸給ハ毎月二十二日支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ繰上クトス

第二條 依給ハ新任復職増俸減俸トモ總テ辭令書交付ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ支給スルモノトス

第三條 轉任ノトキハ辭令書交付ノ日迄前任學校ニ於テ支給シ新任學校ニ於テハ其翌日ヨリ支

給スルモノトス但事務引繼ノ爲メ直ニ赴任スル能ハサルモノハ引繼ヲ終ル日迄前任學校ニ於テ支給スヘシ

依給支給後轉任ノトキハ前任學校ニ於テ過渡ノ分其際返付セシムヘシ

第四條 休職若クハ退職又ハ死亡シタルトキハ當月分ノ全額ヲ支給スルモノトス

第五條 職務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルニ依リ休職ヲ命シタルモノハ最初三箇月間ハ俸給全額ヲ給シ其後ハ半額ヲ支給スルモノトス

第六條 執務時間ノ制限以外ニ於テ補習科ノ教授ヲ擔任シタル執務ノ報酬ハ俸給三分ノ一以内トス

第七條 願濟旅行及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト十五日ヲ除ユル者ハ俸給半額ヲ減シ日割ヲ以テ之ヲ給シ三十日ヲ除ユルモノハ全ク支給セサルモノトス

第八條 病氣ノ爲メ執務セサルコト三十日ヲ除ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減シ六十日ヲ除ユルモノハ其三分ニ減シ日割ヲ以テ之ヲ給シ九十日ヲ除ユルモノハ全ク支給セサルモノトス

但職務ニ依リ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ルモノハ此限リニアラス

第九條 忌引ノトキハ俸給全額ヲ給シ忌引中墓參等ノ爲メ旅行スルモノハ第七條ニ據ル

第十條 忌引ノ場合ト第七條若クハ第八條ノ場合ト連續スルトキハ其忌引ノ日數ヲ扣除ス第七

條若クハ第八條ノ期限ヲ經過セシモノ賜暇忌引ニ連續シ其賜暇忌引後直ニ執務スルモノハ該賜暇忌引ノ日ヨリ本俸ヲ支給ス但賜暇忌引ヲ過キ尙執務セサルモノハ減俸期限内ニ在テハ減俸ヲ給シ其期限ヲ經過セシモノハ支給セサルモノトス

第十一條 第七條ノ場合ト第八條ノ場合ト相續テ起ルトキハ其日數ハ總テ前後ヲ通算ス但第七條減俸期限内ニ在ルモノ第八條ニ移ルモノ本俸ニ復セス又減俸期限ヲ經過セシモノ同條ニ移ルモノ減俸ヲ支給セス

第十二條 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル

俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ切捨トス

第十三條 第六條ノ報酬金支給方ニ就テハ第五條ヲ除キ本則各條ヲ適用ス

第十四條 特ニ職務ニ勉勵スル者ハ一箇月ノ俸額以内ノ手當金ヲ支給スルコトヲ得

●縣令第二十七號 明治二十五年二月二十五日

明治廿三年十月勅令第二百十五號小學校令第六十條ニ基キ市町村立小學校教員給料ノ換給歩合左ノ通り相定ム

第一條 市町村立小學校教員給料ノ若干ヲ土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ換給セントスルトキハ左ノ歩合ニ依ルヘシ

一 田地	小作米額(米ハ第三條ニ依リ代價ヲ算出ス)ヲ標準トス			
月俸額	四圓以下	九圓以下五圓以上	十六圓以下十圓以上	十七圓以上
歩合	十分ノ一以内	九分ノ一以内	八分ノ一以内	七分ノ一以内
二 畑地	標準ハ第一款ニ同シ			
第一步合	十分ノ一以内トス			
三 米				
月俸額	四圓以下	九圓以下五圓以上	十六圓以下十圓以上	十七圓以上
歩合	十分ノ二以内	九分ノ二以内	八分ノ二以内	七分ノ二以内
四 薪炭其他ノ日用物品				
第三款歩合	十分ノ一以内トス			
五 海産物若クハ陸産物ヲ以テ換給セシムルトキハ第二款ノ歩合ニ據ル				
第二款	前條各款ノ内第一款第三款第五款ヲ併セ給スルコトヲ得ス			
第三款	第一條各款ノ價格ハ毎年一月ニ於テ之ヲ算出ス			
乙第十一號	明治二十九年九月十八日	郡 役 所	市 役 所	

明治二十九年法律第十四號市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ年功加俸ヲ云々キモノアルトキハ左ノ書式ニ依リ取調成規ノ勤続年數ニ違スル月ノ前月十五日迄ニ縣廳ヘ差出スヘシ

但本年十月マテニ成規ノ勤続年數ニ違スルモノハ此際取調メ本月末日迄ニ差出ヘシ

書式

職 年 月	本 俸 月 額	加 俸 月 額	職 氏 名
滿五ヶ年ニ達スル年月			

滿十箇年及滿十五箇年ニ達スルモノ亦本書式ニ準ス又明治廿九年法律第十四號第五條第六條及同年法律文部省令第七號第二條ニ該當スルモノハ本書式欄外ニ其事由ヲ詳記スヘシ

●四第八八七號 明治二十九年十二月十八日 靜岡縣内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒

市町村立小學校教員年功加俸ハ各郡市長ニ於テ惣代人ノ資格ニテ受領ノ義(云々中略)就テハ三ヶ月分ツ、取調メ左ノ期月ニ於テ惣代人ニ對シ仕拂可相成候ニ付右ニ御承知ノ上別紙書式ノ圖書ヲ仕拂期月ノ十日迄ニ御差出有之度依命此段及通牒候也

一 一月	二 二月	三 三月	三ヶ月分	四 四月
一 四月	五 五月	六 六月	三ヶ月分	七 七月

一七月 八月 九月 三ヶ月分 十月
 一十月 十一月 十二月 三ヶ月分 一月

退テ轉任退職等ノ場合ニ於テ其受取未済ニ屬スル分ヲ直ニ受取度モノ有之候節ハ期月ニ拘ハ
 ラス仕拂可相成ニ付其時々調書御蓋出有之度尤此場合ニ於テ總代受取ヲ要セル程ノ多數ノ人
 員ナラサルハ本人ニ對シ仕拂命令發行相成候テモ差支無之義ニ候此段申添候也

調書書式

自明治何年何月何日分市町村立小學校教員年功加俸調書
 至明治何年何月何日分

一金 何程

此 譯

何ノ誰外何人代理

受取人 何 之 誰

加俸額	本俸額	加俸ニ對スル 加俸ノ割合	町村名 學校名	職名	氏名	備考
○	○	百分ノ十五	何學校	何々	何ノ誰	本俸月額何圓前期ヨリ異動 ナシ
○	○	百分ノ廿五	何學校	何々	何ノ誰	本俸月額何圓何月何日ヨリ 加俸給與ニ付何ヶ月ト日割 何日分
○	○	何々	何々	何々	何ノ誰	本俸月額何圓何月何日ヨリ ヨリ何圓ニ増(減)俸ニ付本 俸月額何圓ニ對スル何ヶ月 ト日分及本俸月額何圓ニ 對スル何ヶ月ト日分

前番之通仕拂有之度候也

明治何年何月何日

知 事 宛

何郡(市)長氏名印

●縣令第十八號

明治三十一年二月二十五日

明治二十五年に縣令第二十四號市町村立小學校教員旅費額標準左ノ通改定ス

市町村立小學校教員旅費額標準

名稱	種別	流車賃	船賃	車馬賃	日當	宿泊料
正教員	一哩	三錢以下二錢以上	四錢以下二錢以上	十五錢以下十錢以上	五十錢以下四十錢以上	一圓以下七十錢以上
准教員	一哩	二錢以下一錢以上	三錢以下一錢五厘以上	十二錢以下八錢以上	四十錢以下三十錢以上	七十錢以下五十錢以上

◎縣令第十九號

明治三十一年二月二十五日

明治二十五年に縣令第二十六號市町村立小學校教員旅費支給規則左之通改定ス

市町村立小學校教員旅費支給規則

學 事 海船加賃及旅費

第一條 市町村立小學校教員公務ニ依リ旅行スルトキハ明治三十一年縣令第十八號市町村立小學教員旅費額標準ニ基キ其市町村長ニ於テ定メタル支給額ニ依リ順路ニ從ヒ旅費ヲ支給スヘシ

第二條 瀛車旅行ニハ哩數ニ應シ瀛車賃ヲ水路旅行ニハ海里數ニ應シ船賃ヲ其他ノ旅行ニハ陸路旅行トシ里數ニ應シ車馬賃ヲ支給スヘシ

宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給スヘシ但水路旅行ニハ宿泊料ヲ給セス

第三條 瀛車賃船賃車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ之ヲ支給スヘシ但一位未滿端數ノ路程ハ切捨トス

第四條 陸路六里未滿瀛車十哩未滿水路十海里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ支給セス

但各種ノ旅行相跨ルトキハ總テ之ヲ陸路ニ改算シ六里ニ滿ツルトキハ支給スヘシ

前項本文ノ場合ト雖公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ支給スヘシ

第五條 年度若クハ日ニ依リテ旅費ヲ區分シテ計算スルノ必要アル場合ニ於テ瀛車旅行若クハ水路旅行ニシテ其區別判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ其路程ヲ區別シテ計算スヘシ

第六條 強雨積雪又ハ道路險惡若クハ急行ヲ要スル爲定額ノ車馬賃ニテ支給シ難キ場合ニハ實

費ヲ以テ支給スルコトヲ得

第七條 在職學校所在地ノ市町村内ト雖モ出張遠距離ニ涉ルトキハ一日五十錢以内ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

第八條 赴任又ハ新ニ任用スル爲召喚スルモノ、旅費ハ其市町村ノ規定ニ從ヒ本則ニ依リ支給スヘシ

赴任旅費ハ瀛車賃船賃及車馬賃ニ限リ定額ノ二倍ヲ支給スヘシ

第九條 旅行中私事ノ爲許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給スヘシ

第十條 旅行中休職若クハ退職ノモノ又ハ死亡ノモノニハ舊在職地マテノ旅費ヲ支給スヘシ但失職又ハ懲戒免職ニ處セラレタルモノハ此限リニアラス

第十一條 赴任召喚又ハ前二條旅行ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ瀛車旅行ハ一日二百哩水路旅行ハ一日百海里諸陸路旅行ハ一日十二里諸トス但數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トス但通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ之ヲ計算ス

兒童

●縣令第十六號

明治二十五年二月二十三日

明治二十四年文部省令第十六號第四條ニ基キ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ノ代人ニ關スル規則左ノ通り相定ム

第一條 明治二十四年文部省令第十六號第四條第一項ノ場合ニ於テハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ヨリ市町村長ニ届出全第二項ノ場合ニ於テハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ヨリ事情ヲ具シテ市町村長ニ願出ツヘシ

第二條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者ノ代人トナルコトヲ得ヘキモノハ其兒童ト同一ノ市町村ニ在住シ滿二十五歳以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受クサルモノニ限ル

第三條 代人ヲ立テタル場合ニ於テハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ代人ニ依リ其兒童ノ授業料ヲ納付スヘシ

第四條 代人謂ハレナク其義務ヲ怠ルトキハ市町村長其兒童ヲ保護スヘキ者ニ通告シテ之ヲ變換セシムヘシ

代人解除シ若クハ代人辭退シタルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ヨリ市町村長ニ届出ツヘシ
●縣令第十八號 明治二十五年二月二十三日

明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第二十四條ニ基キ學齡兒童ノ就學及家庭教育等ニ關スル規則ヲ左ノ通り相定ム

學齡兒童就學及家庭教育等ニ關スル規則

第一條 前年五月ヨリ其年四月マテニ兒童ノ學齡ニ達スルモノアルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代人ヨリ第一號書式ニ依リ其年二月限リ市町村長ニ届出ヘシ

第二條 前年五月ヨリ其年四月マテニ學齡ニ達スル兒童ニシテ其年四月ヨリ就學セシムルコト能ハサルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代人ヨリ第二號書式ニ依リ事由ヲ具シテ其年二月限リ就學ノ猶豫又ハ免除ヲ市町村長ニ願出ヘシ

第三條 左ノ一欸若クハ數欸ニ該當スル兒童ニアラサレハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代人ハ就學ノ猶豫又ハ免除ヲ請フコトヲ得ス

一 癡疾者

二 身心ノ發達就學ノ度ニ適セサルモノ

三 疾病ニ罹リ速ニ治癒ノ目的ナク學年ノ始ヨリ二箇月以上就學ニ堪ヘサルモノ

四 一家中ニ於テ疾病ニ罹リタルモノアルトキ他ニ看護ノ人ナキモノ

五 一家貧乏ニシテ就學スルトキ其生活ニ差支テ生スルモノ

六 旅行又ハ不時ノ故障ノ爲メ學年ノ始メヨリ二ヶ月以内ニ就學セシメ難キ場合若クハ通

二十七年
第七號
第一條
以下
改正

學上著シキ不便アルモノ

前項就學猶豫ノ時限ハ總テ一學年以内トス第一項ノ第一款乃至第四款ニ該當スル場合ニシテ就學ノ猶豫又ハ免除ヲ請フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第四條 就學猶豫ノ許可ヲ得タルモノト雖モ其期限内ニ於テ就學シ得ヘキ場合ニ至リタルトキ又ハ就學免除ノ許可ヲ得タルモノト雖モ其事故消滅シ就學シ得ヘキ場合ニ至リタル時ハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代人ヨリ第一號書式ニ準シ市町村長ニ届出ヘシ

市町村長ハ就學ノ猶豫ヲ許可シタル期限内ト雖モ其事故全ク消滅セシモノト認ムルトキ及ヒ就學ノ免除ヲ許可シタルモノト雖モ就學シ得ヘキ場合ニ至リタル者ト認ムルトキハ學齡兒童ノ保護スヘキ者若クハ其代人ニ對シ入學スヘキ小學校及其期日ヲ指定シテ兒童ノ就學ヲナサシムヘシ

第五條 就學猶豫ノ許可ヲ得タルモノニシテ滿期ニ至リ就學セシムルトキハ第一號書式ニ準シ市町村長ニ届出ヘシ

就學猶豫ノ許可ヲ得タルモノニシテ滿期ニ至リ尙ホ就學セシムルコト能ハサルトキ又ハ就學ノ後未タ尋常小學校ノ教科ヲ卒業スシテ第三條第一項ノ一款若クハ數款ニ該當スル事故ヲ生シタル場合ニ於テハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代人ヨリ第二號書式ニ準シ市町村長ニ

届出ヘシ

第六條 未タ尋常小學校ノ教科ヲ卒業サル學齡兒童ニシテ他ノ市町村ニ轉住セントスルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代人ヨリ市町村長ニ申出ツヘシ

市町村長ハ前項ノ申出アルトキハ第三號書式ニ依リ學齡送籍書ヲ轉住地ノ市町村長ニ送付スヘシ

第七條 未タ尋常小學校ノ教科ヲ卒業サル學齡兒童ニシテ他ノ市町村ヨリ轉住シタルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代人ヨリ就學セシムルモノハ第一號書式ニ準シ市町村長ニ届出テ就學シ能ハサルモノハ事由ヲ具シ第二號書式ニ準シテ市町村長ニ届出ヘシ

第八條 學齡兒童ヲ市町村立小學校若クハ之ニ代用スル私立小學校ニ出席セシメス家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキモノ若クハ其代人ヨリ其年二月限り市町村長ニ届出ヘシ

學齡兒童ヲ家庭又ハ其他ニ於テ教育セントスルニハ左ノ一款若クハ二款ニ該當スル者ニ限ル
一 道路ノ遠隔若クハ困難ナルカ爲メ町村立尋常小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ通學シ能ハサル場合
二 痲疾アルカ又ハ肢体不具ニシテ人衆中ニ出ツルコト能ハサル場合

前項ノ場合ニハ本縣ニ於テ小學校教員タルコトヲ得ル資格アルモノ、教育ヲ受クヘシ
 市町村長ハ家庭又ハ其他ニ於テノ教育ヲ受クル兒童ヲシテ市町村立小學校ノ教員ニ就キ學年
 試験毎ニ市町村立尋常小學校試験ノ程度ト同等ノ試験ヲ受ケシムヘシ
 前項ノ場合ニ於テ市町村立尋常小學校ノ校長若クハ首席教員其兒童ノ尋常小學校ノ教科ヲ卒
 タタルモノト認ムルトキハ左ノ認定証書ヲ與フヘシ

証
 族籍戸主(離男女弟妹等)
 姓 名
 年月日
 印 校
 尋常小學校ノ教科ヲ卒リタルコトヲ認定

年月日
 靜岡縣何市何町立何尋常(尋常)小學校校長姓名印

第九條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代人ハ學齡兒童ヲシテ私立小學校ニ於テ尋常小學校
 ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ其年二月限り市町村長ニ願出ヘシ
 第十條 市町村長ハ第十四條第二項ノ報告ニ接スルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代

人ニ説諭又ハ命令シテ兒童ヲ出席セシムヘシ

前項ノ説諭又ハ命令ニ服セサルモノアルハ市町村長ハ之ヲ監督官廳ニ具申スヘシ
 郡長ハ町村長ヨリ前項ノ具申アルハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代人ニ對シ更ニ説諭
 若クハ命令シテ兒童ヲ出席セシムヘシ

第十一條 市町村長ハ學齡兒童ヲ製シ左ノ事項ヲ記入スヘシ

- 一 學齡兒童ノ住所姓名生年月日
- 二 學齡兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代人ノ住所姓名職業
- 三 就學ノ場所(小學校令第二十二條)
- 四 就學及尋常小學校ノ教科ヲ卒リタル年月日
- 五 就學ノ猶豫又ハ免除ノ事由及年月日
- 六 出席ニ關スル説諭又ハ命令ノ摘要
- 七 小學校令第二十三條ニ依リ欠席一學年ニ及フ者アルトキハ其事由
- 八 小學校令第三十一條第一項及第二項ノ事情アルカ爲メ就學セシムルコト能ハサル者
 ハ其事由

第十二條 市町村長ハ左ノ事項ヲ具シタル就學兒童ノ名簿ヲ製シ學年ノ始メヨリ就學スヘキモ
 ノニ就テハ毎年三月中其他ノモノニ就テハ其都度小學校ニ送付スヘシ

一 學齡兒童ノ住所姓名生年月日

- 二 學齡兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代人ノ住所姓名職業
- 三 修業ノ經歷

市町村長ハ就學兒童中他ノ市町村ニ轉住シ又ハ就學ノ猶豫若クハ免除ヲ許可シタルモノ及ヒ死亡者アルトキハ其都度小學校ニ報告スヘシ

第十三條 市町村立小學校及代用スル私立小學校ニ於テハ學籍簿ヲ製シ左ノ事項ヲ記入スヘシ

- 一 就學シタル兒童ノ住所姓名生年月日
- 二 就學シタル兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代人ノ住所姓名職業
- 三 就學シタル兒童ノ入學退學及卒業ノ年月日
- 四 就學シタル兒童ノ修業ノ經歷

市町村立小學校及之ニ代用スル私立小學校ニ於テハ出席簿ヲ製シテ就學兒童ノ出席缺席ヲ記入スヘシ

第十四條 市町村立尋常小學校及ヒ之ニ代用スル私立小學校ニ於テハ就學兒童ノ尋常小學校ノ教科ヲ卒リタルモノアルトキハ其姓名及卒業ノ年月日ヲ市町村長ニ報告スヘシ

市町村立尋常小學校及之ニ代用スル私立小學校ニ於テハ相當ノ事由ナクシテ出席セサルコト五日以上ニ及フ兒童アルトキハ其兒童ヲ保護スヘキ者若クハ其代人ニ對シ督促ヲナスヘシ其督促二回ニ及フモ出席セサルトキハ之ヲ市町村長ニ報告スヘシ

第十五條 市町村長ハ學齡兒童ニ就キ學年ノ始メヨリ三月以内ニ左ノ事項ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

- 一 前學年ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ卒リタル兒童ノ數
- 二 市町村立尋常小學校及之ニ代用スル私立小學校ニ於ケル兒童ノ現數
- 三 私立小學校及家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修シタル兒童ノ現數
- 四 新學年ニ於テ初メテ就學シタル兒童ノ數
- 五 前學年ノ終リマテニ就學ヲ猶豫シタル兒童ノ現數
- 六 前學年ノ終リマテニ就學ヲ免除シタル兒童ノ現數
- 七 前學年ニ於テ尋常小學校及之ニ代用スル私立小學校ニ入學シタル兒童ノ數

第一號書式 就學届

何郡市町村大字番地族籍職業
何某男女弟妹等
姓 名
何年何月何日生

小學校名
何年何月何日生
右之者本年四月ヨリ頭書シ學校へ就學爲致候ニ付此段及御届候也

年月日

市町村長宛

第二號書式

就學猶豫願

若シ其代人

姓 名 印

何都市町村大字番地族籍職業
何某男女弟妹等

姓 名

何年何月何日生

右之者本年四月ヨリ就學可爲致處何々(詳細ナ)ニ付何年何月マテ就學猶豫ノ義御許可相成度
(醫師診斷書相添)此段相願候也

右

學齡兒童ヲ保護スヘキ者

若シ其代人

姓 名 印

年月日

市町村長宛

就學免除願

何都市町村大字番地族籍職業
何某男女弟妹等

姓 名 印

右之者本年四月ヨリ就學可爲致處何々(詳細ナ)ニ付就學免除ノ義御許可相成度(醫師診斷書相添)此段相願候也

右

學齡兒童ヲ保護スヘキ者

若シ其代人

姓 名 印

年月日

市町村長宛

第三號書式

學齡送籍書

何都市町村大字番地族籍職業
何某男女兄弟姉妹等

姓 名

右之者何都市町村へ轉住候ニ付別紙學齡簿寫及送付候也

年月日

何都市町村長 姓 名 印

何都市町村長宛

●縣令第十七號 明治二十五年二月二十三日

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第二十三條ニ基キ傳染病若クハ風濕スヘキ疾病ニ罹

ル児童一家中ニ傳染病者アル児童不其ノ行爲アル児童課業ニ堪ハサル児童等小学校ニ出席スル
コトヲ許ササル事項ニ關スル規則左ノ通ニ相定ム

第一條 市町村長ハ其市町村内ノ就學児童中傳染病ニ罹ル者又ハ其一家中ニ傳染病者アルトキ
ハ速ニ之ヲ該児童ノ入學セル小学校ニ通知スヘシ
トキハ其児童ノ出席スルコトヲ差止ムヘシ

前項ノ児童左ノ場合ニ該當スル時ハ出席スルコトヲ許ス
一 傳染病ニ罹ル児童全癒ノ後相當ノ消毒法ヲ行ヒ發症ヲ抑止スルハ七日間其他ハ五日
間以上経過シタルトキ

二 一家中ニ傳染病者アル児童該患者治癒若クハ死亡シ又ハ該患者ヲ避病院等ニ隔離シタ
ル後相當ノ消毒法ヲ行ヒ發症ヲ抑止スルハ七日間其他ハ五日間以上経過シタルトキ
前項第一款第二ノ場合ニ於テ消毒法ヲ行ヒタルトキハ市町村長之ヲ其児童ノ入學セル小學
校ノ校長若クハ首席教員ニ通知スヘシ

第二條 小学校長若クハ首席教員児童ノ服藥スヘキ疾病ニ罹ル者アル児童ハ其出席ヲ差止メ之
ハ速ニ市町村長ニ通知スヘシ市町村長ハ其児童ヲ保護スヘキ者若クハ代人ニ對シ其児童ノ小學
校ニ出席スルコトヲ差止ムヘシ
第三條 小学校長若クハ首席教員ニ於テ其生徒中不其ノ行爲アリ發症感化ノ見込キ児童又

ハ課業ニ堪ヘスト認ムル児童アルトキハ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ市町村長、監督官廳ノ許可ヲ得テ児童ヲ保護スヘキモノ又ハ代人ニ對シ
其児童ノ小学校ニ出席スルコトヲ差止ムヘシ

甲第十四號 明治二十七年四月十二日

郡 役 所
市 役 所
町 村 役 場
市町村立小学校

一 明治三十三年勅令第二百五十五號小学校令第二十條ニ掲クル學齡ノ計算ハ滿六歳ニ達シタル
翌月ヨリ起算シ滿十四歳ニ達シタル月ニ終ル

二 同令同條ニ掲クル就學ノ義務ヲ生スル期限ハ兒童ノ滿六歳ニ達シタル其年又ハ翌年ニ於テ
ル學年ノ始メトス

甲第十五號 明治二十七年四月十二日

郡 役 所
市 役 所
町 村 役 場
市町村立小学校

貧窮又ハ其他ノ事情ノ爲ニ小学校令ノ規定ニ依リ就學ノ免除ヲ得タル児童ニシテ夜間日曜日又
ハ便宜ノ日時ニ於テ近易ナル方法ニ依リ相當ノ教育ヲ受ケタル者ニハ其旨ニ依リ市町村長ハ其
市町村立小学校ニ於テ學年末試験ヲ行フノ際之レニ出席セシメ其試験ヲ受ケシムルコトヲ得

市町村立小學校ニ於テ前項兒童ノ試験ヲ爲ストキハ其尋常小學校ノ課程ニ照シ相當ノ証明書又ハ卒業證書ヲ與フヘシ

●學第二三六號 明治廿七年四月十二日 本縣内務部長ヨリ各郡市長ヘ通牒

本月十二日訓令甲第十五號ヲ以テ就學ノ免除ヲ得タル兒童ニシテ近易ナル方法ニ依リ相當ノ教育ヲ受クタル者ニハ市町村立小學校ニ於テ試験ノ上相當ノ証明書又ハ卒業證書ヲ與フルコトヲ得ル義ト相成候ニ就テハ其証明書及卒業證書々式ハ區々ニ涉ラサル方可然ト被存候條左ノ書式ニ依リ調製候様豫メ其向々ヘ御示達量相成度依命此段及通牒候也

●甲第十五號 明治二十三年八月二十三日 郡 役 所 市 役 所 町 村 役 場

學齡未滿ノ兒童ヲ小學校ニ就學セシムヘカラサル旨別記ノ通文部大臣ヨリ訓令相成候ニ就テハ該主旨ヲ體シ嚴重取締方注意スヘシ

●文部省訓令第六號 北海道廳 府縣

學齡未滿ノ兒童ヲ小學校ニ就學セシムルハ學校管理上ニ於テ不都合アルノミナラス兒童身障ノ發育上其害甚カチサルヲ認メ曩ニ學校衛生顧問ニ諮詢シタルニ之ヲ嚴禁スルノ必要ナルコトヲ

答申セリ就テハ自今深く注意シ學齡未滿者ヲ就學セシムルカ如キコトナキ樣嚴重取締ルヘシ 明治二十九年八月十七日 文 部 大 臣 郡 役 所

●學第九五二號 明治廿九年十一月六日 學齡簿整理規程

第一項 學齡簿ハ左ノ五種ニ編纂シ毎種男女ヲ分チ整理スヘシ其毎種ノ簿冊ヲ一冊若クハ數冊トナスハ便宜ニ任スヘシ但男女ヲ同簿冊ニ記載スルトキハ上半ヲ男ノ部、下半ヲ女ノ部トナシ其口座ヲ設クヘシ

第一種 學齡簿 此簿冊ニハ現ニ尋常小學校就學中ノ學齡兒童ヲ記載スヘシ 第二種 學齡簿 此簿冊ニハ尋常小學校ヲ卒業シタル(前年以前卒業シタルト本年卒業シタルト又卒業シテ退學シタルト卒業後尙ホ補習科高等小學校等ヲ修學シ居ルトニ拘ラス)學齡兒童ヲ記載スヘシ

第三種 學齡簿 此簿冊ニハ尋常小學校ヲ卒業シテ半途退學シタル(前年以前退學シタルト本年退學シタルトニ拘ハラス)學齡兒童ヲ記載スヘシ 第四種 學齡簿 此簿冊ニハ就學ノ義務已ニ生セシモ未タ就學シタルコトナキ學齡兒童ヲ記載スヘシ

第五種 學齡簿 此簿冊ニハ就學ノ義務未タ生セサル學齡兒童即チ學年ノ五月以後學齡(六歳一ヶ月)ニ達シ翌年四月(學年ノ始)ニ至サレハ就學ノ義務生セサル兒童ヲ記載スヘシ但就學ノ義務未タ生セサル者(學齡ニ達シタルモノニ限ル)ト雖モ明治廿五年二月縣令第廿九號ニ依リ

號小學校教則第二條第一項但書ノ主趣ニ依リ許可ヲ得テ尋常小學校ニ觀學シタルトキハ本簿冊ヲ除キ第一種ノ簿冊ニ編入スヘシ

第二項 學齡簿毎冊記載ノ順序ハ學齡ニ入リタル年月ノ順序ニ依リ年度(歷年)ノ改マル毎ニ其口座ヲ設クヘシ

第三項 學齡簿ハ半截シタル用紙ニヨリ兒童一人ニ付一葉ヲ用フヘシ又甲ノ簿冊ヨリ除キテ乙ノ簿冊ニ編入スル等拔キ差シテ爲シ易カラシムルタメ成ヘク螺旋綴ニ編綴スヘシ

第四項 學齡簿ニハ學齡兒童就學及家庭教育等ニ關スル規則第十一條ニ揭ケタル諸項ニ該當スル事項アル毎ニ遺漏ナク之ヲ記入シ且ツ新ニ學齡ニ入リタル者(即六歳一ヶ月ニ達シタル者)若クハ學齡ヲ終リタル者(即滿十四歳ヲ過キタル者)又ハ送入籍者、轉籍者、寄留者、死亡者等アルトキハ其都度之ヲ加除シ毎種ノ簿冊常ニ其兒童現在數ト吻合スル様整理スヘシ

第五項 學齡簿ハ毎種其記載セル兒童ノ種類ヲ知り易キ爲メ左ノ區別ニ從ヒ冊毎其ノ表紙中適宜ノ場所ニ括弧内ノ文字ヲ朱書シ置クヘシ

第一種 學齡簿(現在尋常小學校就學者)

第二種 學齡簿(尋常小學校卒業者)

第三種 學齡簿(尋常小學校半途退學者)

第四種 學齡簿(未就學者)

第五種 學齡簿(就學義務未生者)

第六項 學齡簿ハ每種簿冊ノ終尾(一種ヲ數冊)ニ分チタルモノニ計數表ヲ付シ其町村ノ學齡兒童總數及該種ノ簿冊ニ記載セル兒童總數ノ毎年(曆年)ニ於ケル各月末現在ヲ掲クヘシ

其記載例左ノ如シ但學齡兒童ノ總數ハ第一種ノ簿冊ニ掲載シ其他ノ簿冊ハ之ニ省察スルヲ妨グ

明治二十九年 (第一種簿冊ニ記載スヘキ例)

月	全 學 齡 兒 童 數			尋 常 小 學 科 就 學 者 數	
	男	女	合 計	男	女
一 月					
二 月					
三 月					
四 月					
五 月					
六 月					

七月									
八月									
九月									
十月									
十一月									
十二月									

明治三十年以下右ニ做フ

第七項 學齡簿ハ毎年一回郡役所ニ差出シ其ノ檢閲ヲ受クヘシ郡役所ハ適宜檢閲ノ時期ヲ定メ

町村ニ通達ス

第八項 學齡簿ハ町村役場吏員又ハ學務委員中ニ就キ主任者ヲ定メ整理セシムヘシ其ノ主任者

ハ姓名ハ郡役所ニ届置クヘシ

第九項 從來本規程ハ如ク學齡簿ヲ編纂セザリシ町村ハ明治三十年六月三十日限リ本規程ニ準

テ編纂スルニ付

第十項 市町村立小學校ニ在リテ

●甲第三十四號

郡役所

市町村役所

小學生徒ニ勤儉貯蓄ノ其習慣ヲ養成セシムルヲメ市町村立小學校生徒貯蓄金旨意方法編制左ノ通

格定

市町村立小學校生徒貯蓄金旨意方法編制

第一 貯蓄ノ目的ハ小學校生徒ヲシテ勤儉ノ徳ヲ養ヒ貯蓄ノ其習慣ヲ成サシムルニ在リ

第二 前項ノ目的ニ依リ生徒ヲ誘導シテ貯蓄ヲ爲サシムルヲ要スト雖モ強テ之ヲ行ハシムヘカ

第三 貯蓄預金ノ毎月ノ回数及毎回ノ金額ハ各學校ニ於テ適宜其制限ヲ定メ漫ニ貯蓄額ノ多キ

第四 貯蓄ハ成ルヘク左ノ種類ヨリ得タル金額ノ全部若クハ其一部ナルヲ要ス

第五 自己ノ勤勉ニ依テ得タル金額

第六 父母親戚等ヨリ與ヘラレタル金額

第七 貯蓄ハ該校職員中ニ於テ主任者ヲ定メ確實ニ取扱フヘシ

第八 生徒一人ノ貯金額金十錢以上ニ及フトキハ郵便貯金トシテ預ケ入ルヘシ

第九 貯蓄ノ旨意ハ

第十 貯蓄ノ旨意ハ

第七 小學校ニ於テハ貯金彙帳及ヒ其他必要ナル書類ヲ備フヘシ
生徒各自ノ貯金通帳ハ可成各生徒ニ渡シ付クヘシ但便宜各生徒ニ返通報ヲ渡シ貯金通帳ヲ學
校ニ保管スルコトヲ得

第八 毎年三月及九月末日現在貯金預ケ人員及其金額ハ各翌月三十日迄ニ郡市役所ニ報告スヘ
第九 貯金ハ左ノ事故理由アルニアラサレハ下戻サ、ルモノトス

一 生徒卒業及退校轉校ノトキ

一× 疾病及死亡ノトキ

第三 前條ノ外當該學校ニ於テ止ムヲ得サル事故理由アルモノト認ムルトキ

第十 貯金取扱ニ關スル手續等ハ當該學校ニ於テ之ヲ規定シ市立小學校ニ於テハ市役所ヲ經由
村立小學校ニ於テハ町村役場郡役所ヲ經由縣廳ヘ届出ツヘシ

●學第五一四號

明治二十八年七月十三日

各 郡 市 長

小學校生徒ヲシテ學校構内若クハ近傍適宜ノ地ヲ撰ビ或ハ町村有山林原野等適宜地區ヲ劃シ或
ハ社寺ノ境内若クハ道傍又ハ海岸等ニ親キ方法ヲ設ケ適當ノ樹木ヲ栽植シ之ヲ愛護保護セシメ
ハ自然其實業ヲ重ソスルノ思想ヲ起シ植樹ノ肝要ナルモノト知リ森林ヲ愛護スルノ心ヲ生セシ

メ又公共心ヲ養ヒ經濟思想ヲ發達シ道テハ學校基本財産ヲ作ルノ一財源トナスコトヲ得ヘク而
シテ終ニハ山林荒廢ノ弊ヲ救ヒ早魘ノ害ヲ防クニ至ルヘシ就テハ右栽植ニ關スル方法即土地樹
種ノ撰定、苗木仕立又ハ購入方、栽植ノ日時、栽植後ノ手入れ、保護方法等ニ就テハ別紙參考ノ上本
業ニ熟練ナル實業家ノ意見等ヲ採リテ方按ヲ定メ其施行上ニ關スル方法ハ教育會等ニ於テ調査
シ祝祭日等務メテ紀念トナルヘキ日ヲ撰ビ栽植セシメ候標計畫シ毎年施行シタル實況ハ翌年一
月三十一日迄ニ之ヲ報告スヘシ

(參考書)

小學校生徒ヲシテ或ル紀念日ヲ樹栽日ト定メ樹木ヲ栽植セシムルニ當テハ先ツ其目的ニヨリ
テ之ヲカ方業等ヲ定メサルヘカラス即チ(甲)單ニ兒童ヲシテ實業的ノ志ヲ養ハシメ以テ其
浮薄ニ流ル、ヲ防キ專ラ着實ニ傾カシムルノ傍ラ植物學ノ妙味ヲ悟リ或ハ愛國愛郷ノ紀念
トシ又ハ高尚優美ナル精神ノ快樂ヲ得セシムル等ニ止ムルト(乙)以上目的ノ外ニ學校經濟ノ
趣味ヲ加フルノ二種ニ外ナラサルヘシ若シ此舉ニシテ盛ニ行ハル、ニ至レハ間接ニ國家ヲ
益セラルゴト亦莫大ナラシ即チ一般人民ニ愛林ノ志ヲ興サシメ從テ森林ノ災害ヲ減シ反テ之
レガ繁殖ヲ見ルニ至ルヘク之ニ因テ彼ノ土砂停止、防風、防砂、水源涵養等ニ對シ其効莫大ナ
ルヲ認ミナラス或ハ風致ヲ添ヘ或ハ目標トナリ尙々他ニ用材燃料トシテ夥多ノ收額ヲ獲ル等國
利民福ヲ増スコト決シテ少々ニアラサルヘシ
今假ルニ此甲乙二種ノ目的ヲ併セ連セントスルモノト仮定セハ左ノ事項ニ注意スルヲ要スヘ
シ

(一) 植樹資金 一定不動ニ費用ノ用途ヲ定ムルヲ要ス是レ說明スル迄モナシ費用ノ用途ナクハ如何ナル美譽モ之ヲ施行スルコト能ハサルヘク又其用途不動ナラズレバ之ヲ永久不動ニ運轉スルコト能ハサルヘク而シテ林業經濟ノ最要旨ハ永久保樹ニアルノミナラス此紀念日樹栽モ亦其學校ノ存續スルノ間ヘ永久保樹セシムルノ必要アルハ勿論ナレバナリ

(二) 土地ノ撰定 本件ハ費用ノ用途定マレハ第一着手ニ爲サレハカヲ思フニ各地校舎ノ敷地ニサヘ差支ヘツ、アル今日ナレバ之ヲ得ルコト尤モ困難ナラン其目的單ニ甲種ニ適キテハ幾分カ容易ナラン是レ學校構内、運動場、庭園、路傍等之ヲ撰フニ及ハサルハナリ若シ乙種ノ目的モ併セテ之ヲ得ントスレハ勢ヒ經濟的ニ利用シ得ヘキ土地ナラサルベカラズ之ヲ撰フニ付キ注意スヘキ要點ハ

イ 面積 ハ相當ノ廣ヲ要ス是レ其地域狹キトキハ直チニ植栽シ終リ永久保樹ノ目的與違スルコト能ハザルノミナラス且ツ之ヲ經濟的ニ利用スルコト能ハサルハナリ

ロ 距離 ハ可成學校ニ近キヲ要ス是レ遠クレハ兒童ヲシテ紀念日ニ赴キテ植栽シ終ルコト能ハサラシムルノミナラス急遽クレハ急其費用ヲ増スハ當然ノ理ニシテ植栽後ハ日常兒童ヲシテ之ヲ巡視愛護セシメ其生長ノ狀況ヲ視テ一ハ學理研究ノ素ヲ爲サシメ一ハ之レカ爲メニ快樂ヲ得セシムル等ノ必要ニ對シテ亦頗ル困難ナレハナリ

ハ 地勢並地上ノ狀況 餘リ危險ナルカ荆棘雜草繁茂スルカ岩石ノ露出甚シキ所等ハ到底兒童ヲシテ執業セシムルコト能ハサルノミナラス又其身體ニ危險ヲ來スコトナキコトアラサルヘシ故ニ可成平坦ナル土地ヲ要ス然レモ平坦ノ地ハ開墾ニ適スルカ故ニ林地ニ使用スルハ不利ナリ(砂地、瘠地ノ如キ絕對的林地ハ其限ニアラス)須ラク充分ノ調査ヲナシ以テ適當ナル場所ヲ撰定スルヲ要ス

ニ 地質 樹木栽培ニハ岩石地ニアラサル以上其樹種ヲ撰メハ假令瘠地ト雖モ生育セサルニ於テハ必モ可成肥地ヲ可ナリトス是瘠地ハ生長遲緩ナルニ依リ兒童ヲシテ天然發育ノ愉快ヲ感セシムルコト少ク從テ倦怠ノ念ヲ生セシメ易ク又其以テ利モ少クナレハナリ

要スルニ兒童ヲシテ甚シキ困苦ヲ受クス其業務ヲ以テ一ツノ快樂ト感セシメ且ツ最多利ニ其植栽ノ目的ヲ達セシムルヲ必要トス

(三) 樹種ノ撰定 其撰定ノ要點ハ其土地ニ最適ノモノニシテ尤モ利益アル樹木ナラサルヘカラス即チ甲乙二種ノ目的ヲ併セテ撰定スルニハ美花、香氣強キ花又其葉ヲ着クル樹種、蘇針多キ樹種、惡臭アル樹種ノ如キハ可成之ヲ避クルヲ要ス思フニ松、杉、檜、樟、樺、椴、樟等ノ内ニ於テ撰定スルハ大過ナカラズ若シ其撰定ニシテ誤ランカ其樹木ハ生長セサルノミナラス遂ニ全ク枯死シ兒童ヲシテ失望落膽セシメ教師ヲシテ倦怠ノ念ヲ生セシメ徒ラニ勞費ヲ失フニ過キサルヘシ

(四) 樹栽日即チ紀念日 可成著シキ特種ノ紀念トスヘキ日ヲ撰フテ可ナリトスト雖モ之ヲ一定スルコトハ困難ナル場合アルヘシ何トナレハ樹木ヲ植栽スルニハ何レノ時季ニテモ可ナルモノニアラス若シ適當ノ時季ニ植栽セザレハ大概枯死スルヲ通常トスレハナリ故ニ各樹種當ノ時季ニ其地ガニ適シテ撰定スルヲ可ナリトス然レモ先ツ概シテ春季ハ二月十一日紀元節四月三日神武天皇祭秋季ハ十一月三日天長節等可然乎尤可成春季ニ定ムルヲ得策トス是レ春季ハ秋季ニ對シテ樹栽ニ適當ノ時季ナレハナリ

(五) 苗圃ノ撰定 樹種定マレバ之カ苗圃ヲ得ルノ途ヲ講セサルヘカヲス可成ハ兒童ヲシテ播種カ地邊ニ其發生ノ苗木ノ床換、除草、施肥等ヲ之カ山植ニ適スル迄培養テナクハ苗圃ノ必要ナラズ如キ業務ヲ執ラシムルハ兒童ハ各種ノ種實及其發生ノ有様ヲ知

ノ一層愛護ノ念ヲ培シ且ツ土地狭小ニシテ充分植栽ヲナシムルコト能ハサル場合ニ於テ
モ亦適當ノ業務ヲ得加フルニ希望ノ苗樹ヲ希望ノ時ニ希望ノ所ニ得ルニ至ルヘク其他直接
間接ニ前記甲種ノ目的ヲ達スル上ニ於テ莫大ノ利益ヲ見ルヘシ若シ止ムテ得サル事情ノ爲
メ兒童ヲシテ苗樹ヲ養成セシムルコト能ハサルトキハ確實ニシテ經歷アル苗木商ヨリ購入
スルノ外ナカラン

(六) 植栽ノ方法 ハ樹種地勢地質等ノ如何ニヨリテ多少相違アルニヨリ特ニ注意ヲ要ス又本項
ニ付テ研究スヘキ事項ハ苗樹ノ運搬ハ如何ス可カ植栽地ニ於ケル刺藪雜草ヲ清除スル等
格ハ如何スヘキカ植栽スヘキ土地穿堀ハ如何スヘキカ即チ各地種々ノ關係事情ニヨリテ
兒童ヲシテ之ニ當ラシムルカ又ハ一部分ハ別ニ人夫ヲ雇フテ之ニ當ラシムルカ若シ全部
兒童ヲシテ之ニ當ラシムルトセハ之ニ要スル種々ノ器具器械等ハ如何スヘキヤ又器具器械
ノ平生ニ於ケル保管等ハ果シテ如何スヘキヤ又其植栽ハ個人ヲ以テ一利又ハ數樹ニ當ラシ
ムルカ又ハ一級一園ヲ以テ一定ノ區域ニ當ラシムルカ又兒童ハ男女並ニ長幼ノ別ヲ問フ必
要ナキカ又高等科尋常科若クハ其上級下級等ニ據リテ區別スルノ必要ナキカ又其男女、長
幼園級ノ別ニヨリテ樹種並ニ方法ヲ異ニスル必要ナキカ等皆其局ニ當ルモノ、大ニ講究ス
ヘキ要點ナラント信ス又植栽ニ關スル一般ノ方法順序等ニ至リテハ多少林學上ノ趣味ヲ加
フルト然ラサルトハ將來ノ發達並ニ利益ノ上ニ著シキ影響ヲ來スニ至ルヘシ

(七) 植栽後ノ手入及保護 若シ樹木ヲ植栽シテ其儘之ヲ放置センカ寧ロ植ヘサルノ便レニ若
カサルナリ之ヲ植スルハ易シ之ヲ保護養育シテ大木ト爲ラシムルハ頗ル難シ故ニ豫メ之レ
カ用意ヲ要スヘキハ勿論ナリ蔓草ノ刈拂ヒ虫害ノ驅除、火災ノ豫防枯死ノ補植等總テ或ル
一定ノ程度迄ハ必ス兒童ヲシテ之ニ當ラシムルカ尤モ必要ナラン(其必要ナル理由等ハ之

ヲ客ス)而シテ若シ兒童ヲシテ之ニ當ラシムルモノトセハ其方法順序等ハ如何スヘキヤ又
之ヲ代探シテ世用ニ供スル迄ノ幾多ノ日子間ニ於ケル保護ノ方法等モ亦大ニ講究スヘキノ
點ナラン

其他之カ實施ニ對スル監督ノ方法、將來管理ノ方策、記録ノ備付、主副産物ノ採收利用法等點メ
講究ヲ要スルノ點決シテ儘少ニアラサルヘシ
惟フニ一度此樹栽日ノ美譽タルヲ信シ且ツ之ヲ以テ容易ノ事ト見做シ之カ方策等モ考慮セス直
ニ以テ實際ニ試ミント欲スルカ如キ豈ニ寒心セサルヘクンヤ前記畧述スルカ如ク之レカ着手容
易ニアラスト唯且之ヲ其成功ノ難易ニ比スレハ殆ント同日ノ談ニアラサルナリ故ニ若シ之ヲ實
施セントセハ其初ニ於テ充分ノ注意ヲナシ實地ニ適當ナル方策ヲ設クテ之ヲ施行セサレハ當ニ
勞費ヲ消耗シテ遂ニ其果ヲ見サルノミナラス一樹一木モ其跡ヲ止メス如何ニ之ヲ獎勵スルモ
兒童ハ倦ミテ之ヲ避ク教師ハ捨テ之ヲ顧ミサルニ至ルヘシ果シテ此ノ如キ有様ニ陥ルトキハ折
角ノ美譽モ徒ニ幣害ヲ醸スノ泉源トナリ遂ニ一種ノ流行熱トシテ笑テ後世ニ貽スニ過キザラン
コトヲ憂フルナリ

●甲第二十三號 明治廿七年九月十二日

郡 役 所
市 役 所
町 村 役 場

小學校

小學校生徒體育及衛生ニ關シ別紙ノ通り文部大臣訓令者成候ニ付テハ小學校長及教員ハ該主旨ヲ體シ一層兒童身體ノ發達ニ留意スヘシ

文部省訓令第六號

北海道廳 府縣

小學校ハ小學校令第一條ノ示ス所ニ依リ兒童ノ體育ニ留意シ教育ノ完成ヲ期セサルヘカラス我國舊來弓馬鉛劍ノ武藝盛ニ行ヘレ體育ノ道ニ於テ缺クル所ナカリシモ維新後兵制體軍ノ爲或種ノ武藝ハ其ノ必要ヲ失ヒタルト同時ニ體育ノ衰頹ヲ致セルコト又救國及生徒カ學問智識ノ進歩ニ急ニシテ動モスレハ智育ノ一方ニ偏重セル事及社會一般ノ衛生ノ必要ヲ成スルコト未ク深切ナラサル事是レ等數多ノ原因ノ爲ニ各般ノ學校ニ於ケル體育及衛生ノ方法ハ仍不完全ナルヲ免レス殊ニ小學校教育ノ時ハ方ニ身體發育ノ期ニ當リ一タヒ傷害ヲ受クルトキハ其ノ患ハ終身ニ及ヒ哀ムヘキノ情况ヲ呈セントス今小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關シ訓令スルコト左ノ如シ

一 體育ハ及フタケ活潑ナル運動ヲ課スルヲ要スヘク普通體操ニ於テモ亦兵式體操ト同ク手足及全身筋力ノ運動ヲ活潑ニシ氣血ノ代謝ヲ促スト同時ニ生徒自體ニ於テ意氣快活ヲ覺ルノ効果アラシムヘシ體操ノ弊ハ或ハ死法ニ流レ趨勢ヲ整ヘ並列ヲ正スカ爲ニ許多ノ時間ヲ費シ却テ生徒ヲシテ厭倦ノ氣ヲ生セシムルニ至ル比ノ如キハ却テ體操ノ精

神ヲ失フモノナリ

- 二 高等小學校男生徒ニハ兵式體操ヲ課スルノ際軍歌ヲ用ヒ體操ノ氣勢ヲ壯ニスルコトアルヘシ又隨意科トシテ簡單ナル器械體操ヲ設クヘシ
- 三 小學校生徒ハ活潑ナル運動ニ便スル爲ニ不得已場合ノ外學校内ニ於テハ洋服又ハ和服ヲ穿ハス都テ筒袖ヲ用フシムヘシ四放課時間ニ於テ佇立閉居シテ經過スルニ終ラシムヘカラス男女トナク成ルヘク活潑ニ大氣中ニ運動スルノ遊戲ヲ誘フヘシ或ハ大股急走嬉戲ノ態ヲ以テ生徒ノ不真事ト爲シ沈靜ヲ以テ品行點ニ加アルカ如キハ當テ得タルモノニアラス
- 五 生徒ヲシテ筆記及暗誦ヲ務メシムルハ過度ニ腦力ヲ勞セシムルモノナレハ特ニ必要ノ場合ノ外之ヲ用フサランコトヲ要ス
- 六 小學校ノ課業ノ中生徒ノ尤困難ニ感スル者ハ作文トス初級ノ生徒ニハ作文ヲ授クヘカラス若シ簡單ナル作文ヲ授クルモ此ヲ以テ試驗ノ問題トスヘカラス
- 七 小學校ニ於テ施行スル所ノ試驗法ハ或ハ褒貶ノ意味ニ偏シ點數ニ依リテ每期應得ノ上下シ又ハ賞與ヲ與フル等過度ニ生徒ノ神經ヲ刺激スルノ弊アリ此レ獨リ普通教育ノ主義ヲ誤ルノミナラス亦生徒ノ體育ヲ害スル者ナリ自今各學校ハ試驗ニ依レル所限ノ上下ヲ廢スヘシ但各級ニ優等生若干人ヲ選拔シ以テ獎勵ヲ示スコトヲ始メサルヘシ
- 八 小學校ニ於テ生徒ハ喫煙スルコト及喫煙器ヲ携帯スルコトヲ禁スヘシ
- 九 諸君安逸ハ自然ニ軟弱ヲ招クモノナリ都督ノ生徒ノ學校ニ往來スル者或ハ車ニ乘ル如キハ學校紀律ノ外ニ係ルト雖校長及教員ハ注意ヲ加ヘテ成ヘク步行セシムルコトヲ誘

導スヘシ

明治二十七年八月廿九日

文部大臣

●號外

明治十五年十一月十八日

戶務委員長

各町村ニ於テ神事祭典等ノ節學齡兒童ヲ以テ歌舞等爲致候心得違ノ父兄有之ニ於テハ篤ク説諭ヲ加フヘキ旨明治十一年十月本縣乙第百廿三號ヲ以テ戶長ヘ相違旨候趣モ有之候處爾來神事祭典等ノ節于今右様ノ醜爲有之哉ニ相聞是レ畢竟説諭ヲ等閑ニ付スルノ致ス所ニ有之太不都合ノ至リニ候條自今右等ノ如キ心得違ノ父母後見人等有之ニ於テハ一層篤ク申諭スヘク此旨相違候事

視學

●學第四八九號

明治二十七年七月十四日

郡長名

郡長其所轄内小學視察ニ關スル規程左ノ通相定ム

- 一 郡長ニ於テ其所轄内小學教育ニ關シ視察スヘキ事項左ノ如シ
- 一 御眞影奉安所ニ關スル事
- 二 教育ニ關スル 勅語讀本奉置ニ關スル事

- 三 學事ニ關スル法令施行ノ情况
 - 四 學校設備ノ整否
 - 五 學齡兒童就學及出席ノ情况
 - 六 生徒ノ風儀及成績
 - 七 學級ノ編制及教員配置及教授ノ情况
 - 八 學校ノ衛生及管理ノ情况
 - 九 學校長教員及學務委員職務ノ情况
 - 十 學校基本財産ニ關スル事
 - 十一 學事ニ關スル會計及經濟ノ情况
 - 十二 學事ニ於ケル町村一般ノ感情
 - 十三 其他特ニ必要ト認ムル件
- 一 郡長ハ其所轄内小學校ヲ巡視シ其都度其情况ヲ詳述シ意見ヲ付シテ一ヶ月以内ニ知事ヘ報告スヘシ
- 學第二〇一號 明治二十七年四月二十三日 靜岡縣尋常師範學校長
- 靜岡縣尋常師範學校長縣内小學教育ニ屬スル學事視察規程左ノ通相定ム
- 靜岡縣尋常師範學校長縣内小學教育ニ屬スル學事視察規程
- 一 學事ニ關スル法令施行ノ情况
 - 二 教授及管理ノ方法
 - 三 學級ノ編制、教員ノ配置、學科課程及試験ノ狀況

四 設備ノ整否

五 學齡兒童就學及出席ノ情况

六 生徒ノ風儀及成績

七 學校衛生ノ情况

八 學校長教員職務ノ情况

九 學事集會ノ情况

十 學事ニ於ケル市町村一般ノ感情

静岡縣尋常師範學校長ハ視察ヲ終ル毎ニ其情况ヲ詳述シ意見ヲ付シテ二週間以内ニ復命スルヲ以テ
静岡縣尋常師範學校長ノ學事視察ハ其結果ヲ報告スルヲ主トス小學校長及教員ニ對シ教授及管
理方ニ係ル外ハ知事ノ許可又ハ特別ノ命令ヲ得タルモノニアラサレハ直ニ指示スルヲ得ス

●縣令第三十三號 明治二十五年三月十六日

郡視學ノ職務等ニ關スル規程左ノ通り相定ム

但郡制施行ノ時期ヨリ實施ス

郡視學ノ職務等ニ關スル規程

第一條 郡視學ニ於テ郡長ノ指揮命令ヲ受ケ監督スヘキ教育事務ノ概目左ノ如シ

一 小學校ノ基本財産ニ關スル事

二 小學校ノ學級編制及教員ノ配任ニ關スル事

三 小學校ノ校舍校地校具體操場農桑練習場ノ設備及適否ニ關スル事

四 學齡兒童ノ就學ニ關スル事

五 町村立小學校幼稚園圖書館官立學校其他小學校ニ類スル各種學校ノ管理ノ適否ニ關スル事

六 私立小學校幼稚園圖書館官立學校其他小學校ニ類スル各小學校ノ利害ニ關スル事

七 小學校教員ノ俸給旅費其他諸給與ノ支給上ニ關スル事

八 小學校教員ノ職務上ニ關スル事

九 小學校教員ノ能否勤怠ニ關スル事

十 教育事務ニ屬スル町村行政ニ關スル事

十一 教育事務取扱ニ關スル町村吏員ノ職務ニ關スル事

十二 小學校兒童教育ノ利害得失ニ關スル事

十三 小學校兒童教育ノ成績ノ良否ニ關スル事

十四 前各款ノ外郡長ヨリ特ニ指揮命令スル事項

第二條 郡視學ハ學校長教員町村長若クハ學務委員等ノ教育事務ニ關スル集會ニ出席シテ意見ヲ指示スルコトヲ得

第三條 郡視學ハ町村ノ教育事務ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ郡長ノ指揮ヲ受ケテ學校長教員町村長若クハ學務委員等ノ集會ヲ開クコトヲ得

第四條 郡視學ハ教育事務ノ利害得失ニ關シハ町村立學校若クハ首席教員私立ノ小學校幼稚園圖書館官立學校其他小學校ニ類スル各種學校ノ設立者學齡兒童ヲ保護スヘキ者若クハ代人又

ハ町村長區長及其代理者又ハ學務委員ニ指示若クハ協議スルコトヲ得

但重要ナル事項ニ關シテハ豫メ郡長ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條 郡視學ハ教育事務ニ關シ毎年三回以上郡内ヲ巡視スヘシ

第六條 郡長ハ郡視學ノ事務取扱手續ヲ定ムルコトヲ得

其他

●縣令第十四號 明治三十一年二月十五日

市町村立小學校授業料規則左之通相定ム

市町村立小學校授業料規則

第一條 市町村立小學校授業料ハ市町村長左ノ標準ニ依リ徵收スヘキ額ヲ定ムヘシ

一 尋常小學校一箇月金三拾錢以内

二 高等小學校一箇月金五拾錢以内

授業料ハ全校兒童ニ對シ之ヲ一定シ又ハ兒童學年ノ階級ニ依リ若クハ兒童ヲ保護スヘキモノ
ノ貧富ノ度ニ應シ其額ヲ異ニスルコトヲ得

第二條 授業料ハ納期ヲ定メ毎月之ヲ徵收スヘシ但土地ノ便宜ニ依リテハ一學年間ノ授業料ヲ

一回若クハ數回ニ徵收スルコトヲ得學校ノ都合ニ依リ一箇月間休業スルトキハ其月ノ授業料

ヲ徵收セザルモノトス

月ノ十五日以前ニ入學ノ者及十六日以後ニ退學ノ者ハ一箇月ノ授業料全額ヲ徵收シ十六日以

後ニ入學ノ者及十五日以前退學ノ者ハ一箇月ノ授業料半額ヲ徵收スルモノトス

本條第一項但書ニ依リ授業料ヲ徵收スルトキハ本條第二項第三項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三條 小學校令第四十四條第三項ノ場合ニ於テハ其中最多額ノ授業料ヲ納ムヘキモノ一名ニ

對スル分ヲ除クノ外ハ各其規定額ノ二分一迄ヲ減額シテ徵收スルコトヲ得他ノ市町村ヨリ入

學スル兒童ニ關シテハ相當以上ノ授業料ヲ徵收スルコトヲ得但學校組合内町村ノ兒童又ハ教

育事務ノ委託ヲナシタル町村ノ兒童ニ關シテハ此限ニアラス

第四條 小學校令第四拾四條第五項ニ依リ物品若クハ勞力ヲ以テ授業料ニ代納センコトヲ請フ

者アルトキハ市町村長之ヲ許否スヘシ

前項授業料ニ代フルコトヲ得ルモノハ其市町村ニ須要ナル物品若クハ勞力ニ限ルヘシ

附 則

第五條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治二十五年縣令第二十號市町村立小學校授業料規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●達第六十九號 明治二十年七月七日

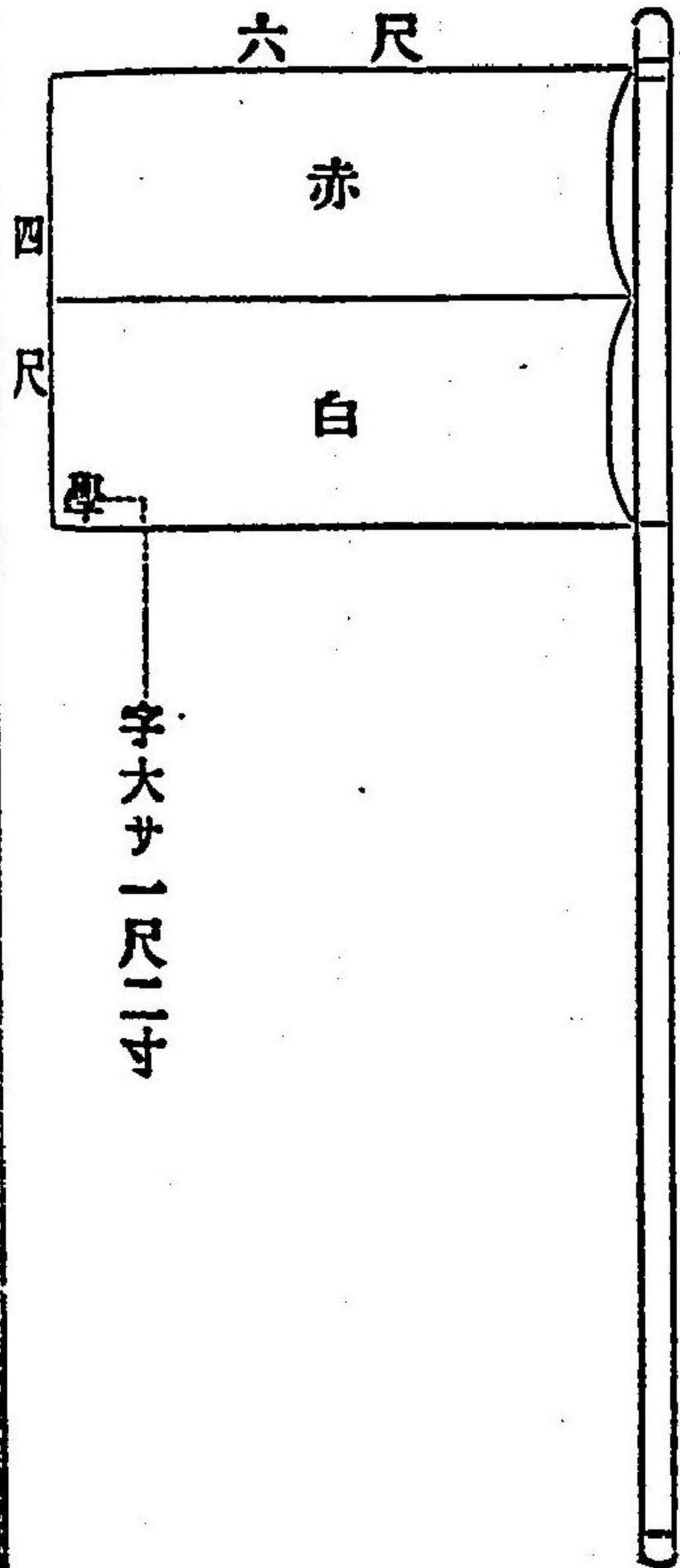
郡 役 所
戶 長 役 場

尋常小學校名之義自今何々(學校所在地名ヲ用ニ其稱呼不便ナル者ハ別ニ名稱ヲ撰フコトヲ得)尋常小學校ト稱スヘシ
但別ニ名稱ヲ撰フトキハ其旨開申スヘシ

●無號 明治七年五月十七日

管下各中學區內各小學校ノ旗章左之通相定メ候條此旨相達候事
但支校旗章モ之ニ準ス

右地合ハ天竺木綿洋布ノ内ヲ以テ裁製致スヘキコト



●甲第三十四號

明治二十六年十月七日

學校沿革誌編製項目並ニ學校沿革誌編製心得左之通相定ム

學校沿革誌編製項目

- 第一 制度
 - 一 一般教育制度ノ概要
 - 二 學校制定ノ諸規程
- 第二 設備
 - 一 學校設置區域
 - 二 學校ノ設廢分合及位置
 - 三 學校ノ名稱資格
 - 四 校舍校地校具及教員住宅ノ概況
- 第三 學校基本財産
 - 一 學校基本財産ノ設廢並支消費却等ノ概況
 - 二 學校基本財産ノ管理方法
- 第四 校員
 - 一 學校職員ノ任免

郡 役 所
市 役 所
市 役 場
町 役 場
市町村立小學校

- 二 學校職員ノ資格及俸給
- 三 學校職員ノ賞罰
- 四 學級ニ對スル職員ノ配置
- 第五 生徒
 - 一 學齡兒童
 - 二 就學不就學
 - 三 入學及半途退學
 - 四 卒業生徒
 - 五 生徒成績ノ概要
 - 第六 生徒ノ賞罰
 - 七 學級ノ編制
- 第六 經濟預算、決算、摘要
 - 一 毎年經費ノ豫算及決算摘要
 - 二 學校基本財産ヨリ生スル利子ノ員數
 - 三 寄附物件
 - 四 授業料
- 第七 學事關係ノ吏員
 - 一 管理者ノ異動
 - 二 學務委員ノ異動
- 第八 記事概要

井上 二一
井上 一
井上 一
井上 一

- 一 尊影及勳章贈本等拜受ニ關スル件
 - 二 町局官吏ノ視學ニ關スル件
 - 三 職員出張等ニ關スル件
 - 四 天災地變其他學校ニ影響ヲ及ホシタル事件
 - 五 其他重要ナル事件
 - 第九 附記
 - 一 學校ノ爲メニ功勞アルモノ、事績
 - 二 學校職員ノ履歷
 - 三 學校ト家庭ト聯絡ノ情况
 - 四 就學勸誘ニ關スル方法
- 學校沿革誌編製心得
- 一 學校沿革誌ハ其學校創立以來ノ閱歴ヲ明瞭ニシ殊ニ學校ノ爲メ盡力セシ篤志者又ハ教育ノ爲メ勵精セシ教師ノ事績履歷ハ詳細ニ附記シ其功勞ノ煙滅ニ歸スルノ遺憾ナカラシムヘシ
 - 一 學校沿革誌ハ二通ヲ編製シ一通ハ學校ニ於テ一通ハ市町村役場ニ於テ保管スヘシ
 - 一 學校沿革誌編製方ハ各項毎ニ多少餘紙ヲ存シ置キ毎學年末ニ於テ學務日誌其他關係帳簿等ヨリ抄出シ或ハ管理者學務委員等ニ協議シ其學年間學事ニ係ル較著ノ事績ヲ登錄スヘシ
 - 一 學校沿革誌ハ明治廿七年一月三十一日迄ニ編製ヲ了シ其旨市立小學校ニ於テハ市役所ヲ經テ町村立小學校ニ於テハ町村役場郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ
- 縣令第三十二號 明治二十五年三月十六日

市制第六十條町村制第六十四條ノ規程ニ依リテ置ク區長及其代理者ハ市町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受クテ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行スヘシ

小學校令第七十五條第八十二條第八十六條第二項ノ規程ニ依リテ置ク學務委員ハ區ニ屬スル國ノ教學事務ニ就キ市町村長區長及其代理者若クハ町村學校組合長ヲ補助スヘシ

本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス
●縣令第三十二號 明治二十五年三月十六日

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第七十八條第八十五條第八十九條ニ基キ市町村長町村學校組合長區長及其代理者並學務委員ノ國ノ教學事務取扱ニ關スル規則左ノ通り相定ム

市町村長町村學校組合長區長及其代理者并學務委員ノ國ノ教育事務取扱ニ關スル規則

第一條 市町村若クハ町村學校組合ノ學務委員ハ市町村長若クハ組合長ヲ補助シテ左ノ事件ヲ取扱フヘシ

- 一 學齡兒童ノ就學ニ關スル事
- 市町村若クハ町村學校組合ノ學務委員ハ前項第一第二ノ外國ノ教育事務ノ市町村若クハ町村學校組合ニ屬スル者ニ就キテ市町村長若クハ組合長ヲ補助シ便宜之ヲ取扱フヘシ

廿六年七月十七日
令第七十六號
第一條
第二項
第一號
第二號
第一號
第二號

第二條 市町村內ノ區ノ學務委員ハ市町村長區長及其代理者ヲ補助シテ左ノ事件ヲ取扱フヘシ

- 一 學令兒童ノ就學ニ關スル事

町村學校組合內ノ區ノ學務委員ハ組合長ヲ補助シテ前項第一第二ノ事件ヲ取扱フヘシ
市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ノ學務委員ハ第一項第一第二ノ外國ノ教育事務ノ區ニ屬スル者ニ就キテ市町村長區長及其代理者若クハ組合長ヲ補助シ便宜之ヲ取扱フヘシ

第三條 市町村長若クハ町村學校組合長ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ其市町村若クハ町村學校組合ノ學務委員ノ意見ヲ聞クヘシ

- 一 市町村立小學校ニ於テ用フヘキ教科用圖書ニ關シ明治二十四年文部省令第十四號小學校教科用圖書審査等ニ關スル規則第五條第二項但書ノ規程ニ依リ知事ノ許可ヲ受クントスルトキ
- 二 市町村立小學校兒童ノ授業料ニ關シ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第四十四條第四項ノ規程ニ依リ其全額若クハ一部ヲ免除セントスルトキ
- 三 市町村立小學校兒童ノ授業料ニ關シ明治二十五年十月縣令第二十號市町村立小學校授業料規則第一條若クハ第三條ノ規程ニ依リ其徵収スヘキ額ヲ定メ若クハ増減セントスルトキ
- 四 市町村立小學校ノ校舍校地校具体操場農藝練習場ノ使用ニ關シ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第十八條ノ規程ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ受クントスルトキ
- 五 市町村立小學校ニ就學スル兒童ニ關シ明治二十五年十月縣令第十七號第三條第二項ノ規程

ニ依リ其出席ヲ差止ムル爲メ監督官廳ノ許可ヲ受クントスルトキ
第四條 市町村長若クハ町村學校組合長ハ左ニ掲グル場合ニ於テハ其區ノ學務委員ノ意見ヲ聞クヘシ

- 一 區ノ市町村立小學校兒童ノ授業料ニ關シ明治二十三年財勅令第二百十五號小學校令第四十四條第四項ノ規程ニ依リ其全額若クハ一部ヲ免除セントスルトキ
 - 二 區ノ市町村立小學校兒童ノ授業料ニ關シ明治二十五年財縣令第二十號市町村立小學校授業料規則第三條ノ規程ニヨリ其徴収スヘキ額ヲ増減セントスルトキ
 - 三 區ノ市町村立小學校ノ校舍校地校具練場農業練習場ノ使用ニ關シ明治二十三年財勅令第二百十五號小學校令第十八條ノ規定ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ受クントスルトキ
 - 四 區ノ市町村立小學校ニ就學スル兒童ニ關シ明治二十五年財縣令第十七號第三條第二項ノ規程ニ依リ其出席ヲ差止ムル爲メ監督官廳ノ許可ヲ受クントスルトキ
- 市町村長ハ前項第一乃至第四ノ場合ニ就キテ區長及其代理者ニ命シテ之ヲ調査セシムルトキハ區長其代理者ヲシテ其區ノ學務委員ノ意見ヲ聞カシムヘシ
- 第五條 市町村若クハ町村學校組合ノ學務委員其市町村若クハ町村學校組合ニ屬スルノ國ノ教育事務ノ利害ニ關シ意見アルトキハ委員會ノ評決ニ依リ市町村長若クハ組合長ニ申告スヘシ
- 市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ノ學務委員其區ニ屬スル國ノ教育事務ノ利害ニ關シ意見アルトキハ委員會ノ評決ニ依リ市町村長若クハ區長及其代理者又ハ組合長ニ申告スヘシ

第六條 學務委員中教員ヨリ出ル者ハ教員ノ職務時間外ニ於テ委員ノ事務ヲ執ルヘシ
委員會ハ至急ヲ要スル場合ノ外市町村立小學校ノ教授時間外ニ於テ開クヘシ

●縣令第十九號 明治二十五年二月廿三日
明治二十五年財文部省令第十八號第十二條ニ基キ幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校等ノ設置廢止ニ關スル規則左ノ通り相定ム

幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校等ノ設置廢止ニ關スル規則
第一條 幼稚園圖書館盲啞學校各種學校及私立小學校等ヲ設置セントスルトキハ左ノ各款ヲ具シテ伺出ヘシ

- 一 名稱
- 二 設置ノ目的
- 三 教科
- 四 學期及課程 幼稚園ハ保育期及課程
- 五 教科用圖書及器械 幼稚園ハ保育用圖書及恩物等、圖書館ハ書籍名及部冊數、圖書ハ其名稱卷冊記號出版年月著譯編者出版者氏名、器械ハ其種別ヲ詳記スヘシ
- 六 試驗法
- 七 入園退園規則及入學退學規則
- 八 休業定日

- 九 敷地 敷地ハ地名地番號坪數方位并ニ其所有假借ノ別及其所有者氏名ヲ詳記シ且別ニ圖面ヲ添付スヘシ
 - 十 建物 建物ハ戶番號方位放場開誘室寢室扣所等ノ區劃坪數并ニ便所ノ位置等ヲ詳記シ且其平面圖ヲ添付スヘシ
 - 十一 職員ノ人員及俸額、各人別ニ記載スヘシ
 - 十二 職員職務心得
 - 十三 保母若クハ教員、各人別ノ履歷ニハ職務ノ經歷賞罰ノ有無并ニ所持免許狀ノ寫ヲ記載スヘシ
 - 十四 生徒ノ人員別男女ヲ區分シ幼稚園ハ幼兒ノ員數
 - 十五 生徒心得生徒罰則參觀人心得區分シ寄宿舎ヲ設クルモノハ其舍則
 - 十六 保育料若クハ授業料(圖書館ハ見料ノ有無)一人一ヶ月(若クハ一日)ノ額ヲ記載スヘシ
 - 十七 經費 一ヶ月收入支出豫算額并ニ其科目ヲ分チ詳細記載スヘシ
- 幼稚園ハ前項ノ第三款第六款ヲ除キ圖書館ハ前項ノ第三款第六款第七款及第十三款第十四款ヲ除ク
- 幼稚園圖書館盲啞學校各種學校及私立小學校等ヲ設置ノ後第一項ノ第一款及第十四款ヲ變更シタルルハ其都度開申スヘク其他ノ各款ヲ變更セントスルルハ何出ヘシ
- 第一項ノ第九款第十款ノ設備ハ明治廿五年二月縣令第十五號小學校設備規則ノ規定ニ依ル
- 第二條 私立ノ幼稚園圖書館盲啞學校各種學校及小學校等ヲ設置セントスルモノハ左ノ資格ヲ

- ルモノニ限ル
 - 一 男子ハ公民權ヲ有スルモノ
 - 二 女子ハ年齡廿五年以上ノモノニシテ二年以上其土地ニ住居シ不動産ヲ有スルモノ
- 第三條 幼稚園圖書館盲啞學校各種學校及私立小學校等ノ廢止市町村立ニ係ルモノハ其理由ヲ具シ何出ヘク其私立ニ係ルモノハ開申スヘシ
- 第四條 幼稚園圖書館盲啞學校各種學校及私立小學校等ニ於テ第一條ノ第一項第三項若クハ前條ノ場合ニハ市立ニ係ルモノハ市參事會ヨリ直ニ縣廳ヘ町村立ニ係ルモノハ町村長ヨリ所轄郡役所ヲ經由シ何出若クハ開申スヘク其私立ニ係ルモノハ市ハ市長ノ與齊町村ハ町村長ノ與齊ヲ以テ所轄郡役所ヲ經由シ何出若クハ開申スヘシ

第三 師範學校

●告示第十九號 明治廿六年四月一日

静岡縣尋常師範學校規程左ノ通相定ム但明治廿六年四月一日ヨリ施行ス

静岡縣尋常師範學校規程

冊年勅令
第三百四
十六號ニ
依リ一審
常ノ一審
字消シ以
下同シ

學期及學科

第一條 各學期ノ終始ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一學期 四月一日ニ始マリ七月廿五日ニ終ル

第二學期 九月一日ニ始マリ十二月廿四日ニ終ル

第三學期 一月八日ニ始マリ三月卅一日ニ終ル

第二條 教授日數ハ毎年四十五週教授時間ハ每週三十四時トス但夏季休業ノ前後二週間ハ毎日

教授時間ヲ二十四時トス

第三條 毎日教授時間ノ終始ヲ定ムルコト左ノ如シ

自四月一日至五月十五日 午前八時ニ始マリ午後三時ニ終ル

自五月十六日至七月十一日 午前七時ニ始マリ午後二時ニ終ル

自七月十二日至九月十四日 午前七時ニ始マリ正午十二時ニ終ル

自九月十五日至九月三十日 午前七時ニ始マリ午後二時ニ終ル

自十月一日至三月三十一日 午前八時ニ始マリ午後三時ニ終ル

第四條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

日曜日

大祭日

祝日

夏季休業日 自七月廿六日至八月卅一日
冬季休業日 自十二月廿五日至翌年一月七日
學年末休業日 一週間
第五條 學科目ハ修身、教育、國語、漢文、歴史、地理、數學、物理化學、博物、習字、圖畫、音樂、体操及英語トス

試験及証書

第六條 生徒學業ノ進歩及習熟ノ度ヲ檢定シテ教授上ノ參考ニ供シ又ハ卒業ヲ認定スル爲メ各學科目ノ試験ヲ行フ

第七條 試験ヲ分チテ定時試験及臨時試験ノ二種トナス定時試験ハ各學期ノ終ニ於テ之ヲ行ヒ

臨時試験ハ各學期内ニ於テ一回若クハ二回臨時ニ之ヲ行フ

第八條 試験ノ成績ハ凡テ點數ヲ以テ之ヲ評定シ各學科壹百ヲ以テ其定點トス

第九條 試験ノ點數ニハ學科ニ依リ平常所採ノ日課點ヲ代用シ若クハ其歩合ヲ定メテ之ヲ計入

スルコトヲ得

第十條 各學期末ニハ各學科ノ臨時試験點ト定時試験點トヲ合算シ試験ノ度數ニテ扣除シ學期得點ヲ定ム

第十一條 學年末ニハ該學年内ノ學期得点ヲ合計シ之ヲ三分シテ各學科ノ學年得点トシ學年得点ヲ平均シテ學年通約点ヲ定ム

第十二條 臨時試驗及定時試驗ヲ欠キタルニ依リ學期得点算出スルコト能ハサルモノニハ其學年内ニ於ケル他ノ學期得点(一回ナラハ其平均点)ヲ二分ノ一ヲ補点トシテ與ヘ其學年得点ヲ計算ス但臨時試驗若クハ定時試驗ヲ欠キタルモノハ學期得点ヲ計算スルモ亦本文ノ例ニ準ス

第十三條 學年末ニ於テ各學科ノ學年得点五十以上ニシテ學年通約點六十以上ヲ得タルモノヲ及第トス

最終學年末ニハ左ノ諸項ノ係數ヲ準シテ點數ヲ計算シ諸項ノ各點數五十以上ニシテ總通約點六十以上ヲ得タルモノヲ及第トス

- 一 第一學年通約點 係數 一
- 二 第二學年通約點 全 一
- 三 第三學年通約點 全 二
- 四 第四學年通約點 全 三
- 五 實地校業點 全 三

第十四條 試驗ノ成績ヲ調査スルニ就キ前條ニ依リ難キ場合アルトキハ尋常師範學校長ハ教員會議ノ評決ヲ取り特別ノ處分ヲナスコトヲ得

第十五條 第十三條第一項ニ該當スル者ニハ修業證書全條第二項ニ該當スル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ其證書式左ノ如シ

修業證書式

校印	
族籍	姓名
尋常師範學校第何學年ノ課程ヲ修業セシムルコトヲ證ス	生年月日
年月日	靜岡縣尋常師範學校
番號	

卒業證書式

卒業證書	
族籍	姓名
右者當校ニ於テ尋常師範學校ノ課程ヲ卒業セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス	生年月日
年月日	靜岡縣尋常師範學校長 位勳爵姓名印
番號	

第十六條 卒業者ノ席次ハ第十三條第二項ノ總通約點ヲ標準トシ在學中ノ操行ヲ參酌シテ之ヲ定ム

雜則

第十七條 生徒在學中ハ寄宿舎ニ寄宿セシム但夏季及冬季休業中ハ歸郷セシム寄宿舎ニ關スル規則ハ尋常師範學校長之ヲ定ムヘシ

第十八條 生徒ノ賞罰ハ尋常師範學校長之ヲ行フヘシ
第十九條 生徒ノ賞罰ハ左ノ諸項ニ依テ之ヲ行フヘシ

- 一 褒 狀
- 一 罰 則
- 一 戒 飭
- 二 謹 愼
- 三 修 學
- 四 退 學

生徒ニ停學退學ヲ命セントスルトキハ知事ノ指揮ヲ受クヘシ
第二十條 生徒賞罰ノ施行ニ關スル手續ハ尋常師範學校長之ヲ定ムヘシ

●學第三〇〇號 明治二十六年五月十日

靜岡縣尋常師範學校長

其校教科用圖書文部大臣ノ裁定ヲ經テ別紙目錄之通相定ム但文部省出版ニアラサル檢定未済ノ圖書ハ當分ノ間採用スルモノトス

靜岡縣尋常師範學校男生徒ニ課スヘキ教科圖書目錄

學科目	書 名	冊 數	著 譯 編 述 者	再 出 版 等 年 月 日
修身	帝國憲法 義 解	全四冊	伊 藤 伯 著	明治廿二年六月一日
普通倫理學	普通倫理學	全一冊	矢島 錦 藏 著	全廿三年十二月十二日訂正出版
教育心理學	教育心理學	全二冊	有賀長雄 講述	全廿三年十二月
俄氏新式教授術	俄氏新式教授術	全一冊	本莊 太郎 譯補	全廿五年七月
普通教育法令全書	普通教育法令全書	全一冊	栗原 諭 編輯	全廿五年三月十八日出版
學校管理術	學校管理術	全一冊	能 勢 榮 著	全廿四年七月
格氏普通教育學	格氏普通教育學	全一冊	澤柳政太郎 外一名 譯述	全廿五年十二月
ベインター氏原著 教育史	ベインター氏原著 教育史	全六冊	杉浦重剛 譯述	全廿三年三月
日本教育史	日本教育史	全二冊	佐藤 誠 實 編	全二十三年十二月
かなつかひ教科書	かなつかひ教科書	全一冊	物 集 高 見 著	全二十四年一月二日再版
國 語	國 語	全一冊	文部省 編輯 寮	全四年十一月刻
語彙別記	語彙別記	全一冊	上	全四年十一月刻
語彙活語指掌	語彙活語指掌	全一冊	上	全十七年二月出版
日用文鑑	日用文鑑	全二冊	小中村清矩 等 編輯	全二十三年十二月
中等日本本文典	中等日本本文典	全一冊	落合直文 等著	全十四年七月
校標註折たく柴の記	校標註折たく柴の記	全一冊	内藤 耻 更 標註 並 校正	全十四年七月

學 科 師範學校

二月十九日
四月十七日
八月二十七日
十一月二十七日
改正

明治二十八年三月十日
明治二十九年四月十日
明治三十年四月十日
改正

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
古今和歌集	教科日本文學小史	漢文 本朝名家文範	正文 文章軌	孟 子	近世中地理學 日本ノ部	近世中地理學 萬國ノ部	地文學教科書	中等日本歷史	支那史要	支那史要	支那史要	支那史要	支那史要	支那史要	支那史要	支那史要	支那史要	支那史要	支那史要	支那史要	支那史要
全二冊	全三冊	全三冊	全三冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全二冊	全二冊	全二冊	全二冊	全二冊	全二冊	全二冊	全二冊	全二冊	全二冊	全二冊	全二冊	全二冊	全二冊
紀貫之等奉教撰	三津上 參大	馬場健編撰	宋謝枋撰	周孟柯等著	松島剛著	全 上著	篠野乙次郎著	赤堀又次郎著	市村瓊次郎著	木村一步譯	野口保典編	田中矢德編	安積五郎外一名編	安積五郎外一名編	安積五郎外一名編	安積五郎外一名編	安積五郎外一名編	安積五郎外一名編	安積五郎外一名編	安積五郎外一名編	安積五郎外一名編
全廿七年七月三十日訂正三版	全十八年九月	全二十五年十一月	全二十六年五月	全二十五年五月	全二十六年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月	全二十五年五月

四百九十一

全 全 全
上 上 上
四月二十九日
六月三日
改正

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
中等 鑛物學	中等 生理學	中等 動物學教科書	中等 教科應用植物學	中等 教育植物學	化學 氏原著 小化學書	物理 訂士都華氏物理學	物理 增士都華氏物理學	物理 應用家計簿記法	高等 小學簿記法	立 休 幾何學	ウキルンシ氏	ウキルンシ氏	ウキルンシ氏	ウキルンシ氏	ウキルンシ氏	ウキルンシ氏	ウキルンシ氏	ウキルンシ氏	ウキルンシ氏	ウキルンシ氏	ウキルンシ氏	ウキルンシ氏
全一冊	全一冊	全二冊	全一冊	全一冊	全二冊	全二冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊
西松二郎著	平澤金之助	五島清太郎著	全 上	齊田功太郎編纂	久原躬弦 譯述	織田順次郎 譯述	清野勉增訂補譯	藤尾錄郎著	佐久間文太郎著	貞野 翠 譯	チヤンバース氏	チヤンバース氏	チヤンバース氏	チヤンバース氏	チヤンバース氏	チヤンバース氏	チヤンバース氏	チヤンバース氏	チヤンバース氏	チヤンバース氏	チヤンバース氏	チヤンバース氏
全二十五年六月	全二十八年四月	上編全二十六年七月 下編全二十六年十月	全二十六年九月	全二十六年四月再版	全二十一年十一月	全二十一年十二月	全二十一年十二月	全二十年十二月二十七日	全十九年一月	全二十三年二月出版	千八百七十八年再版	千八百七十八年再版	千八百七十八年再版	千八百七十八年再版	千八百七十八年再版	千八百七十八年再版	千八百七十八年再版	千八百七十八年再版	千八百七十八年再版	千八百七十八年再版	千八百七十八年再版	千八百七十八年再版

四百九十一

三月十日
四月十日
追加
一九一九年
四月十日

全	全	全	英語	全	全	全	全	全	全	音樂	全	全	圖書
マコーレ イナレ	ロビンソン、 クル	シエー、エン、 シール、 イシ、 ラム、 マール、 レツ	ロングマン ニエー、 リッダー ス	普通 體操 法	步兵 野外 勤務	野外 要務 令	體操 效範	體操 步兵 操典	幼稚 園唱 歌集	小學 唱歌 集	用器 畫法 圖式	用器 畫法	小學 習畫 帖
全一冊	全一冊	全一冊	卷三 卷四 二冊	全一冊	全四冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全三冊	全三冊	全三冊	全八冊
				文部 省編 纂	河井 源藏 著	全	全	陸軍 省編 纂	全	文部 省 音樂 取調 所編 纂	全	平瀬 作五 郎著	文部 省編 輯局 編纂
		全廿四年五月十九日再版		全二十五年七月出版		全二十二年出版	全二十二年八月出版	全二十四年八月出版	全二十年十二月出版	全十八年五月再版	全廿三年一月廿四日再版	全廿二年十一月十六日再版	全二十年五月再版

四百九十二

全

ナシヨナルリリーダー

自第一冊
至第五冊

●縣令第四十八號

明治三十一年九月三日

明治三十年七月縣令第四十五號靜岡縣師範學校豫備科規程左ノ通改定ス

靜岡縣師範學校豫備科規程

第一條 靜岡縣師範學校豫備科ハ師範學科ニ入學セシムヘキモノヲ養成スルモノトス

第二條 豫備科ノ學科目及其程度ハ左ノ如シ

- | | | |
|----|---|------------------------|
| 修身 | 人倫道德ノ要旨 | 每週二時 |
| 國語 | 講讀 <small>漢字</small> 、 <small>作文</small> 、 <small>日用文</small> 、 <small>漢字</small> 、 <small>文</small> 、 <small>文</small> | 全 九時 |
| 算術 | 筆算及心算 <small>加減乘除及雜題</small> | 珠算 <small>加減乘除</small> |
| 地理 | 本邦地理ノ大要 | 全 二時 |
| 歷史 | 本邦歷史ノ大要 | 全 二時 |
| 習字 | 楷書行書 | 全 四時 |
| 體操 | 兵式體操 | 全 六時 |

第三條 豫備科ノ修業期限ハ六月トス又其教授日數ハ凡二十三通日トシ每週教授時間ハ三十

四時トス

第四條 豫備科生徒ハ左ノ要件ヲ具備スルモノヨリ募集ス

學 務 簿 籍 簿 籍 簿

四百九十三

- 一 身體健全品行方正ノ男子ニシテ本縣小學校教員タルノ志望確實ナルモノ
- 二 修業年限四箇年ノ高等小校卒業ノモノ又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノ
- 三 入學ノ際年齡十五年以上十九年六ヶ月未満ノモノ
- 第五條 豫備科生徒募集ノ員數及出願ノ期限ハ其都府豫メ管内ニ告示スヘシ
- 第六條 豫備科入學志願者ハ其入學志願書ニ履歷書ヲ添ヘ師範學校長ニ差出スヘシ
- 第七條 豫備科入學志願者ノ學力ノ試験及身體ノ検査ハ師範學校ニ於テ之ヲ施行スヘシ
前項施行ノ時日ハ師範學校長之ヲ定メ本人ニ通知スヘシ
- 第八條 師範學校長ハ豫備科入學志願者ノ學力ノ試験及身體ノ検査ヲ施行シ適當ト認ムルモノ
ニハ入學ヲ許可スヘシ
- 入學志願者中適當ノ學力アリト認定スルモノアルトキハ其學力ノ試験ヲ缺クコトヲ得
但此場合ニ於テハ師範學校長ハ其旨本人ニ通知スヘシ
- 第一項學力ノ試験ハ讀書作文算術習字地理歴史ノ六科目ニ就キ修業年限四箇年ノ高等小學校
ノ程度ニヨリ之ヲ行フ
- 第九條 師範學校長ニ於テ豫備科入學志願者ニ對シ入學ヲ許可シタルトキハ其旨所轄郡市長及
本人ニ通知スヘシ

- 第十條 豫備科入學志願者入學ヲ許可サレタルトキハ保証人ヲ立テ入學證書ヲ差出スヘシ其保
証人ニ關シテハ明治廿六年縣令第三十一號師範學校生徒募集細則第九條乃至第十二條ヲ適
用ス
- 第十一條 豫備科生徒各自ニ關スル費用ハ自辨トス
- 第十二條 豫備科生徒ハ師範學校長ノ指定スル寄宿所ニ止宿セシム其寄宿所ニ關スル規則ハ師
範學校長本科生徒寄宿舍規則ニ準シ制定スヘシ
- 第十三條 豫備科生徒在學中左ノ一欸若クハ數欸ニ該當スルモノハ退學セシム
 - 一 不貞ノ行爲アリタルモノ
 - 二 實性小學校教員タルニ適セザルモノ
 - 三 身體健全ヲ缺クモノ
 - 四 學業ノ進歩不十分ナルモノ
 - 五 缺席二ヶ月以上ニ涉リタルモノ
- 第十四條 師範學校長ハ豫備科ヲ卒業シタルモノニハ左ノ證書ヲ授クヘシ

證
族籍
姓名
生年月日

右本校豫備科ノ課程ヲ卒業セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス

年月日 靜岡縣師範學校長位勳爵姓名印
番號

第十五條 豫備科ヲ卒業シタルモノハ其成績ニヨリ選抜シテ師範學科ニ入學セシム

第十六條 豫備科入學志願者ノ願書入學證書ノ書式ヲ定ムルコト左ノ如シ又其履歷書ハ明治廿

六年縣令第三十一號師範學校生徒募集細則第七條ノ書式ニ依ルヘシ

(入學志願書式)

入學志願書

私儀小學校教員志願ニ付貴校豫備科へ豫備科卒業ノ上ハ本科へ入學ノ許可ヲ得度別紙履歷書相添へ此段相願候也

道廳府縣何都市何町村大字何番地居住 (離方同居)

道廳府縣華士族平民 戶主誰男弟等

入學志願者 姓名印

靜岡縣師範學校校長某殿

前書志願者某ニ關スル身分年齡貧賤書面之通相違無之候也

年月日

何市町村長 姓名印

(入學證書式)

本人ノ印

保證人ノ印

私儀今般貴校豫備科へ入學許可相成候ニ付該科在學中ハ勿論本科へ入學ヲ命セラレ候ハ、其在學中ハ御規則ヲ守リ御指揮ヲ奉シ一意勉學成業ノ上ハ必ス本縣小學校教員ニ從事可仕候若シ不都合ノ行爲アリテ退學セシメラレ在學中御支給相成候學資ノ償還ヲ命セラレ候節ハ直ニ償還可仕候依テ證書如件

道廳府縣何都市何町村大字何番地居住 (離方同居)

道廳府縣華士族平民

本人 姓名印

年月日 前書本人ヨリ申立候事件其他本人ノ一身上ニ關スル事件ニ就テハ拙者共保證ノ責ニ任シ一切引受可申候也

靜岡縣何都市何町村何番地居住

道廳府縣華士族平民

保證人 姓名印

全

年月日

保證人 姓名 名 印

静岡縣師範學校校長某殿

前書保證人某々ハ當市町村ニ居住スル丁年以上ノ男子ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサル者ニ相違無之候也

年月日

何市町村長 姓名 名 印

第十七條 本規程ニ掲ケタルモノ、外師範學科及其生徒又ハ小學校教員講習科及其講習生ニ關スル規定ニシテ適用スルコトヲ得ルモノハ豫備科及其生徒ニ適用ス

●縣令第八號 明治二十九年一月三十日

明治廿七年一縣令第一號静岡縣尋常師範學校小學校教員講習科規程左ノ通改定ス

静岡縣尋常師範學校小學校教員講習科規程

第一條 静岡縣尋常師範學校ニ小學校教員講習科ヲ設ケ

第二條 小學校教員講習科ハ左ノ二類トシ便宜其一類若クハ其二類ヲ開設スルモノトス

第一類 尋常小學校本科正教員タルニ要スル學科ヲ講習セシムルモノ

第二類 尋常小學校本科准教員タルニ要スル學科ヲ講習セシムルモノ

前項第二類ノ講習科ヲ開設スルトキハ便宜ノ地ニ該講習所ヲ分設ス此場合ニ於テハ其所屬講習生募集ノ區域ヲ劃定ス但分設スル講習所ノ位置及其講習生募集ノ區域ハ第五條ノ例ニ依リ

之ヲ管内ニ告示ス

第三條 小學校教員講習科ノ科目及其程度ハ左ノ如シ

第一類 尋常小學校本科正教員ノ試驗科目及其程度ニ同シ

第二類 尋常小學校本科准教員ノ試驗科目及其程度ニ同シ

第四條 小學校教員講習科ノ講習期限ハ第一類ハ一ノ年第二類ハ凡六ヶ月トシ其講習ノ日數及時間ハ左ノ如シ

第一類 講習ノ日數ハ凡四十五週日トシ時間ハ每週三十四時トス但夏期休業ノ前後各二週

日間ハ二十四時トス

第二類 講習ノ日數ハ凡二十三週日トシ時間ハ每週三十四時トス但夏期休業ハ八月十日ヨ

リ同二十五日迄トシ其前後各三週日間ハ二十四時トス

第五條 講習生募集ノ員數及講習科ノ開期ハ開期ノ二ヶ月前ニ之ヲ管内ニ告示ス但講習生ノ缺

員ヲ補充スル爲メ臨時ニ募集スル場合ニ於テハ本文ノ期限ニ拘ラス之ヲ管内ニ告示ス

第六條 講習生ハ左ノ第一乃至第三ノ資格ヲ有スノモノニ就キ郡市長之ヲ選舉スヘシ但第二類

ニ在リテハ第二ヲ缺ク

一 身體健全品行方正ノ男子ニシテ小學校教員タルノ志望確實ナル者

二 高等小學校若クハ尋常小學校授業生免許狀、小學校若クハ尋常小學校本科准教員免許狀、初等小學校教員免許狀、簡易科教員免許狀、一科若クハ數科ノ小學校教員地方免許狀又ハ仮免許狀、小學校專科教員免許狀ノ一種若クハ數種ヲ有シ一ノ年以上公立小學校教員ノ

職ニ在リタル者但特別ノ事情アル場合ニ於テハ其在職期間ハ本文ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

三 第一類ニ在リテハ年齢滿十九年以上四十年未滿ノ者、第二類ニ在リテハ年齢滿十六年六月以上三十年未滿ノ者

第七條 郡市長ニ於テ講習生ヲ撰舉スルトキハ講習開期一ヶ月前ニ其本人ノ志願書及履歷書ヲ添ヘ之ヲ尋常師範學校長ヘ通報スヘシ但補缺員募集ノ場合ニ於テハ募集ノ告示ヲナシタル日ヨリ十五日以内ニ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 尋常師範學校長ハ講習志願者ノ學力ヲ試験シ適當ト認ムル者ニ講習ヲ許可スヘシ修業年限四ヶ年ノ高等小學校ヲ卒業シタル第二類講習志願者ニ就テハ前項學力ノ試験ヲ要セス但其志願者ノ員數ヲ募集ノ人員ヨリ超過シタルトキハ本文ノ限リニアラス

講習志願者ノ學力ノ試験ハ郡市長其郡市役所ニ於テ尋常師範學校長ヨリ回付シタル問題及方法ニ依リ之ヲ施行シ其答案ハ直チニ尋常師範學校長ニ送付スヘシ

尋常師範學校長ハ講習志願者ニ講習ヲ許可シタルトキハ之ヲ撰舉シタル郡市長ニ通知スヘシ
第九條 講習志願者ノ學力ノ試験ヲ施行スヘキ時日ハ尋常師範學校長之ヲ定メテ郡市長ニ通知スヘシ
第十條 講習志願者講習ノ許可ヲ得タルトキハ左ノ証書ヲ提出スヘシ

私備今般 校ニ於テ講習御許可相成候ニ就テハ御規則ヲ守リ御指揮ヲ奉シ一意勉學講習終了ノ上ハ小學校教員ニ從事可仕儀尤自身上ニ關スル事件ハ保証人ニ於テ一切引受可申儀仍テ証書如件

年月日
靜岡縣何郡市何町村何番地居住
華士族平民 戶主 姓 名 印
本人 姓 名 印
靜岡縣何郡市何町村何番地居住
華士族平民 保証人 姓 名 印

靜岡縣尋常師範學校長何某殿

第十一條 講習生ハ尋常師範學校長ノ指定スル寄宿所ニ止宿スヘキモノトス但尋常師範學校長ニ於テ其自宅ヨリ通學シ得ヘキモノト認メ許可シタル者ハ通學スルコトヲ得

第十二條 講習生講習中ノ費用ハ自辨トス但若干ノ補助ヲ與フルコトアルヘシ其補助ヲ與フヘキ人員及金額ハ講習生募集ノ際之ヲ告示ス

講習ヲ許可スヘキ者ノ員數前項但書ニ依リ補助ヲ與フヘキ者ノ定目ヨリ超過スル場合ニ於テハ尋常師範學校長其補助ヲ與フヘキ者ヲ指定スヘシ
補助金ハ通學ヲ許可シタル者ニハ給與セス

第十三條 尋常師範學校長ハ小學校教員講習科ヲ終了シタルモノニハ終了証書ヲ授與スヘシ
其證書式左ノ如シ

證	族 籍	姓 名
右ハ本校講習科ニ於テ尋常小學校本科正(准)教員タルニ要スル學科ノ講習ヲ終了シタルコトヲ証ス		生年月
年 月 日	静岡縣尋常師範學校校長姓名印	
番 號		

第十四條 小學校教員講習ノ終了証書ヲ得タル者ハ其證書受得後最近施行ノ小學校教員乙種檢定試験ニ於テ該檢定ヲ受クルノ義務アルモノトス

第十五條 小學校教員講習科ヲ終了シタル者之ニ該當セル小學校教員免許狀ヲ得タルトキハ其免狀受得ノ日ヨリ左ノ年限間本縣内ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スヘキ義務ヲ有ス

一 第一類ニ在リテハ免許狀受得ノ日ヨリ四年

二 第二類ニ在リテハ免許狀受得ノ日ヨリ三年

第十六條 前條ノ者ハ左ノ年限間其操業セラレタル都市内若クハ本縣内(都市内ニ在リテハ)於テ知事ノ指定シタル小學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス

- 一 第一類ニ在リテハ免許狀受得ノ日ヨリ二年
- 二 第二類ニ在リテハ免許狀受得ノ日ヨリ一年

第十七條 講習中不都合ノ行為等アリテ講習ヲ差止メタル者又ハ第十五條第十六條ニ規定シタル義務ヲ尽ササル者ハ講習中補助シタル學費ヲ償還セシム

第十八條 本規程ニ掲ゲタルモノ、外尋常師範學科及其生徒ニ關スル規程ニシテ適用スルコトヲ得ルモノハ小學校教員講習科及其講習生ニ適用ス

第十九條 本規程ニ關スル細則ハ尋常師範學校長之ヲ定ムベシ

第二十條 本規程發布以前ニ募集セラレタル講習生ニ就テハ第十二條第一項ノ補助額ハ一ヶ月金貳圓ヲ支給シ第十五條第一ノ服務年限ハ免許狀受得ノ日ヨリ三年トス

◎縣令第三十一號 明治廿六年三月三十一日

明治廿五年七月文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則第六條ニ依リ尋常師範學校生徒募集規則左ノ通相定ム但明治廿六年四月一日ヨリ施行ス

尋常師範學校生徒募集細則

第一條 募集スヘキ生徒ノ種類及員數ハ毎年一月中ニ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第一種ヨリ募集スヘキ生徒ノ員數ハ毎年郡市行政區域毎ニ之ヲ定ム

第二條 郡市長ニ於テ薦舉スヘキ第一種生徒ノ薦舉書ハ本人ノ志願書履歷書ト共ニ前條募集ノ告示ヲ發シタル日ヨリ二月末日迄ノ間ニ尋常師範學校ニ送付スヘシ

第二種ノ生徒ヲ志願スル者ハ其志願書ニ自己ノ身分年齢實績ニ關スル所屬市町村長ノ證明ヲ受ク前項期限内ニ之ヲ尋常師範學校ニ差出スヘシ

第三條 入學志願者ノ學力ノ試験及身体ノ検査ハ第一種ニ屬スル者ニ就テハ郡市長其郡市役所ニ於テ尋常師範學校ヨリ回付シタル問題及方法ニ依リ之ヲ施行シ第二種ニ屬スル者ニ就テハ尋常師範學校ニ於テ之ヲ施行スヘシ但本文第一種ニ屬スル者ノ試験答案及身体検査書ハ郡市長取纏メ直ニ之ヲ尋常師範學校長ヘ送付スヘシ

第四條 尋常師範學校長ニ於テ入學志願者中ニ適當ノ學力アリト認定スル者アルトキハ其學力ノ試験ヲ缺クコトヲ得

第五條 入學志願者ノ學力ノ試験及身体ノ検査ヲ施行スヘキ時日ハ尋常師範學校長之ヲ定ムヘシ

第六條 尋常師範學校長ニ於テ入學志願者ヲ採擇シテ假入學ヲ許可スルトキ又ハ第四條第五條

ノ場合ニ於テハ其旨ヲ第一種ニ屬スル者ニ就テハ郡市長ニ第二種ニ屬スル者ニ就テハ本人ニ通知スヘシ

第七條 願書薦舉書及履歷書ハ左ノ書式ニ依リ之ヲ差出スヘシ

一種入學志願者願書式

私儀小學校教員志願ノ處今般何郡(市)長ヨリ薦舉セラレ候ニ就テハ御校ヘ入學ノ許可ヲ得度別紙履歷書相添ヘ此段相願候也

道府縣何郡市何町村何番地居住(誰方同居)
近所縣郡士加平民
戸主誰男弟等
入學志願者 姓 名 印

年 月 日
靜岡縣尋常師範學校長某殿
薦舉書式
族 籍
姓 名

右ハ尋常小學校本科准教員タルヘキ免許狀(尋常小學校本科准教員ノ資格全等以上ノ學力)ヲ有シ身体健康品行方正ニシテ小學校教員タルニ適當ノ者ト認メ候ニ付別紙本人願書履歷書相添薦舉候也
年 月 日
何郡市長 姓 名 印
靜岡縣尋常師範學校長某殿

第二種入學志願者願書式

私儀小學校教員志願ニ付御校へ入學ノ許可ヲ得度別紙履歷書相添へ此段相願候也

道府縣何郡市何町村何番地居住(離方全居)

道府縣華士族平民

戸主離男弟等

入學志願者 姓 名 印

年月日 靜岡縣尋常師範學校長某殿

何某身分年齢賃調ニ關スル件書面ノ通相違無之依テ證明候也

年月日 靜岡縣何市町村長 姓 名 印

履歷書式

道府縣何郡市何町村何番地居住(離方全居)

道府縣華士族平民

戸主離男弟等

道府縣何郡市何町村 姓 名 印

生所

何年何月生
當何月何年何月

一 何年何月ヨリ何年何月何日マテ何所何學校ニ於テ何科修業

一 何年何月何所何學校ニ於テ何科卒業証書ヲ受ク(卒業証書ノ寫ヲ添付スヘシ)

一 何年何月道府縣ニ於テ甲(乙)種檢定ヲ經某小學校教員免許狀ヲ受ク(免許狀ノ寫ヲ添付スヘシ)

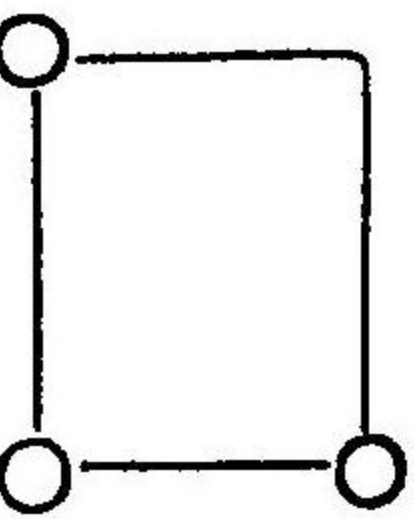
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何所何職ニ就キ何學修業
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何職ニ從事ス(辭令アルモノハ辭令ノ寫ヲ添付ス)
- 一 何年何月何所ニ於テ何職ニヨリ何賃ヲ受ク又ハ何酬ヲ受ク

年月日

第八條 入學志願者入校ノ許可ヲ得タルトキハ左ノ証書ヲ提出スヘシ

証書式

本人印



保証人印

私儀今般御校生徒ニ御撰抜入校御許可相成候ニ就テハ御規則ヲ守リ御指揮ヲ奉シ一意勉學卒業ノ上ハ必ス小學校教員ニ從事可仕候若シ不都合ノ行爲アリテ退學セシメラレ在學中御支給相成候學資ノ償還ヲ命セラレ候節ハ直ニ償還可仕候依テ証書如件

道府縣何郡市何町村何番地居住(離方全居)

道府縣華士族平民

戸主離男弟等

本人 姓 名 印

年月日 前書本人ヨリ申立候事件其他本人ノ一身上ニ關スル事件ニ就テハ抽者共保証ノ責ニ任シ一切引受ク可申候也

道府縣何郡市何町村何番地居住
道府縣籍士族平民

年月日

保証人 姓 名 印

年月日

保証人 姓 名 印

前條保証人其ノ若市町村ニ居住スル丁年已上ノ男子ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ク
ルモノニ相違無之候也
靜岡縣何市町村長 姓 名 印

第九條 保証人ハ二人ヲ要ス

保証人タルコトヲ得ル者ハ本縣下ニ居住スル丁年以上ノ男子ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ
受クサルモノニ限ル

第十條 保証人ハ其保証ヲ爲シタル生徒ニ於テ在學中給與サレタル學資ノ償還ヲ命セラル、モ
之ヲ償還スルコト能ハサルトキハ其辨償ノ義務ヲ負擔スヘシ

第十一條 保証人二人トモ尋常師範學校所在地ヨリ一里以外ニ居住スル場合ニ於テハ別ニ其
一里以内ニ居住スル者ヲ以テ代理者トシテ尋常師範學校ニ届置クヘシ

第十二條 尋常師範學校長ニ於テ保証人若クハ保証人代理者ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ馬
ノ

明治二十五年九月二十九日
縣令第三十號

明治二十五年九月二十九日 縣令第三十號 尋常師範學校卒業生服務規則第七條ニ依リ尋常師範學校卒業
生服務規則左ノ通相定ム但明治廿六年四月一日ヨリ施行ス

第一條 尋常師範學校卒業生服務規則第一條第二條ノ義務ヲ卒リタル者ハ其義務ヲ卒リタル日
ヨリ十日以内ニ經歷書ヲ具シ届出サシ其屆書經歷書ノ書式ハ左ノ如シ

私儀何年何月何日尋常師範學校卒業生服務規則第一條(第二條)ノ義務ヲ卒リ候間別紙經歷
書相添此段御届申上候也

年 月 日 職 名 何 某 印
靜岡縣知事某殿
經歷書式

住所 族 籍 何 某
何年何月何日靜岡縣尋常師範學校ニ於テ尋常師範學校卒業證書受領

- 一 何年何月何日ヨリ何年間靜岡縣何都市何町村立小學校教員奉職
- 一 何年何月何日ヨリ何年間何府縣何郡市何町村ニ於テ何々職務ニ從事ス
- 一 何々

右

年月日 何 某印

第二條 尋常師範學校卒業生服務規則第四條第一項ニ依リ指揮ヲ請ハントスル者ハ疾病ニ就テハ醫師ノ診斷書其他ノ事故ニ就テハ所屬市町村長ノ証明書ヲ添ヘ出願スヘシ

第三條 尋常師範學校卒業生服務規則第四條第二項若クハ第六條ニ依リ學費ヲ償還セシムル場合ニ於テハ特別ノ情狀アルモノ、外一時ニ之ヲ還納セシム

第四條 尋常師範學校卒業生服務規則第五條ニ依リ報告スヘキ服務ノ狀況報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但學務ニ關スル他ノ公職ニ從事スル者ハ其職務上取扱ヒタル事務ノ概要及轉勤轉職賞罰等ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

- 一 其學校ノ種類名稱及所在地名
- 二 其學校ニ就學スル生徒男女ノ現在數
- 三 其學校學級ノ編制教員ノ配置方
- 四 其受持テ學級若クハ教科目
- 五 其受持テ生徒ノ男女員數及教授時間數

- 六 其學校生徒教育ノ成績ノ大要
- 七 教育ニ關スル實驗上利アリト認メ若クハ害アリト認メタル事項
- 八 擔任若クハ分掌スル教育事務ノ要項
- 九 前項報告以後ニ係ル轉勤轉職及賞罰等職務上ノ事項
- 十 右ノ外其必要ト認メタル事項

●學第八八號 明治二十六年二月二十三日

其校生徒學費支給方法別紙之通相定ム但明治廿六年四月一日ヨリ施行ス

靜岡縣尋常師範學校生徒學費支給方法

食物

第一項 食物ハ毎月定額ノ費用ヲ支給シ之ヲ賄ハシム但學校休業中若クハ病氣等ノ爲メ歸郷セシムルトキハ之ヲ支給セス此場合ニ於テハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第二項 被服ハ一定ノ時期ニ於テ之ヲ給シ若シ所定ノ期限内ニ於テ之ヲ損傷シ更ニ交付スルヲ要スルトキハ其費用ハ本人ヨリ徴収スヘシ

被服ノ種類及其支給法左ノ如シ

- 一冬 衣 袴 一ヶ年ニ一組ヲ給ス
- 一夏 衣 袴 一ヶ年ニ一組ヲ給ス

- 一 冬シャツ 袴下 入学ノ初年二組ヲ給シ次年ヨリ毎年一組ヲ給ス
- 一 夏シャツ 袴下 全上
- 一 靴 在學中一枚ヲ給ス
- 一 靴 在學中二足ヲ給ス
- 一 脚 入学ノ初年二足ヲ給シ次年ヨリ一組ヲ給ス
- 一 脚 在學中二個ヲ給ス
- 一 靴 在學中二足ヲ給ス

雜費

第三項 雜費ハ日用品費修理湯浴費及療養費ノ三種トス

第四項 日用品ハ一定ノ時期ニ於テ之ヲ給シ若シ所定ノ期限内ニ於テ之ヲ損傷シ若クハ不足ヲ生スルトキハ之ヲ自辨セシムヘシ

日用品ノ種類及其支給法左ノ如シ(二十七年學第九)

- 一 墨 一年一瓶ヲ給ス
- 一 牙粉 一年一瓶ヲ給ス
- 一 剃鬚刀 入学ノ時一本ヲ給ス
- 一 剃鬚刀 二年生一ヶ月一本ヲ給ス
- 一 剃鬚刀 三年生一ヶ月一本ヲ給ス
- 一 剃鬚刀 四年生一ヶ月一本ヲ給ス
- 一 剃鬚刀 五年生一ヶ月一本ヲ給ス
- 一 剃鬚刀 六年生一ヶ月一本ヲ給ス
- 一 剃鬚刀 七年生一ヶ月一本ヲ給ス
- 一 剃鬚刀 八年生一ヶ月一本ヲ給ス
- 一 剃鬚刀 九年生一ヶ月一本ヲ給ス
- 一 剃鬚刀 十年生一ヶ月一本ヲ給ス

- 一 石 筆 三ヶ月一本ヲ給ス
- 一 鉛 筆 一ヶ月一本ヲ給ス
- 一 畫用鉛筆 一、二、四年生三ヶ月二本ヲ給ス
- 一 駿河半紙 一ヶ月九帖ヲ給ス
- 一 幾何用紙 一、二年生一ヶ月半枚ヲ給ス
- 一 畫用紙 二年生一ヶ月一枚四年生全半枚ヲ給ス
- 一 トウサ引美濃紙 三年生一ヶ月十枚四年生全三枚ヲ給ス
- 一 野入西洋紙 二ヶ月一帖ヲ給ス
- 一 木 炭 一ヶ月一本ヲ給ス
- 一 堅 炭 冬期五ヶ月間十四貫四百目ヲ給ス
- 一 石 油 一ヶ月五合ヲ給ス
- 一 摺附木 一ヶ月六個ヲ給ス
- 一 洋 燈 心 一自習室一ヶ月一本ヲ給ス
- 一 帳 燭 一寢室一ヶ月一本ヲ給ス
- 一 銃 拭 六ヶ月二尺ヲ給ス
- 一 銃 磨 粉 一ヶ月二匁ヲ給ス
- 一 棒 油 一ヶ月五匁ヲ給ス

第五項 修理湯浴費ハ被服ノ洗濯靴ノ修履並湯浴ノ費用トシ湯浴ハ寄宿舎構内ニ其場ヲ設ケ其
他ノ費用ハ需用ニ應ジ之ヲ支給ス

第六項 療養費ハ療養ヲ命シタルモノニ其費用ヲ支給ス
 第七項 給與シタル被服及日用品ハ卒業シテ退學スルモノニ在テハ之ヲ返納セシムルヲ要セス
 ト唯モ中途退學ヲ命シタルモノハ其時ノ現存品ヲ悉皆返納セシム

◎告示第二十二號 明治二十五年四月七日

静岡縣尋常師範學校附屬小學校授業料規則左之通相定ム

静岡縣尋常師範學校附屬小學校授業料規則

- 第一條 授業料ハ一學年尋常科金三圓六十錢高等科金五圓トシ納期ヲ一月四月七月十月ノ四回ニ分チ尋常科ハ金九十錢高等科ハ金一圓二十五錢ヲ其月十日ニ納付セシムルモノトス
 單級ニ編制シタル尋常科ニ於テハ授業料ヲ徴収セス(三十一年當宗第三十二号ヲ以テ修正)
 第二條 授業料ハ一家二人以上就學スルトキハ一人ハ前額其他ハ半額ヲ納付セシムルモノトス
 第三條 授業料ハ本校ノ休業又ハ生徒各自ノ欠課有無ニ拘ハラズ在學ノ期間ハ納付セシムルモノトス但本校ノ休業三ヶ月以上ニ及フトキハ本文ノ限リニアラス
 第四條 授業料ハ毎納期ノ翌月十五日迄ニ入學スルモノハ該一期間ノ全額ヲ納付セシメ同十五日後ニ入學スルモノハ半額ヲ納付セシムルモノトス
 第五條 授業料ハ納付後退學スルモノアルモ之レカ下戻ヲナサルモノトス

◎學第五八一號

明治二十八年八月十四日

静岡縣尋常師範學校

其校職員服制左之通改正ス

但此際一時ニ本令ニ依リ難キ事情アルモノハ明治二十九年六月末日迄從前ノ制服ヲ着用スルコトヲ得

静岡縣尋常師範學校長教諭助教諭訓導服制圖例

形 狀	地 質	眼 庇	頤	紐	前 章	横 條 章
帽子如圖	絨濃紺	獨 革	黑皮巾三分五厘卸金メツキ櫻章ヲ附ス徑三分	金メツキ徑凡八分其形狀如圖	蠟蛇服トス長ハ大小五線放線ハ同三線助教諭訓導ハ同二線トス但大線ハ小線二條ヲ合セタル者トス如圖	

(雜形容ス)

形 狀	地 質	胸 章	袖 章	製 式
上衣如圖	絨黑又ハ紺	黑毛糸組角紐胸部左右各五個ヲ附ス(訓導ハ除之)如圖(訓導ハ除之)	帽子横條章ト同シ	襟巾一寸二分金邊及背面ノ縫際ニ巾八分ノ黑線ヲ附ス
袴 圖 如	上衣ニ同シ	巾八分ノ黑線ヲ兩側ニ附ス		

學 事 師範學校

形 狀	地 質	卸	袖 章	製 式
外套 如圖	絨黑又ハ紺	金メツキ圓形ノ櫻 卸各六個ヲ胸部左 右ニ附ス	黒蛇腹トス校長ハ 三線教諭以下ハ一 線ヲ附ス	長靴履ノ上ヲ照ル 大約八寸トシ襟巾 二寸トス

一 委任官待遇ノ教諭ハ朝橫條章及上衣並ニ外套袖章ニ小線一條ヲ增加ス

一 夏服ハ白色ヲ用キルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ朝ニ白ノ日覆ヲ附スヘシ但袴兩側ノ章ナ

名 稱	形 狀	地 質	卸	製 式
マント	如圖	絨黑又ハ紺裏適	胸部ニ三箇ヲ付ス	長 手甲ノ照ルヲ以 テ長トス 襟巾二寸

一 マントハ外套ニ代用スルコトヲ得

●縣令第十號 明治二十六年二月十五日

明治二十三年法律第九一號府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法第十
九條ニ基キ縣會ノ意見ヲ聞キ縣立師範學校及中學校書記退職料及遺族扶助料規則左ノ通相定ム

縣立師範學校及中學校書記退職料及遺族扶助料規則
第一條 縣立師範學校及中學校書記ニハ本則ノ規定ニ從ヒ退職料ヲ給ス

第二條 在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退職料ヲ給ス

一 年齡六十歳ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ

二 傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲メ退職ヲ命シタルトキ

三 廢校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第三條 左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退職料ヲ給シ尙ホ其最下金額
十分ノ七マテノ増加退職料ヲ給ス

一 職務ニ依リ傷病ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサ
ルカ爲メ退職ヲ命シタルトキ

二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受ケルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾
病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲メ退職
ヲ命シタルトキ

第四條 官吏恩給法第六條第十一條及第十五條ハ本則ニ規定スル退職料ニ適用ス

第五條 退職料ノ年額ハ退職現時ノ俸給ト在職年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在職滿十五年以上十

六年未滿ニシテ退職シタル者ノ退職料年額ハ俸給年額ノ三百六十分ノ六十トシ十五年以後滿

一年毎ニ三百六十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至ツテ止ム但在職四十年以上ノ者ニ給スヘキ退職

料ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ退職料ハ十五年ノ額トス

兼職ニ依ツテ受ケル加俸ハ退職料年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ

退隱料年額單位未滿ノ數ハ四位ニ滿タシム

第六條 在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終リトス

明治十五年一月以前ヨリ在職ノ者ハ同年同月ヨリ起算ス

第七條 自己ノ便宜ニ依リ第十一條第一項ノ給與ヲ受ケサル者他日復ヒ書記ノ職ニ就クトキハ前ノ在職年數ヲ以テ退隱料等ハ給與上ニ關スル在職年數ニ算入スヘキモノトス但其給與ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル後三ヶ月内ニ之ヲ受ケサルコトヲ申立サリシモノニ就キテハ本文ニ依ルノ限リニアラス

第八條 左ニ掲ケル年數及月數ハ退隱料等ノ給與上在職年數ヨリ除算スルモノトス

- 一 年齡二十歲未滿ノ在職年數及月數
 - 二 本則第九條第一項及第十條ニ依リ退隱料ヲ給セサルモノ再ヒ職ニ就キタルトキハ其前在職年數及月數
 - 三 兼職中ノ在職年數及月數
- 第九條 退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其以後退隱料ヲ給セス
- 一 失職ニ該當スヘキ現職中ノ所爲確定シタルトキ
 - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
 - 三 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

四 第二條第二及第三條ニ依リ退隱料ヲ受クル者復ヒ其職務ニ堪フルニ至リ就職ヲ命スルモ其職ニ就カサルトキ又ハ第二條第三ニ依リ退隱料ヲ受クル者書記ノ職ニ就クコトヲ命スルモ其職ニ就カサルトキ但其俸給ハ退職現時ノ俸給ヨリ少額ナラス且年齡未タ六十歲ニ至ラサル場合ニ限ル

五 許可ヲ經スシテ公務ニ就キタルトキ退隱料ヲ受クルモノ左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其時間退隱料ヲ給セス

六 公務ニ就キ退職現時ノ俸給額ト同額以上ノ給料ヲ受タルトキ

七 三ヶ年以上受領ヲ怠リタルトキ

八 公權ヲ停止セラレタルトキ

第十條 年齡未タ六十歲ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退隱料ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 在職滿一年以上五年未滿ニシテ退職シタル者ハ退職現時ノ俸給一ヶ月分ニ當ル金額ヲ給シ其滿五年以上十一年未滿ニシテ退職シタルモノハ俸給二ヶ月分ニ當ル金額ヲ給シ其滿十一年以上十五年未滿ニシテ退職シタル者ハ俸給三ヶ月分ニ當ル金額ヲ給ス但左ニ該當スルモノハ本文ノ限ニアラス

第十二條第三條ニ依リ退隱料ヲ受クル者

自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者

第十二條 縣立師範學校及中學校ノ書記左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ本則ノ規定ニ從ヒ其遺族ニ

扶助料ヲ給ス

- 一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ
- 二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲メ死去シタルトキ
- 三 退隱料ヲ受クル者死去シタルトキ

第十三條 官吏遺族扶助法第四條ハ本則ニ規定スル遺族扶助料ニ適用ス但同條第二項ノ扶助料年額ハ亡夫ノ俸給ニ對シ本則第五條ニ依リ算出シタル恩給年額三分ノ二トス

第十四條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死去シ又ハ婚嫁シ若クハ戸籍ヲ去リタルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

第十五條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ戸主ニ非サル者ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養女子トナリ又ハ年齢二十歳ニ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシテ女子ヲ後ニス

第十六條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孫兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒死去若クハ婚嫁シ又ハ寡婦戸籍ヲ去リ又ハ孤兒他家ノ養子女トナリ若クハ年齢二十歳ニ滿ツルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ修身給スルコトアル

ヘシ

前項ノ扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ又ハ戸籍ヲ去リタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第十七條 官吏遺族扶助法第七條乃至第九條第十五條第十六條ハ本則ニ規定スル遺族扶助料ニ適用ス

第十八條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニアルニ十歳未滿又ハ痲疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一ク年分ヨリ少ナカラス五ク年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラズ一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトアルヘシ

第十九條 扶助料ハ左ノ時ヨリ之ヲ給セス

- 一 寡婦死去又ハ婚嫁シ若クハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月
- 二 孤兒死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齢二十歳ニ滿チタル月ノ翌月
- 三 父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月

第二十條 在職十五年未滿ノ者在職中職務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職最終ノ俸給年額百五十分ノ一ヲ在職年數ニ乘シタル額トス但一年未滿ノ在職月數ハ計算セズ

第二十一條 退隱料及遺族扶助料並第十一條第一項ノ給與金ハ本人又ハ之ヲ受クヘキ遺族ノ請求ニ依リ之ヲ給與ス但之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後退隱料及遺族扶助料ハ三ヶ年内第十一條第一項ノ給與金及第二十條ノ扶助金ハ三ヶ月内ニ請求セザレハ之ヲ給セズ

第二十二條 退隱料及遺族扶助料ハ市町村立小學校教員退隱料遺族扶助料法ニ依リ退隱料若クハ遺族扶助料ヲ受クル者若クハ之ヲ受クヘキモノ及巡査看守給助例ニ依リ給助ヲ受クル者若クハ之ヲ受クヘキ者ニハ之ヲ給セス但其金額本則ノ規定ニ從ヒ受クヘキ金額ヨリ少ナキトキハ其同額ニ滿ツル迄ノ金額ノミヲ給ス

第二十三條 本則ニ關スル細則ハ別ニ之レヲ定ム
第二十四條 本則ハ明治廿六年四月一日ヨリ施行ス

●縣令第四十八號 明治二十六年五月二十七日

縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料細則左ノ通相定ム

縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料細則

第一章 退隱料請求

第一條 縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第二條乃至第四條ニ依リ退隱料ヲ受クヘキ者ハ退隱料請求書ヲ作り退職ノ際勤務セシ學校長ヲ經由シ知事ニ差出スヘシ

第二條 退隱料請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 在職中ノ履歷書
- 二 市町村長ノ証明シタル戸籍調書

第三條 職務ニ依リ傷病ヲ受ク若クハ疾病ニ罹リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ掲クル書類ノ外尙左ノ書類ヲ添付スヘシ官吏恩給法第六條ヲ適用スヘキモノ亦同シ

- 一 現認證書若クハ事實ヲ證スル公文ノ寫又ハ口供書
- 二 醫師ノ診斷書

第四條 退隱料ノ請求ヲ許可シタルトキハ第一番式ノ退隱料證書ヲ交付ス但退隱料増加ノ爲メ更ニ退隱料證書ヲ交付スルトキハ前ニ交付シタル證書ヲ返納セシム

第五條 縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第十一條第一項ニ依リ給與金ヲ受クヘキ者ハ給與金請求書ヲ作り在職中ノ履歷書ヲ添へ退職ノ際勤務セシ學校長ヲ經由シ知事ニ差出スヘシ

前項ノ請求ヲ許可シタルトキハ第三番式ノ辭令書ヲ交付ス

第六條 縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第二十二條但書ニ依リ退隱料ヲ請求スルトキハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ受ク若クハ受クヘキ退隱料ノ金額又ハ巡查看守扶助例ニ依リ受ク若クハ受クヘキ扶助ノ金額ヲ請求書ニ記載スヘシ

第七條 縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第十一條第一項ノ給與金ヲ受クザルコトヲ申立ル者ハ退職ノ際勤務セシ學校長ヲ經由シ知事ノ承認ヲ受クヘシ

第二章 扶助料ノ請求

第八條 縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第十二條乃至第十七條第二十條ニ依リ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者ハ扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ作り本籍市町村長ノ配賦ヲ受ク退隱料ヲ受クスシテ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ死者ノ最終勤務セシ學校長ヲ經由シテ知事ニ扶助料ヲ受ク死去シタル者ノ遺族又ハ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ニ在テハ直ニ知事ニ差出スヘシ

學校長ハ其所屬學校書記ノ遺族ノ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキモノアルトキハ扶助料又ハ扶助金ノ請求上必要ノ書類ヲ遺族ニ交付スヘシ

第九條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ニハ市町村長ノ證明シタル戶籍調査及左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第十二條第一第二項ニ當ル者ノ請求書ニハ學校長ヨリ交付シタル死者ノ履歷書
- 二 縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第十二條第三ニ當ル者ノ請求書ニハ死者ノ退隱料證書
- 三 官吏遺族扶助法第四條第二項ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ傷病若クハ疾病ノ職務ニ起因シタル証據書類醫師ヲシテ診察セシメタルトキハ其診斷書及退隱料ヲ受クスシテ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受ク死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第四ノ書類ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受クヘキ孤兒ニ在テハ本條第四ノ書類ニ在テハ本條第三ノ書類扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ孤兒ニ在テハ本條第四ノ本文書類
- 四 扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ扶助料証書但公權停止ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ本文書類ノ外前者ノ確定裁判ノ宣告書寫
- 五 官吏遺族扶助法第十五條ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニ其事由ヲ詳記シタル書類醫師ノ診斷書及退隱料ヲ受クスシテ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受ク死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第二ノ書類公務ニ起因スル傷病若クハ疾病ニ依リ死去シタルモノ、孤兒ニ在テハ本條第三ノ書類扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ孤兒ニ在テハ本條第四ノ本文書類

第十條 縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第廿二條但書ニ依リ扶助料ヲ請求スルトキハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ受ク若クハ受クヘキ退隱料ノ金額又ハ巡查看守扶助例ニ依リ受ク若クハ受クヘキ補助ノ金額ヲ請求書ニ記載スヘシ

第十一條 扶助料ノ請求ヲ許可シタルトキハ第二書式ノ扶助料證書ヲ交付シ扶助金ノ請求ヲ許

百可シタルトキハ第四書式ノ辭令書ヲ交付ス

第十二條 縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第十八條ニ掲ケタル給與金ノ請求等ハ扶助金ノ例ニ依ルヘシ但癩疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサルモノ、請求書ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

前項ノ請求ヲ許可シタルルハ第三書式ノ辭令書ヲ交付ス

第三章 退隱料扶助料ノ支給及停止

第十三條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クルモノ其金額ヲ受領セントスルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ以テ其支給セラルヘキモノナルコトヲ證明スヘシ

第十四條 退隱料又ハ扶助料ハ其年額ヲ四分シ一月四月七月十月ニ於テ其前三ヶ月分ヲ本人居住地ノ市町村長ヲ經テ支給ス

縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第九條第一項第十九條ノ場合及給與金扶助料ハ朔月ニ拘ハラズ之ヲ支給ス

第十五條 公立學校職員退隱料及遺族扶助料規則第十五條第一第三第四第五ハ縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第九條ニ於ケル支給終始ニ適用ス

縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第九條第一項第四ニ當ルトキハ任用辭令

ヲ受ケタル日同項第五ニ當ルトキハ公務ニ就キタル日ヲ以テ退隱料ノ支給ヲ終ル

公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則第十六條ハ縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第十七條ニ依リ官吏遺族扶助法第十六條ヲ適用スル場合ニ於ケル支給終始ニ適用ス

第十六條 公立學校職員退隱及遺族扶助料支給規則第十七條ハ縣立師範學校及中學校書記退隱料規則第三條ノ増加退隱料ニ適用ス

第十七條 第四條第十一條ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ本人ヘ交付シタルトキハ本縣在籍ニシテ本縣在住ノ者ニ在テハ同時ニ之ヲ其本籍並在住地ノ市町村長ニ他ノ遺屬府縣在籍ニシテ本縣在住ノ者ニ在テハ其在住地ノ市町村長ニ通知ス

前項通知ノ後本人縣下他ノ市町村ニ轉住シタルトキハ更ニ之ヲ其轉住地ノ市町村長ニ通知ス

第四章 雜 則

第十八條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クルモノ轉籍又ハ轉住シタルトキハ直ニ其旨縣廳ヘ届出ヘシ

第十九條 本縣在籍者ニシテ退隱料又ハ扶助料ヲ受クルモノ左ノ事項ニ當ルトキハ其本籍市町村長ヨリ直ニ縣廳ヘ報告スヘシ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

- 二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
- 三 公權ヲ停止セラレタルトキ
- 四 寡婦婚嫁シ又ハ戸籍ヲ去リタルトキ
- 五 孤兒婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ又年齢二十歳ニ滿チタルトキ
- 六 父母祖父母戸籍ヲ去リタルトキ
- 七 死去シタルトキ

第二十條 水火災盜難等ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ亡失シタルモノハ事由ヲ具シ縣廳

ヘ届出ヘシ但本縣在住者ニ於テハ其市町村長ヲ經由スヘシ

前項ノ届出ヲ受ク事實相違ナシト認ムルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ノ原本ヲ作り交付ス其謄本ハ本證書ト同一ノ効力アルモノトス

第廿一條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クルモノ氏名ヲ改メタルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ添ヘ縣廳ヘ届出ヘシ但本縣在住者ニ於テハ其市町村長ヲ經由スヘシ

前項届出ヲ受クタルトキハ證書裏面ニ其事實ヲ記載シ署名捺印シテ更ニ之ヲ本人ニ交付ス

第廿二條 退隱料證書又ハ扶助料證書ハ退隱料ヲ受クルモノ死去シ其遺族ニシテ扶助料ヲ受ク

ヘキモノナキトキ及縣立師範學校及中學校書記退隱料及遺族扶助料規則第九條第一項ニ當ルトキ及ヒ扶助料ヲ受クルモノ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

及同規則第十九條ニ當リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ返納スヘシ

(書式略ス)

一 大 澤 町 費 目 日 額 日

第 四 章 中 學 校

●告示第四十號 明治二十九年三月三十一日

明治二十九年告示第二十六號靜岡縣尋常中學校規則左ノ通り改正ス

靜岡縣尋常中學校規則

目 次

- 第一章 學科課程及學年
- 第二章 入學在學退學
- 第三章 進級卒業及證書
- 第四章 授業料
- 第五章 特待生
- 第六章 生徒心得
- 第七章 服制

第八章 懲戒及賠償
第九章 生徒寄宿舎
第十章 生徒ノ學費

静岡縣尋常中學校規則

第一章 學科課程及學年

第一條 本校ノ學科目ハ倫理國語及漢文英語歷史地理博物物理及化學數學習字圖画体操トシ簿記ヲ隨意科目トス其課程ハ別表ノ如シ

第二條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ハ之ヲ三學期ニ分ツ

第一學期 四月一日ヨリ七月廿日ニ至ル

第二學期 九月十一日ヨリ十二月廿五日ニ至ル

第三學期 一月八日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第三條 一學年間ノ休業日ハ左ノ如シ

一 大祭日 祝日 日曜日

二 定時試驗後 二週間以内

三 夏期 七月廿一日ヨリ九月十日マテ

四 冬期 十二月廿六日ヨリ翌年一月七日マテ

第二章 入學在學退學

第四條 生徒ノ入學ハ每學年ノ始メニ於テ之ヲ許ス

但時宜ニ依リテハ臨時ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第五條 本校ノ第一級ニ入學スルコトヲ得ヘキ者ハ身體健康年齡滿十二年以上ニシテ高等小學校第二級ノ課程ヲ卒リタル者若クハ之ニ均シキ學力ヲ有スル者トス其他ノ級ヘ入學スルコトヲ得ル者ハ前項ノ例ニヨリ相當ノ年齡ニ達シ身體健康ニシテ其課程ヲ修メ得ヘキ學力ヲ有スルモノトス

第六條 本校第一級入學者ノ學力ノ檢定ハ高等小學校第二級ノ課程ヲ卒リタル志願者ニ對シテハ其修業証書ニ依リ其他ノ志願者ニ對シテハ試驗ニ依ル

高等小學校第二級ノ課程ヲ卒リタル志願者ニハ其他ノ志願者ニ先チ入學ヲ許ス

但高等小學校第二級ノ課程ヲ卒リタル志願者ノ數入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ仍試驗ニ依リテ入學者ヲ撰拔スヘシ

第七條 本校第一級ノ入學試驗ハ高等小學校第二級ノ課程ヲ卒リタル者ニ對シテハ讀書作文習字算術ニ就キ其他ノ志願者ニ對シテハ尙日本歷史日本地理ヲ加ヘ高等小學校第二級ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ

第八條 入學ヲ許スヘキ生徒ノ人員及入學試驗ノ期日等ハ生徒募集ノ都度新聞紙ヲ以テ廣告

スヘシ

第九條 入學志願者ハ左式ノ願書及履歷書ヲ差出スヘシ其願書及履歷書ハ入學志願者自ラ之ヲ

認メテ

認メテ

(用紙左東紙)

高等小學校第二學期願書式

其後入學志願者ハ御校第何年級ニ入學志願ニ付御許可被成下度尤モ入學ノ上ハ御規則等堅ク相守

テ可申候故ニ別紙履歷書和添此段願書上候也

何府縣何郡市何町村何番地居住

何府縣何郡市何町村何番地居住

何府縣何郡市何町村何番地居住

何府縣何郡市何町村何番地居住

何府縣何郡市何町村何番地居住

何府縣何郡市何町村何番地居住

何府縣何郡市何町村何番地居住

何府縣何郡市何町村何番地居住

某印

履歷書式

(用紙左東紙)

學業履歷書

住所族籍

何 某

何年何月何日生

何年何月何府縣何郡市何町村(私)立何々小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科(修業年限何々

年)若クハ高等小學校ノ教科(修業年限何々年)卒業又ハ何學年修了

一 何年何月何日何公(私)立學校ニ於テ何科卒業若クハ其第何年修了

一 何年何月ヨリ何年何月迄何地ニ於テ何業ニ就キ何學卒業

右之通りニ候也

何 某印

第十條 生徒入學許可ノ際ハ其父兄若クハ父兄ノ代理人付添ヒ出校スヘシ

第十一條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ左ノ保証書ヲ差出スヘシ

保証書式

保証書

何府縣何郡市何町村何番地居住

(寄留ナレハ寄留地ヲモ記入スヘシ)

壹圓
紙券

何府縣華士族平民某子弟等

何

某

何年何月何日生

右者今般御校へ入學被差許候ニ就テハ御規則等堅ク爲相守且本人在學中ニ關スル事件ハ一切私共ニ於テ引受可申依テ保證書如此候也

靜岡縣何郡市何町村何番地居住
何府縣華士族平民

年月日

(第十二條第二ノ關) 保證人

何

某印

全

(第十二條第二ノ關) 保證人

何

某印

學校長宛

第十二條 保證人ハ二名ニシテ左ノ各項ニ適合スル者ニ限ル

但シ不適當ト認ムルトキ又ハ第十四條ノ手續ヲ怠リ若クハ學校長ノ召喚ニ應セサルトキハ學校長ニ於テ之ヲ取替ヘシムルコトアルヘシ

一 現ニ靜岡縣下ニ居住シ一戸ヲ構ヘ相當ナル家計ヲ立ツル成年以上ノ男子ニシテ且治産ノ禁ヲ受ケサルモノ

但シ一名ハ當該學校ヨリ一里以内ニ居住スルモノ

二 父兄後見人親戚若クハ父兄後見人ニ代リ生徒監督ノ責ヲ負フニ足ルヘキモノ

第十三條 保證人改姓名改印若クハ居ヲ轉スル等ノコトアルトキハ其旨速ニ學校ニ届出ツヘシ

第十四條 保證人死亡若クハ第十二條第一第二ノ要件ヲ失ヒタルトキハ直ニ他人ヲ以テ之ヲ代

ヘ保證書ヲ差換フヘシ

第十五條 生徒在學中ハ學校長ノ許可ヲ得テ自宅又ハ保證人ノ宅ヨリ通學スルモノ、外總テ寄

宿舍ニ入舍セシム

但寄宿舍滿員ノトキハ學校長ノ指揮ニ依ルヘシ

第十六條 生徒半途ニシテ退學ヲナスコトヲ得ス若シ止ムヲ得サル事情アリテ退學セント欲スルトキハ兩保證人連署ヲ以テ學校長ニ願出ツヘシ

第十七條 引續キ落第第二回ニ及ヒタルルモノ又ハ教員會議ニ於テ成業ノ見込ナシト評決シタルモノハ生徒名籍ヲ削除ス

第三章 進級卒業及證書

第十八條 生徒進級ハ學年評点ニ依リ每學年末之ヲ行フ

第十九條 學年評点ハ學年ノ終ニ於テ學科毎ニ各學期ノ評点ノ平均点ノ二倍ト定時試驗ノ得点

トノ和ヲ三除シテ之ヲ定ム
 但操行点ハ各學期評点ノ平均点ヲ以テ直ニ學年評点トス
 第二十條 學期ノ學科評点ハ日々ノ課業ニ附シタル評点ニ缺席度数ヲ參酌シテ之ヲ定メ操行点
 ハ平素ノ言行ヲ查察シテ之ヲ定ム
 但日課点ヲ附シ難キ學科ニ就キテハ臨時小試験ヲ行ヒ之ヲ定ム

第二十一條 定時試験点ハ學年ノ終ニ於テ試験ヲ施行シテ之ヲ定ム
 第二十二條 每學期ノ終ニ於テ學期評点ニ依リ生徒ノ序次ヲ定ム
 第二十三條 操行点及各學科ノ評点ハ一百ヲ以テ定點トス
 但數學科ハ算術代數幾何三角法ヲ以テ各一學科ト見做シ英語科及國語漢文科ハ左表ノ類別
 依リ各學科其ノ類別一學科ト見做シ評点ヲ附與スルモノトス

學科類別	第一類	第二類	第三類
國語及漢文科	國語講讀 漢文講讀	國語講讀 漢文講讀	國語講讀 漢文講讀
英語	譯讀 解力	全上	全上
第一類	習字	文法	作文 文法
第二類	習字	文法	作文 文法
第三類	習字	文法	作文 文法

學科類別	第一類	第二類	第三類
國語及漢文科	國語講讀 漢文講讀	國語講讀 漢文講讀	國語講讀 漢文講讀
英語	譯讀 解力	全上	全上
第一類	習字	文法	作文 文法
第二類	習字	文法	作文 文法
第三類	習字	文法	作文 文法

第二十四條 學年評点ニ於テ操行ノ評点ハ六十各學科ノ評点ハ四十五以上ニシテ通約點六十以上ニ達シタル者ヲ及第トス
 但定時試験ニ於テ一學科三十點ニ滿タサル學科アルトキハ落第トス
 第二十五條 左ノ一ニ該當シ操行評点七十五以上ヲ得タルモノハ平素ノ成績ヲ考ヘ教員會議ノ議決ニ依リ次學年ノ始ニ於テ追試験ヲ施行スルコトアルヘシ
 疾病又ハ止ムヲ得サル事故アリテ定時試験ニ於テ全學科又ハ數學科ヲ欠席シタルモノニシテ各學期評点ノ通納平均点七十以上ヲ得タルモノ
 追試験ハ欠席ニ關ル學科ニ就キテ之ヲ行フモノトス
 第二十六條 學年評点ハ之ヲ生徒ニ示シ學期評点ハ之ヲ示サス
 第二十七條 第一學年乃至第四學年ノ學年評点ニ及第點ヲ得タルモノニハ修業證書ヲ第五學年

評点ニ及第点ヲ得タル者ニハ卒業証書ヲ授與ス其書証書式左ノ如シ

修業証書式

修業証書

何府縣華士族平民

何

某

何年何月日

校印

尋常中學校第何學年ノ課程ヲ修業セシコトヲ証ス

年月日

學校名

番號

卒業證書

卒業證書

何府縣華士族平民

何

某

何年何月日

校印

尋常中學校ヲ履修シ正ニ其業ヲ卒フ仍テ之ヲ証ス

年月日

學校長

姓

名印

番號

第四章 授業料

第二十八條 授業料ハ一學年間金拾參圓貳拾錢トシ八月ヲ除キ月割ヲ以テ納付スルモノトス

第二十九條 授業料ハ學校ノ休業又ハ生徒ノ欠席シタル場合又ハ停學ヲ命シタル場合ニ於テモ

免除セサル者トス

第三十條 授業料納期ハ毎月二十日限トス

第三十一條 納期內ニ授業料ヲ納メサルモノアルトキハ保証人ヨリ納付セシメ若シ其未納翌月

二十日ヲ起エルトキハ生徒名簿ヨリ削除シ其未納ニ係ル授業料ハ保証人ヨリ徴収ス

第五章 特待生

第三十二條 生徒獎勵ノ爲メ品行端正學業優秀ノ者五名以内ヲ撰拔シテ一學年ヲ限り特待生ト

ナスコトアルヘシ特待生ハ授業料ヲ免除ス

第三十三條 特待生ヲ置カントスルトキハ學校長教員會議ニ付シ其性行學力ノ成績等ヲ具シ知

事ノ許可ヲ受ケ之ヲ行フモノトス

第三十四條 特待生ニシテ品行不良學業懈怠等ノコトアルトキハ學校長ハ教員會議ニ付シ其待

遇ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ學校長ヨリ事情ヲ具シ知事ニ開申スヘシ

第六章 生徒心得

第三十五條 生徒タル者ハ常ニ左ノ各項ヲ服膺スヘシ

- 第一 忠孝ノ念須臾モ忘ルヘカラサルコト
- 第二 校規ヲ恪守シ師長ニ恭順ナルヘキコト
- 第三 學業ヲ勵ミ行狀ヲ慎ムヘキコト
- 第四 信義ヲ重シ友愛ヲ厚クスヘキコト
- 第五 艱難ニ堪ヘ志氣ヲ堅クスヘキコト
- 第六 容儀ヲ整ヘ威重ヲ保ツヘキコト
- 第七 禮讓ヲ尙ヒ廉耻ヲ厲ムヘキコト
- 第八 敬愛ヲ旨トシ公義ヲ重ンスヘキコト
- 第九 節儉ヲ專トシ浮華ヲ戒ムヘキコト
- 第十 飲食起居ヲ慎ミ身体ノ健全ヲ保ツヘキコト

第三十六條 生徒タルモノハ常ニ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

- 第一 尊長ニ對シテハ勿論生徒互ニ敬禮ヲ行フヘシ
- 第二 學校長教員ノ命ニ從ヒ教室ノ整頓清潔ニ注意スヘキコト
- 第三 外出ニハ制服制帽ヲ用非若クハ制帽ヲ冠シ及袴ヲスヘキコト
- 第四 學術研究會又ハ其他ノ集會ヲ開キ又ハ團體ヲ設ケントスルトキハ豫メ學校長ノ許可ヲ請フヘキコト

第三十七條 生徒タル者ハ左ノ所爲アルコトヲ禁ス

- 第一 三名以上合同シテ意見ヲ申立テ又ハ學校長教員ニ對シ強テ面陳若クハ答辯ヲ求ムルコト
- 第二 黨ヲ結ビテ學校長又ハ教員ニ對シ抵抗又ハ強迫ノ舉動ヲ爲スコト
- 第三 課業ノ妨害ヲ爲シ又ハ合同開課スルコト
- 第四 喫煙飲酒ヲ爲スコト
- 第五 料理店又ハ飲食店其他店舖ニ於テ飲食等ヲ爲スコト
但旅行先キニ於テ喫飯スルニ其限ニアラス
- 第六 演劇場若クハ寄席ニ立入ルコト
- 第七 漫リニ糸竹ヲ玩ヒ鄙俗ナル詩歌ヲ吟詠スルコト
- 第八 服裝及所持品ノ華奢ナルコト
- 第九 金錢ヲ貸借スルコト
- 第十 學校及其往復中ニ規定外ノ服裝ヲ爲シ又ハ襟卷ヲ爲スコト
但疾病其他特別ノ事情ニヨリ學校長ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス
- 第十一 右ノ外何事ニヨラス學生ノ本分ニ反シ學校ノ体面ヲ汚スヘキ所業ヲ爲シ又ハ學校長ノ禁制シタル事項ニ違犯スルコト

第七章 服制

第三十八條 生徒ハ總テ所定ノ服制靴雨具ヲ着用スヘシ

第三十九條 夏服ハ六月一日ヨリ十月十五日迄之ヲ用非冬服ハ十月十六日ヨリ翌年五月卅一日迄之ヲ用非ルモノトス